

2016
MIDAS
トンネル・開削分野
技術講座資料及び
解析事例集 **1** / 2

Global Leader in Providing Engineering Solutions & Services

MIDAS ITは世界の技術者を支援します



世界 構造解析分野市場占有率1位(midas Gen/iGen)
韓国 建築分野/土木分野/地盤分野CAEソフト占有率1位
中国 土木/地盤構造解析分野市場占有率1位 (midas Civil, midas GTS)

建設業界	No.1	現地法人	8
海外代理店	35	使用国	110

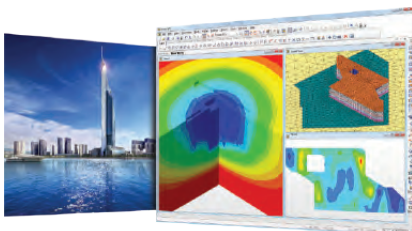
About MIDAS IT

MIDAS ITは、工学技術用ソフトウェア開発および普及、そして構造分野のエンジニアリングサービスとウェブビジネス統合ソリューションを提供する会社です。

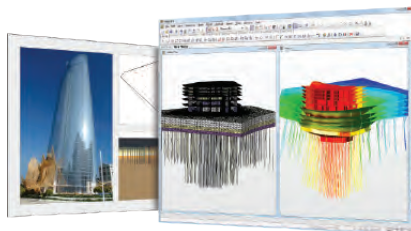
2000年9月に設立、現在は約600名のグローバル専門技術者が在籍し、日本、アメリカ、中国、インド、ロシア、イギリス、ドバイ、シンガポールの現地法人や35ヶ国の代理店など、全世界ネットワークを通じ、110ヶ国に工学技術用ソフトウェアを販売する世界的な企業として成長しました。

また、技術者の皆様の技術力向上のために各分野別に技術講座を実施しており、今後もこのような技術講座を定期的に開催していきたいと考えております。

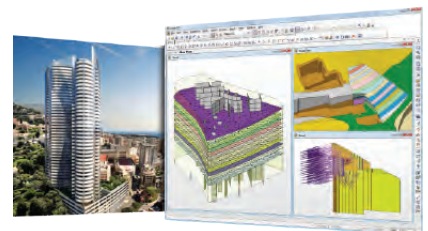
このようなセミナーに是非ともご参加頂けますようお願い申し上げます。



Dubai Tower



Palazzo Versace & D1 Tower



Odeon Tower

2016 MIDAS

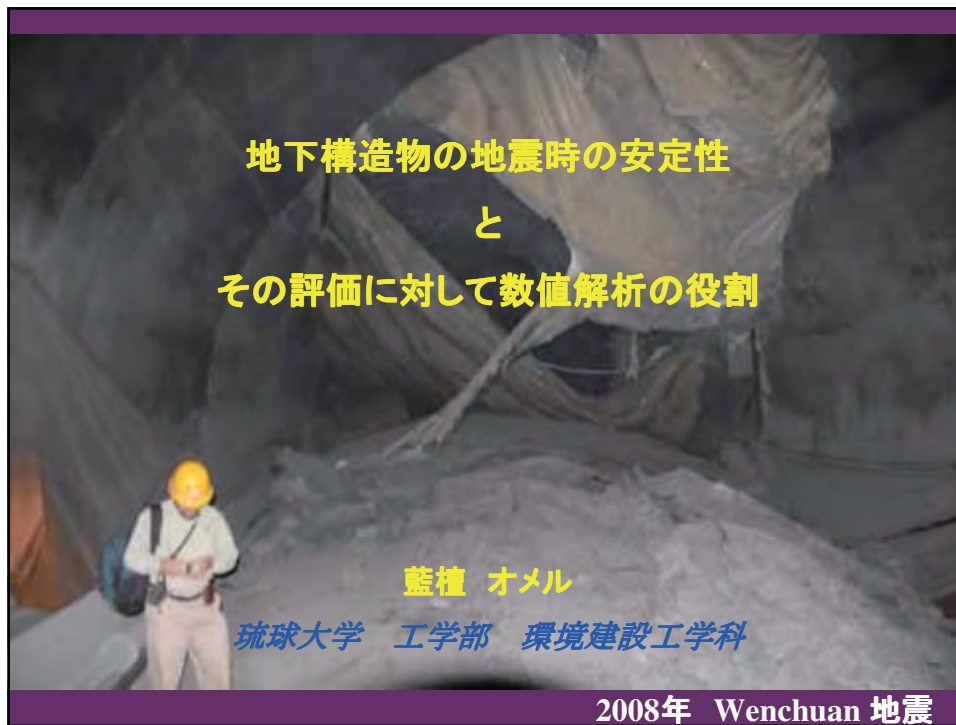
トンネル・開削分野

技術講座資料及び解析事例集 **1**/₂

- | | | |
|-----------|---|---------|
| 01 | 地下構造物の地震時の安定性とその評価に対して数値解析の役割
琉球大学 工学部 環境建設工学科 藍檀 オメル 教授 | 03-60 |
| 02 | 3次元 FEM解析(トンネル掘削問題)
株式会社フジタ 池内 正明 様 | 61-82 |
| 03 | 避難連絡坑を考慮したトンネル 3次元解析モデル
株式会社フジタ 徳永 高志 様 | 83-102 |
| 04 | 作業用横坑より本線トンネルを施工する際の施工過程の応力変形解析
株式会社クレアテック 鈴木 崇史 様 | 103-115 |

01 地下構造物の地震時の安定性とその評価に対して数値解析の役割

琉球大学 工学部 環境建設工学科 藍檀 オメル 教授



内容

- 1) 地下構造物は何か
- 2) 近年地下構造物の動向
- 3) 地震の構造物の影響および地下と地上における地震動
- 4) 地震による地下構造物の被害
- 5) 地下構造物の地震時の応答および被害
- 6) 各種地下構造物の地震時の安定性に関する数値解析
- 7) 今後の課題

地下構造物は何か

トンネル

地下発電所

シェルター

石油・天然ガスの貯蔵

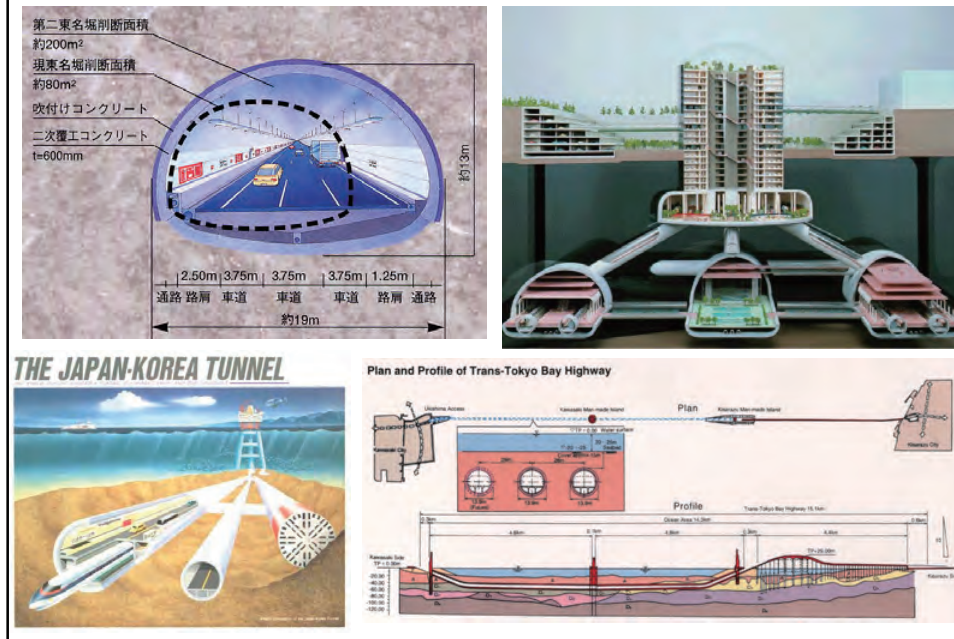
工場

放射性廃棄物の地層処分

スポーツホール・プール・会議場・レストラン

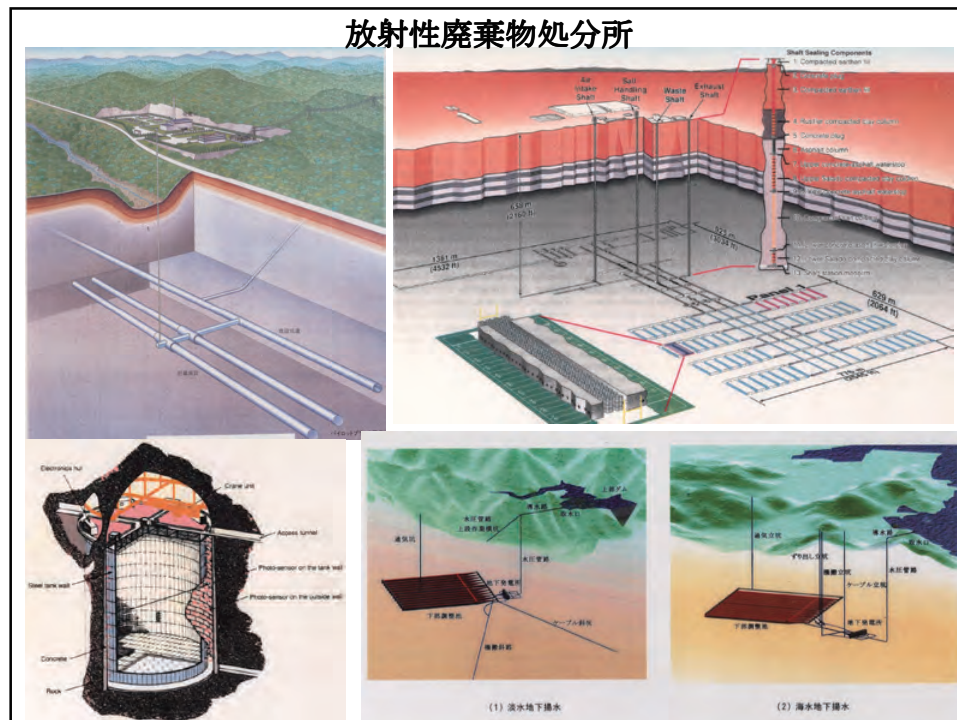


トンネル（鉄道、道路、水道、地下鉄）

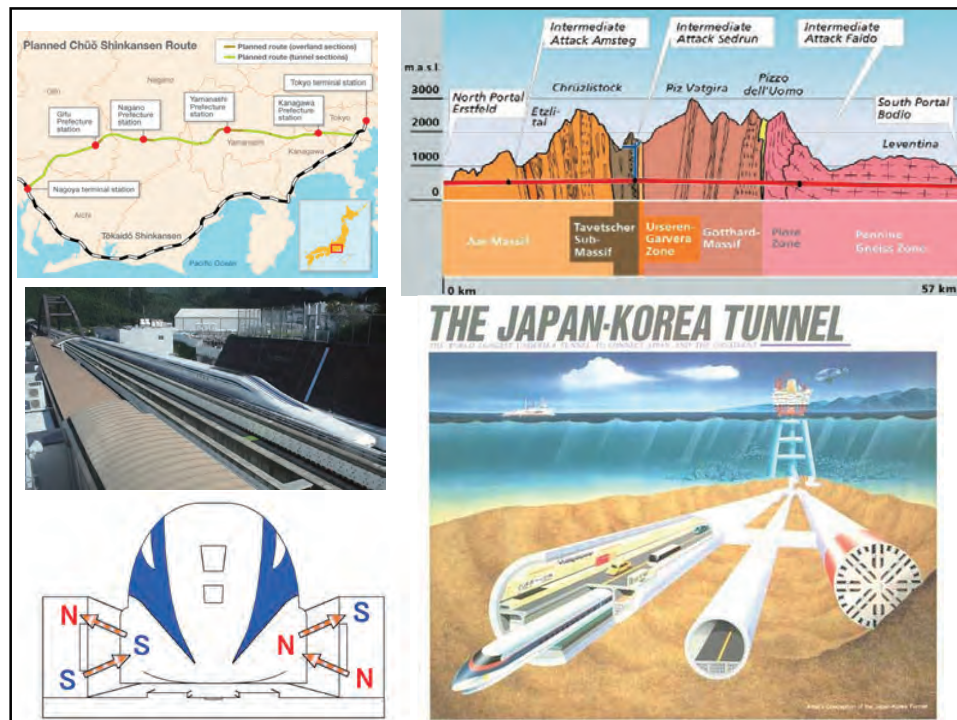


地下空洞（発電所、貯蔵（石油、ガス）、洪水制御地下タンク、放射性廃棄物処分所）

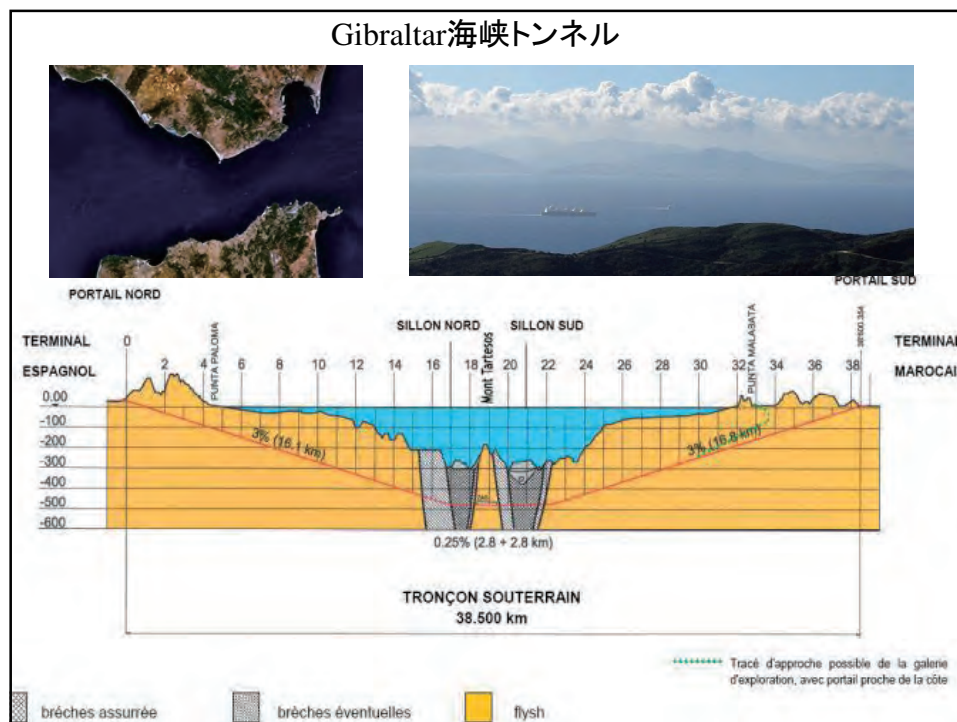




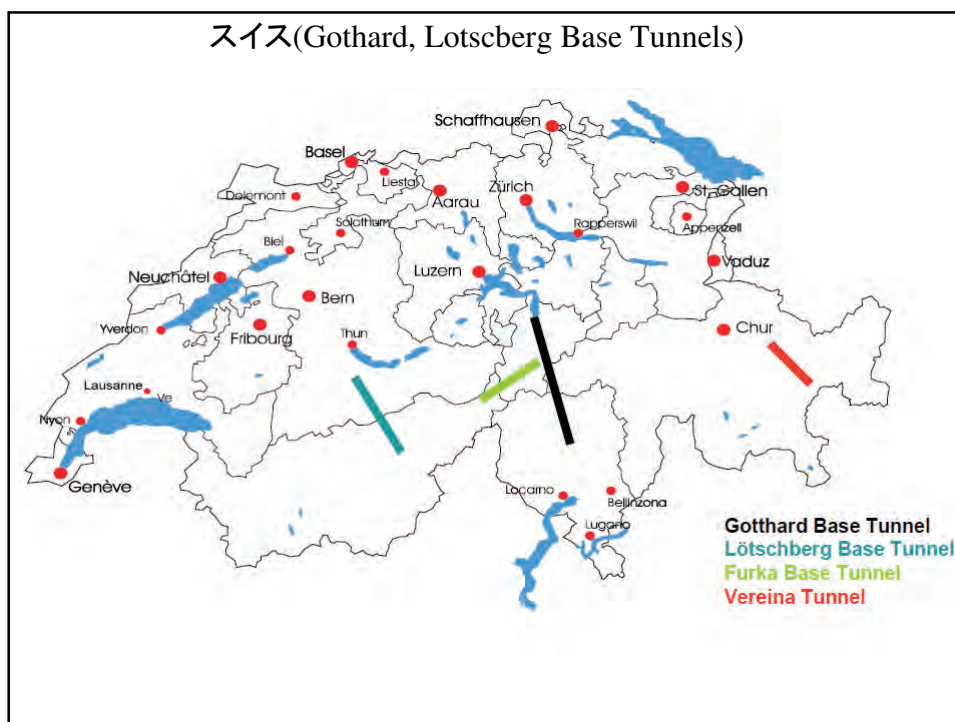
2) 近年地下構造物の動向



Gibraltar海峡トンネル

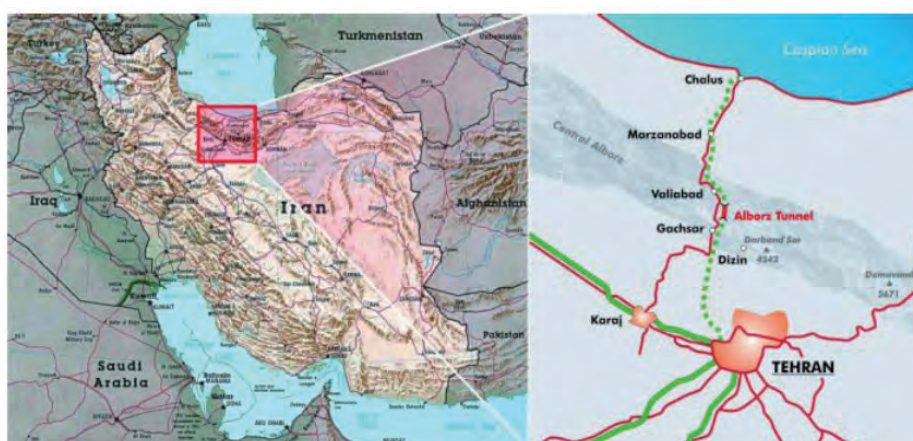


スイス(Gothard, Lotschberg Base Tunnels)



イラン

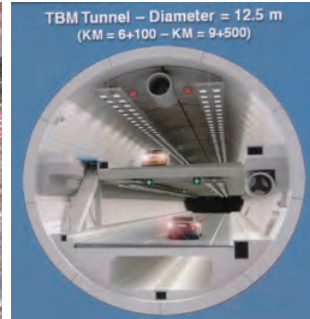
(Alborz Base Tunnel)



Qomroud Long Tunnel, Nosoud Tunnel)

トルコ

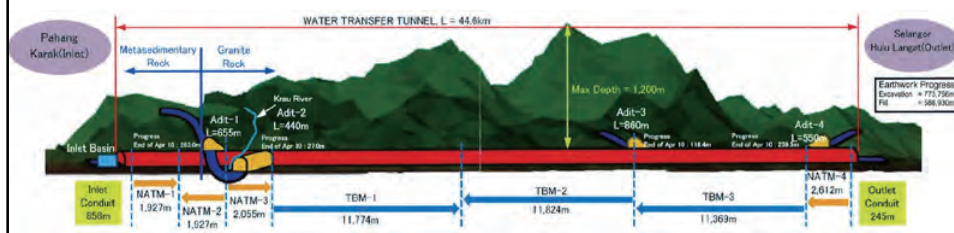
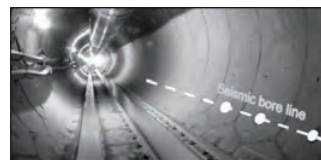
(Istanbul Strait Tunnel, Metro Tunnels, Rapid Train Tunnels)

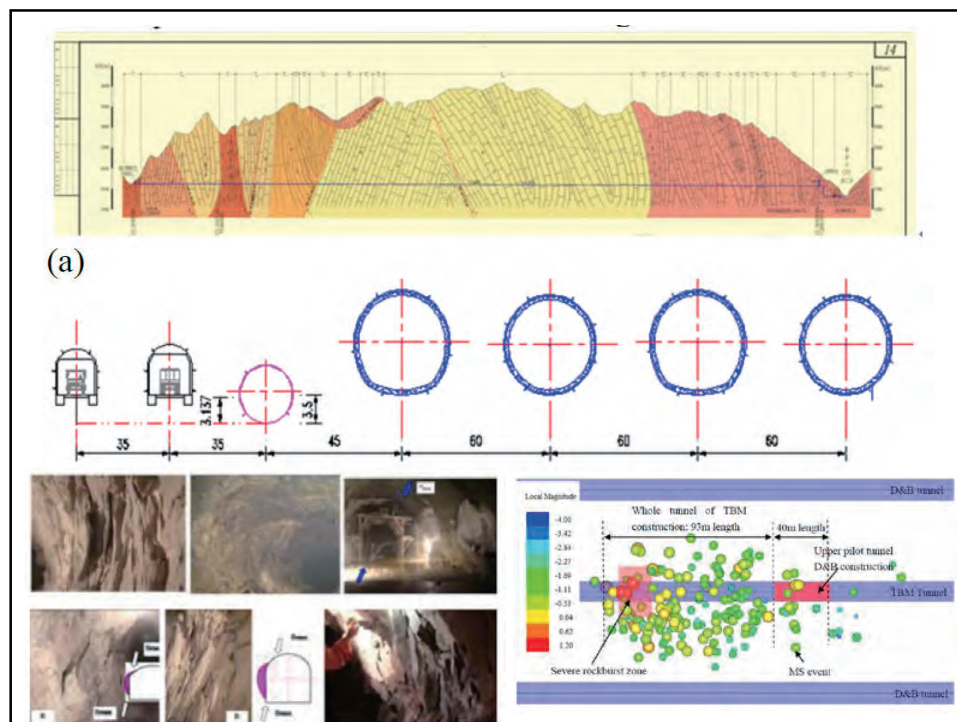


マレシア (Pahang-Selangor Water Transfer Project)



清水: 西松JV
 長さ: 44.6km
 最大土かぶり: 1200m



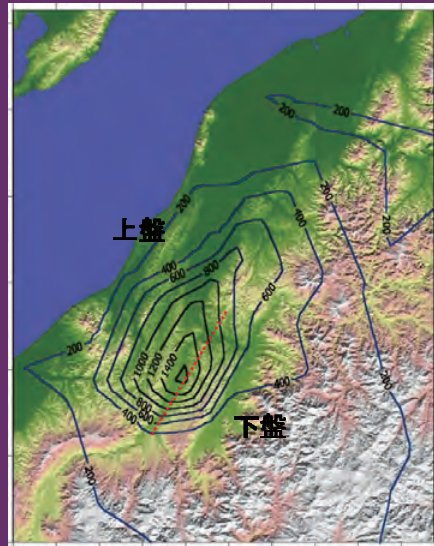


地震の構造物の影響および

地下と地上における地震動

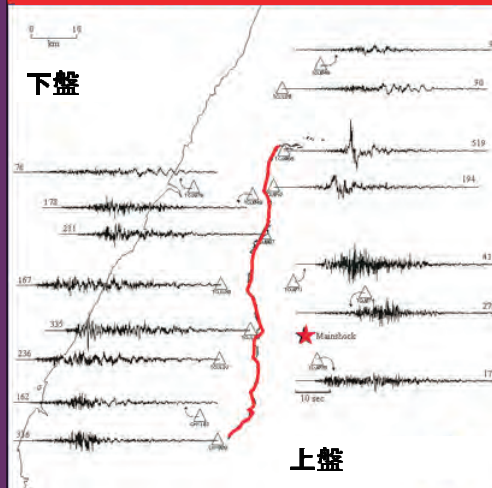
- 1) 振動、増幅、断層の上盤・下盤の影響
 - 2) 永久変形・ひずみの影響
- 断層運動
地盤の変状(傾斜地盤)
液状化

地表面の地震動（加速度）

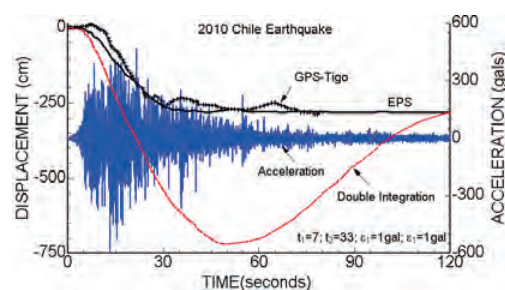
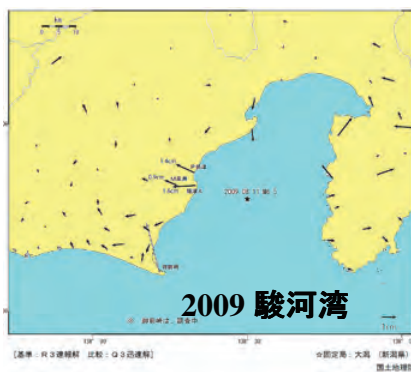
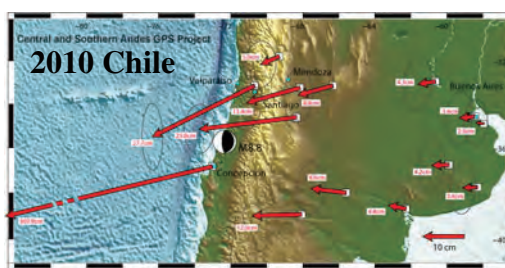
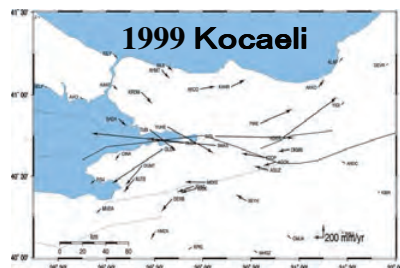


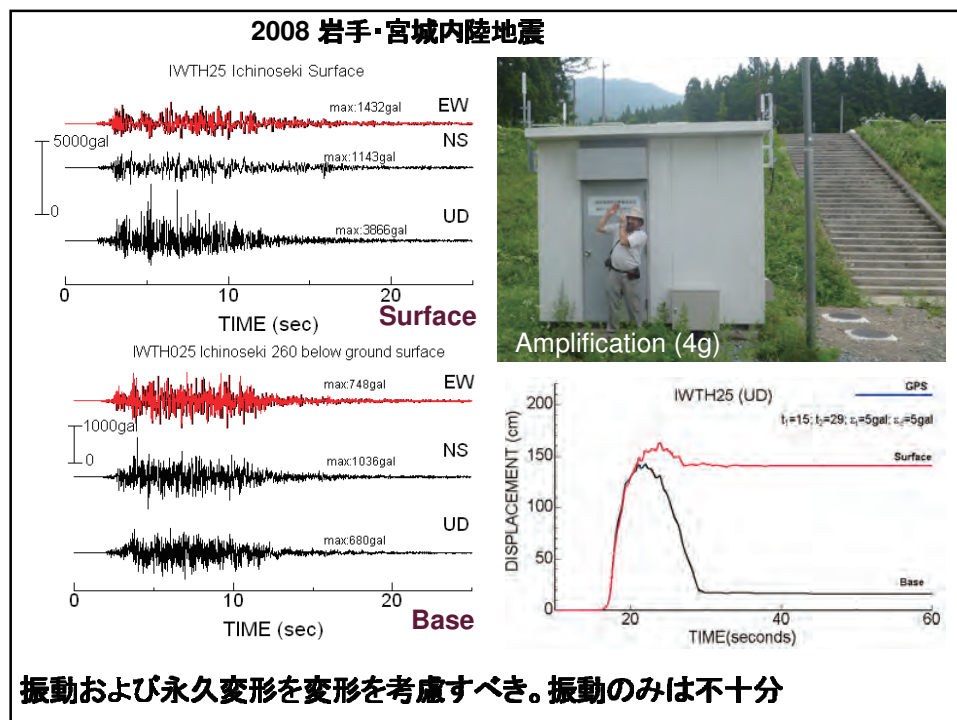
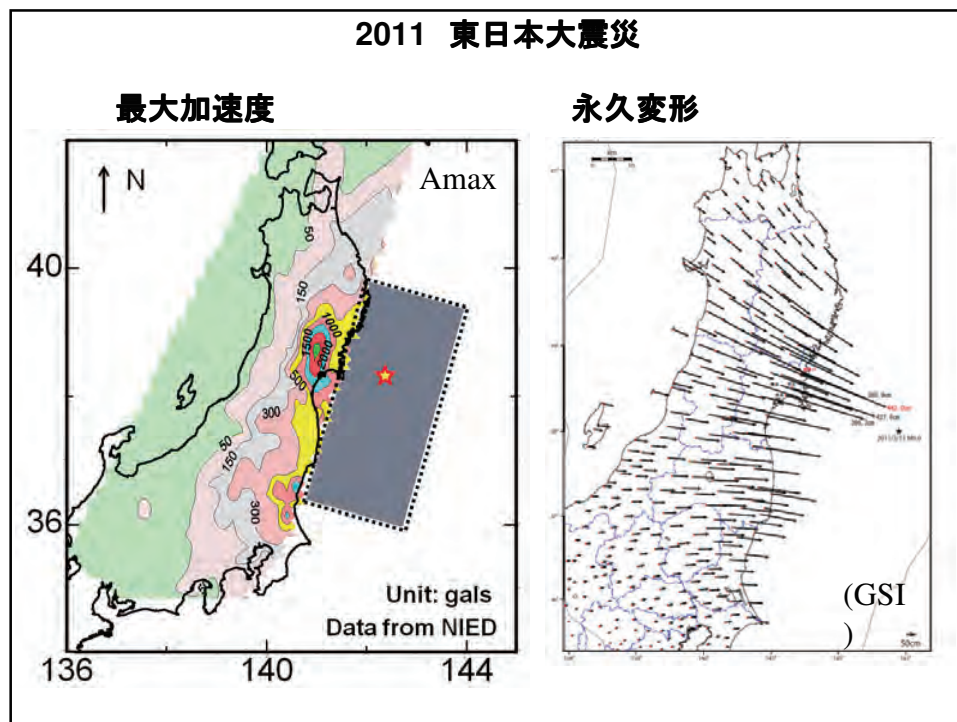
1999 集集地震(UD)

下盤

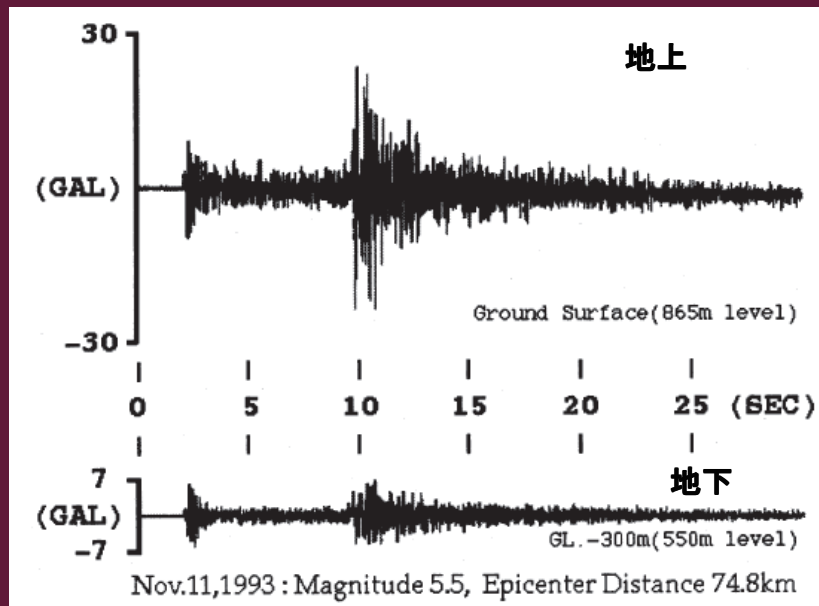


永久変形

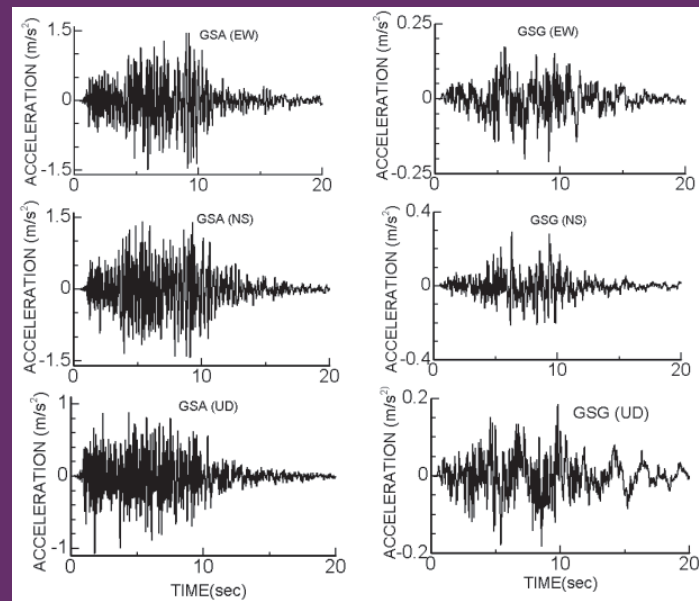




釜石地下実験場



増幅



地上

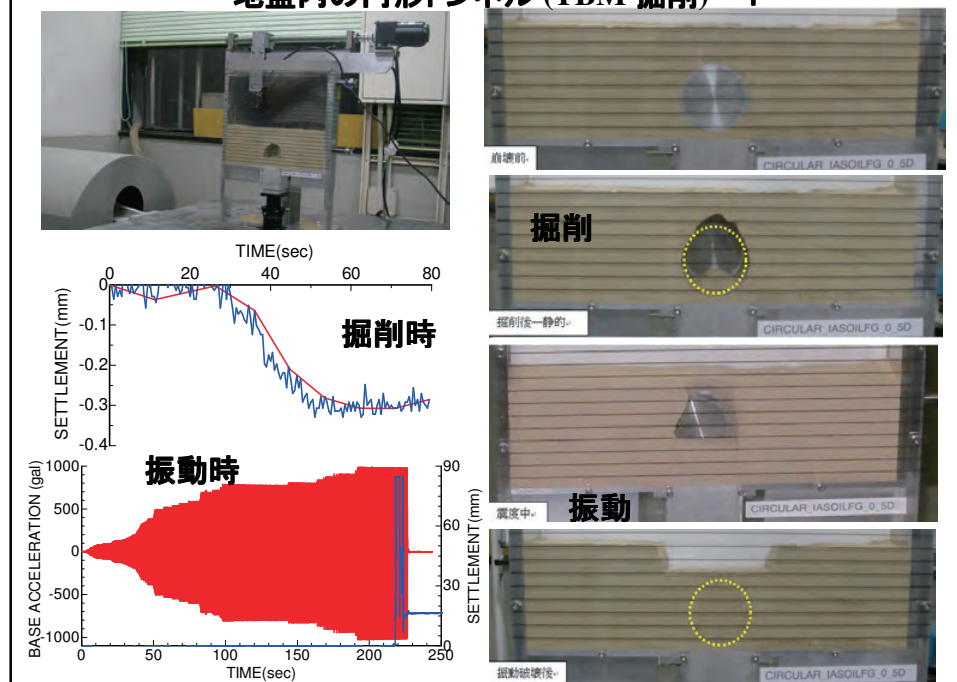
地下

2009 L'Aquila地震

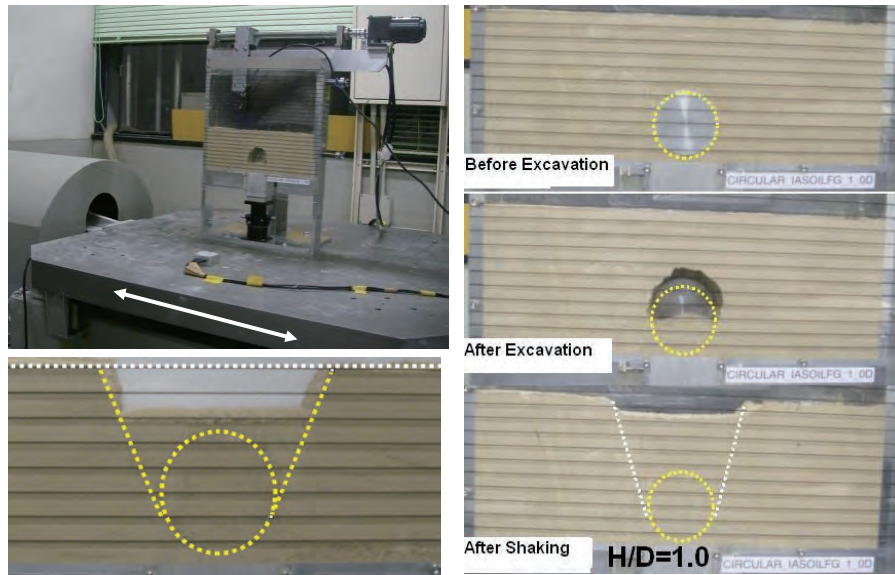
地震による地下構造物の被害

- 1) 室内模型実験
- 2) 国内外の被害例

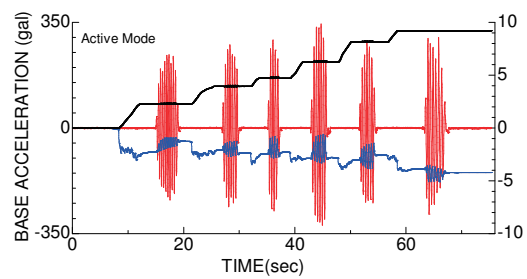
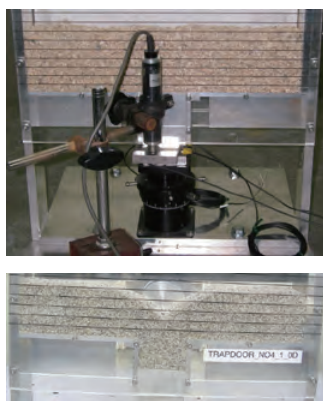
地盤内の円形トンネル (TBM 掘削) - 1

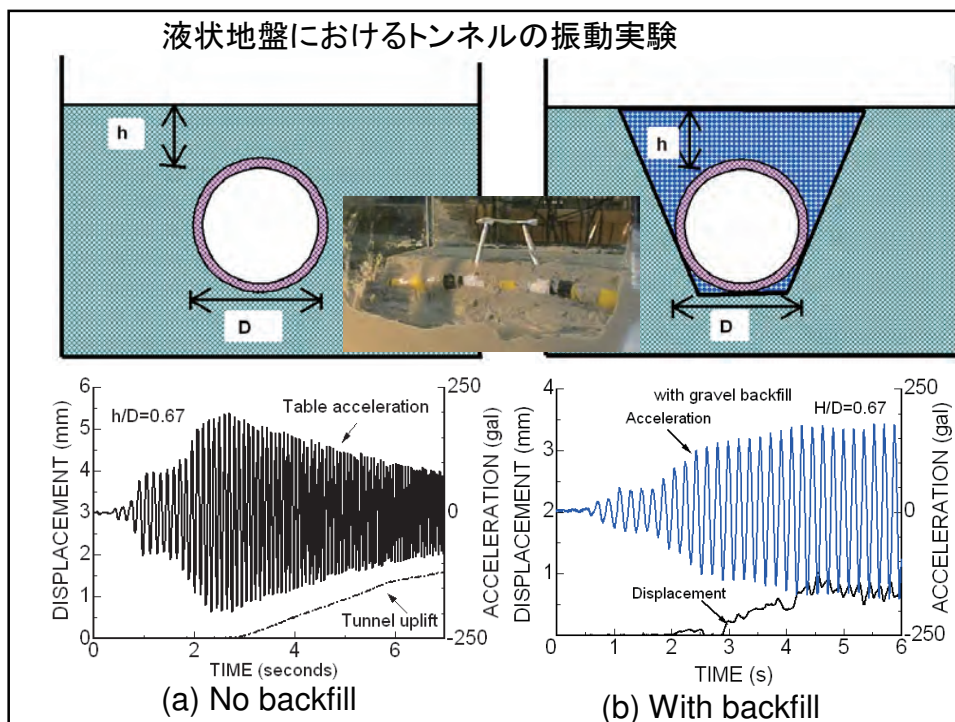
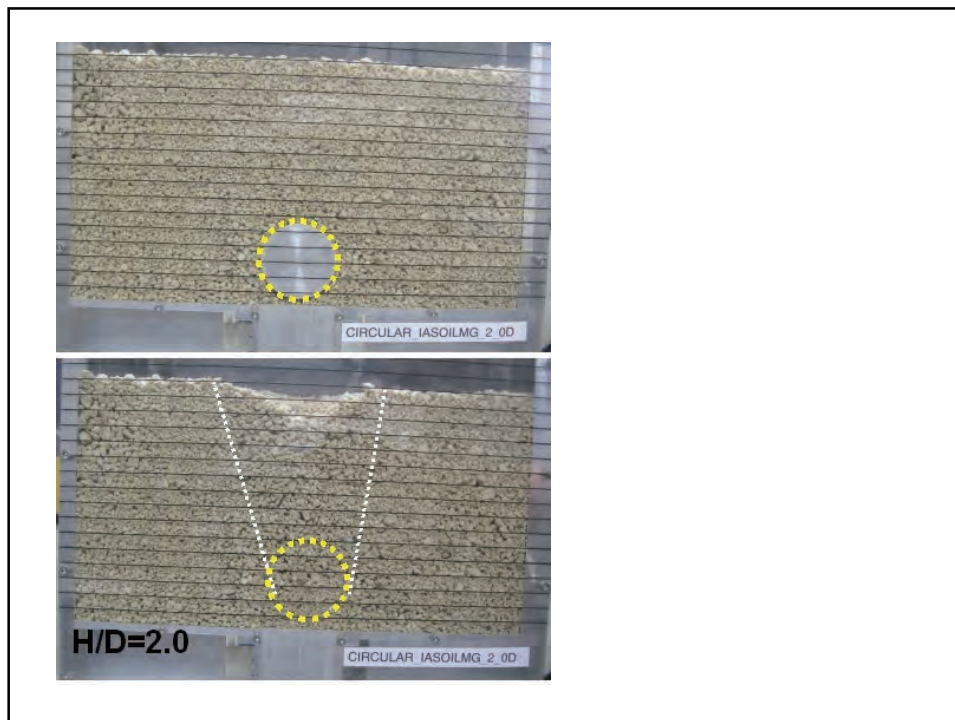


地盤内の円形トンネル (TBM 掘削) - 2

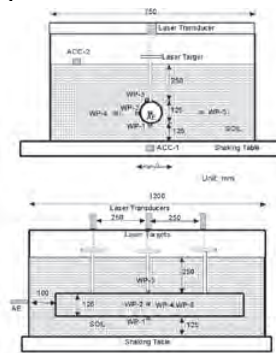


動的おとし戸実験

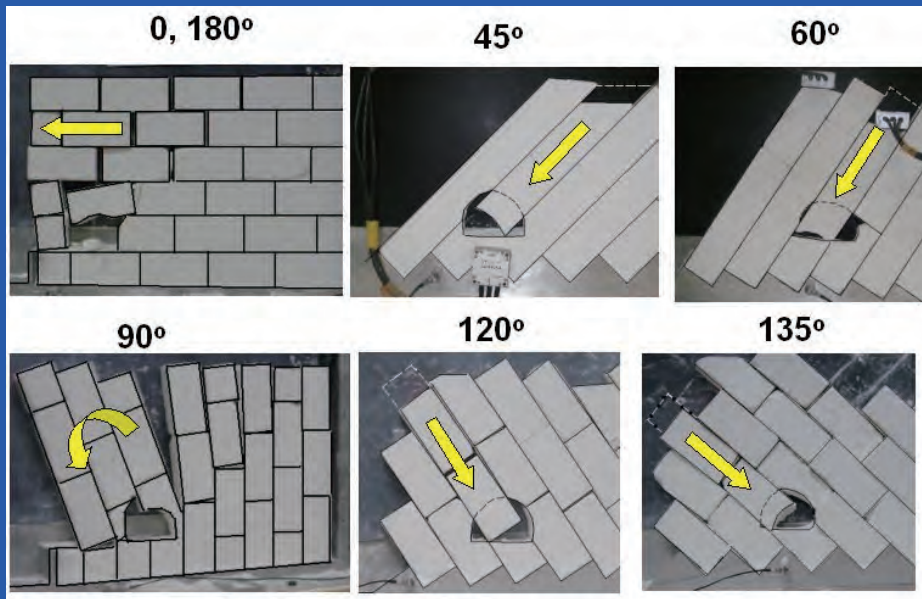




液状化可能地盤のトンネル

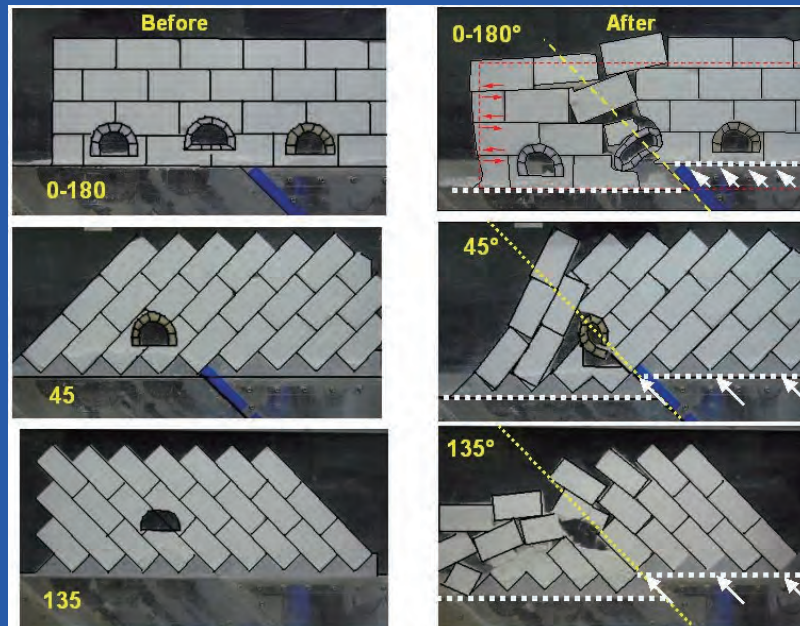


不連続性岩盤におけるトンネルに対する振動実験

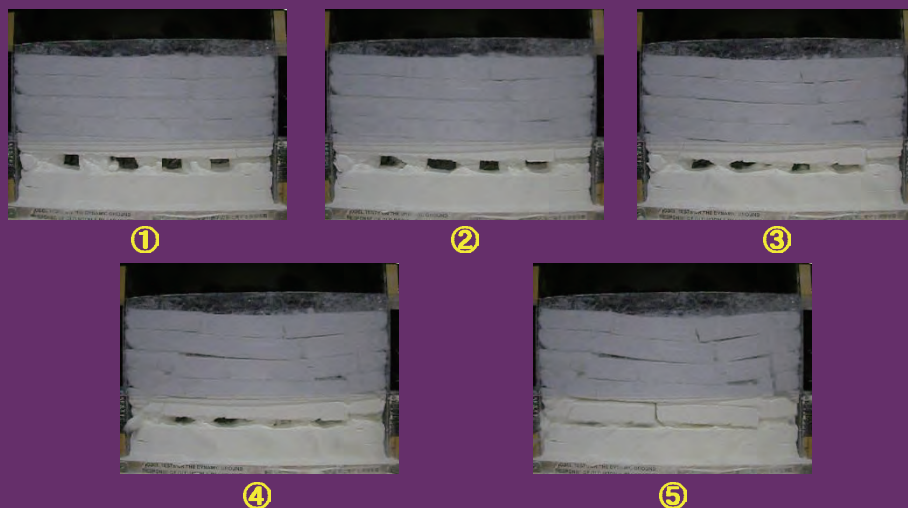


不連続面の分布状況によって破壊パターンが異なる

不連続性岩盤におけるトンネルに対する断層運動による破壊実験



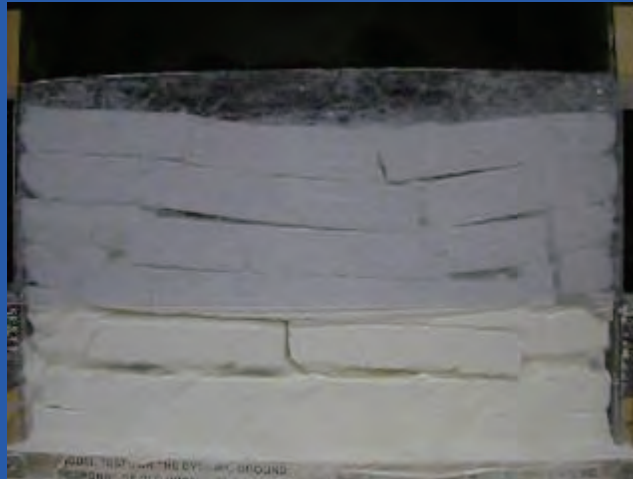
残柱式亜炭廃坑の崩壊



$$A_t / A_p = 2 \quad H/h = 5$$

AYDAN

実験結果 模型の破壊状況①



$A_t/A_p=2$, $H/h=5$, $\alpha=9.64$

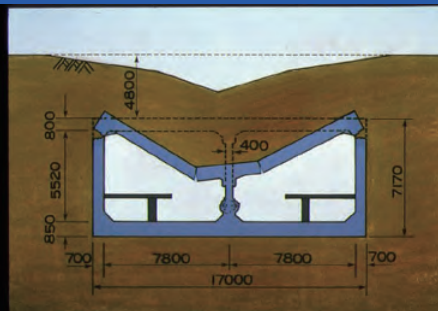
実験結果 模型の破壊状況②



$A_t/A_p=3$, $H/h=3$, $\alpha=5.50$

国内外の被害例

1995 阪神大震災

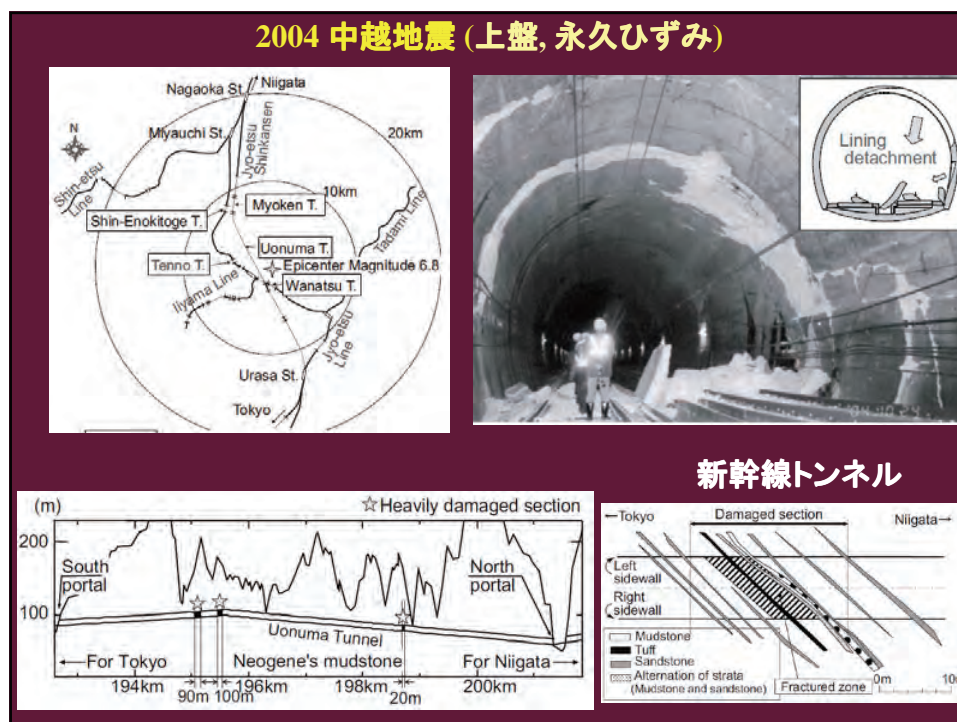
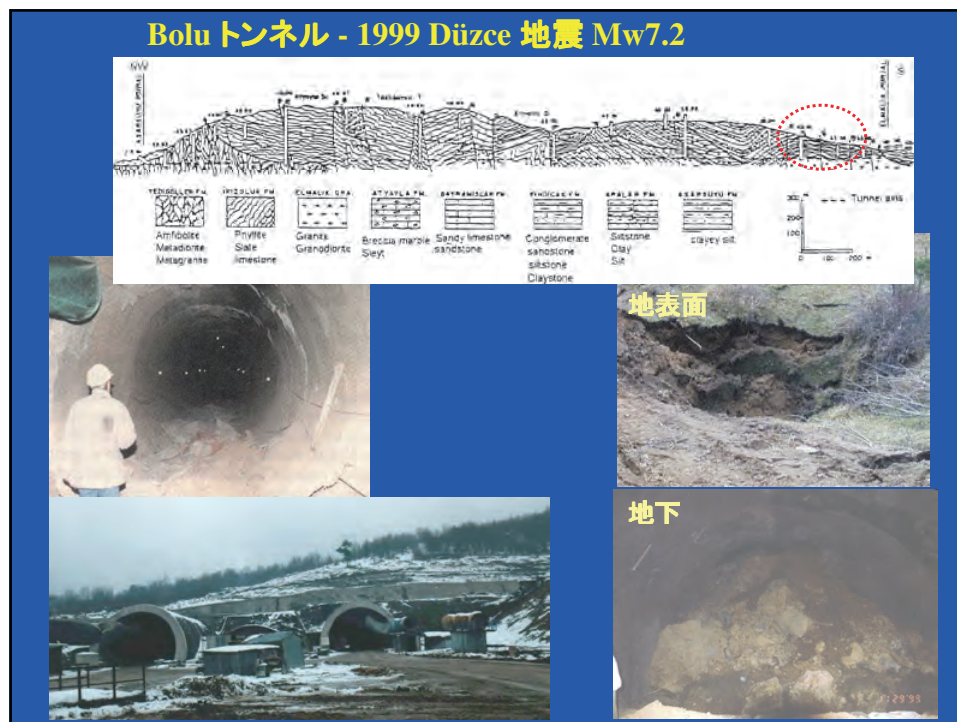


Daikai 駅 (振動より断層運動による破壊)

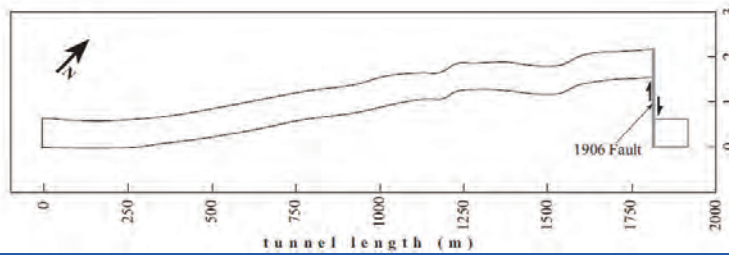








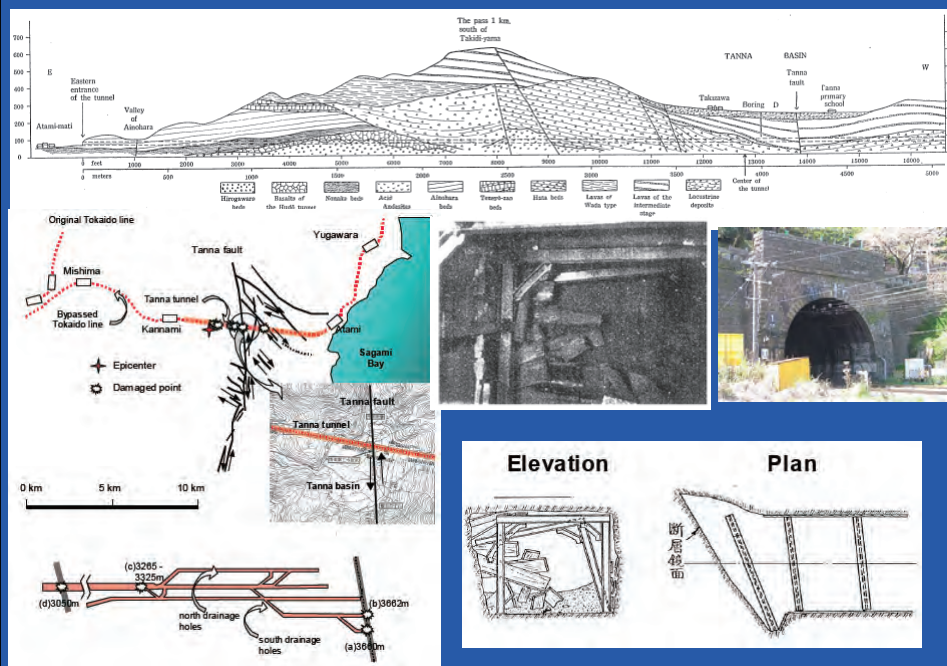
Wrights トンネル- 1906 San Francisco 地震 Mw7.9

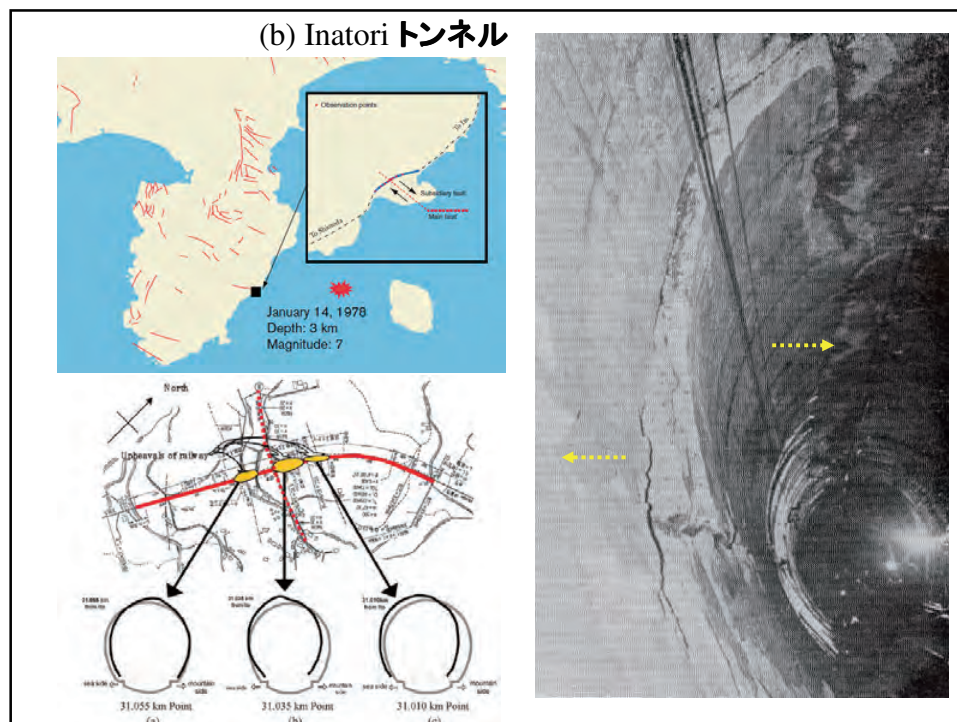


1952 Kern 地震 Mw7.5



Tanna トンネル - 1930 北伊豆地震 M7.2







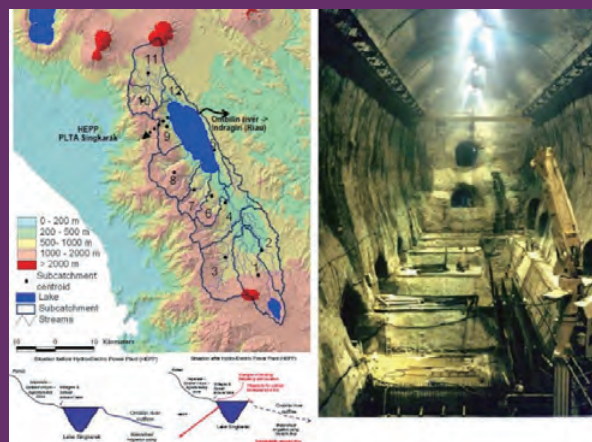
地下発電所の被害

Singkarak 地下発電所

Indonesia:(25x37x90m):片麻岩

2007 Singkarak 地震, Mw:6.4; Re: 13 km;

大きな被害ないが、内部
の設備に被害



自然鍾乳洞の陥没



亜炭廃坑や旧鉱山による陥没問題



地下

図-6に観測位置における地盤の柱状図を示す。水なしの地点において空洞深さは11mで、水あり地点においては、約12mで、空洞高さは2mである。

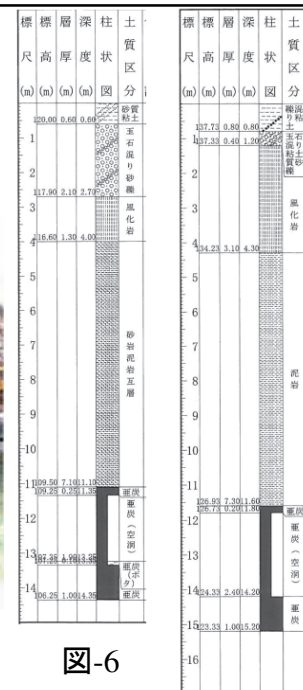


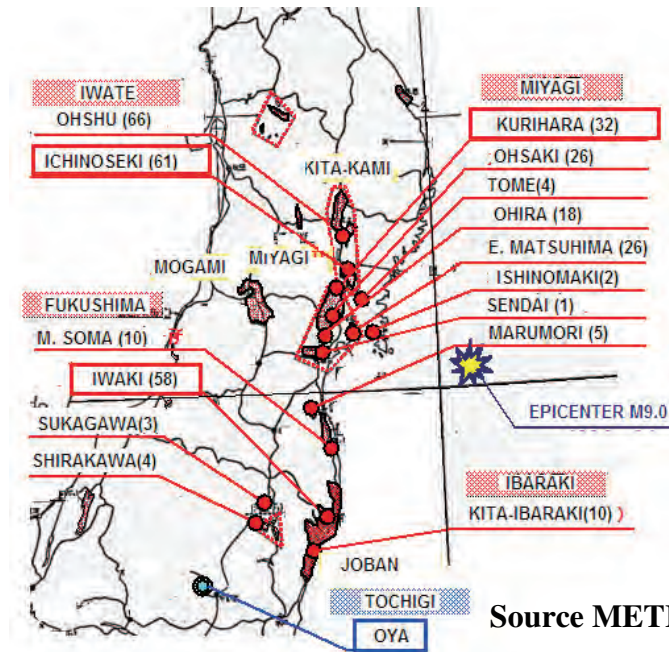
図-6

亜炭廃跡地における陥没・地盤沈下





亜炭・石炭跡地における陥没・沈下被害



若柳における陥没被害 (宮城県)



大平村における陥没被害 (宮城県)

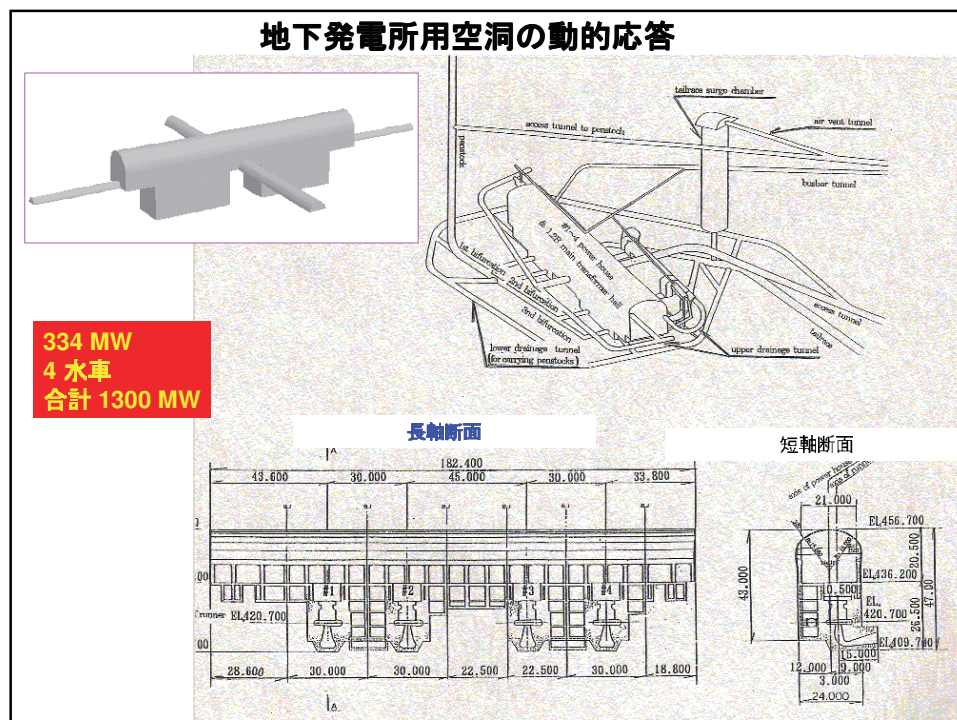
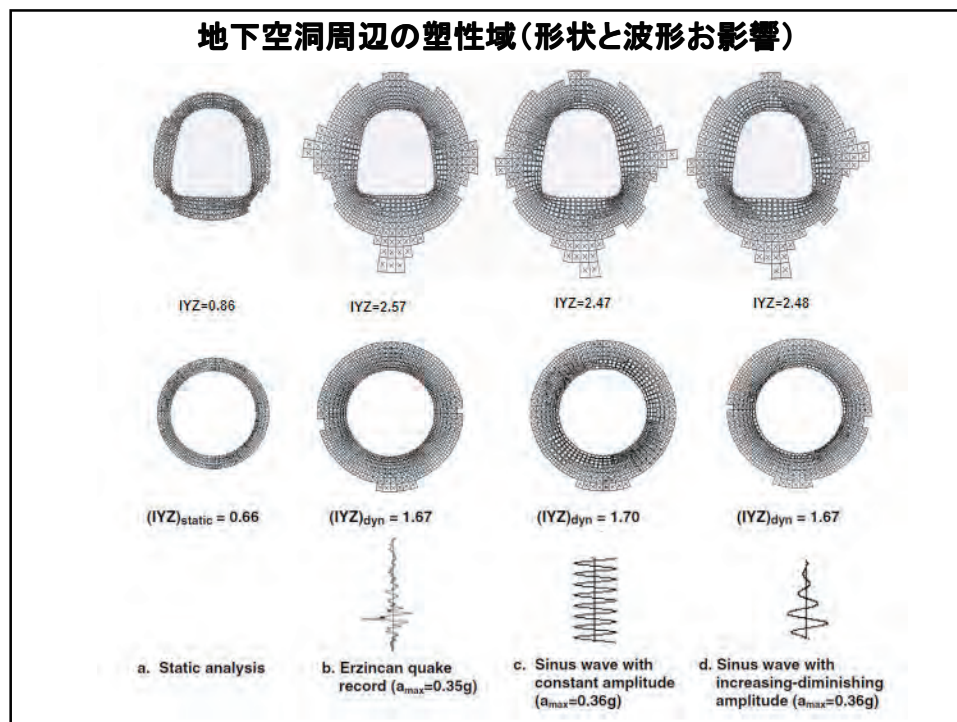
20 sinkholes. 7 sinkholes very large



2003年の宮城北部地震による矢本町における陥没被害



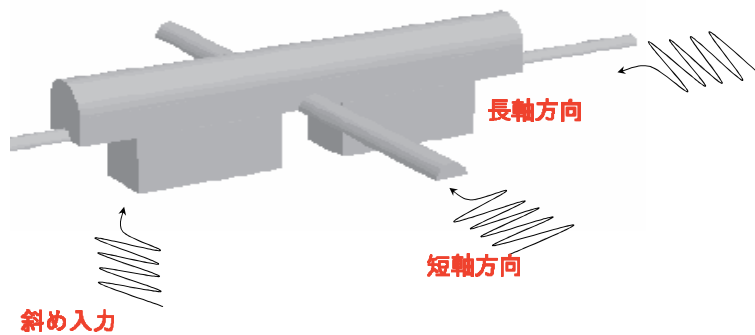
数値解析手法の役割



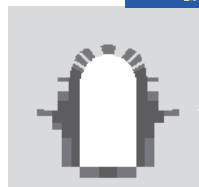
・ 動的解析

正弦波を用いて解析

- ・ 地震波入力は長軸方向
- ・ 地震波入力は短軸方向
- ・ 斜めの入力

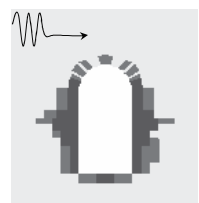


細田振幅の変化, $f = 1 \text{ Hz}$



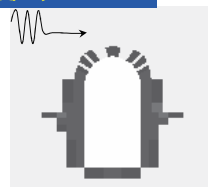
None
shear-p
shear-p tension-p

静的解析



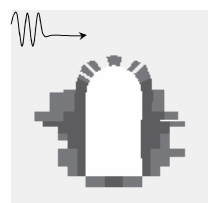
None
shear-p
shear-p tension-p

$a_{\max} = 0.6g$



None
shear-n shear-p tension-p
shear-p
shear-p tension-p

$a_{\max} = 0.4g$



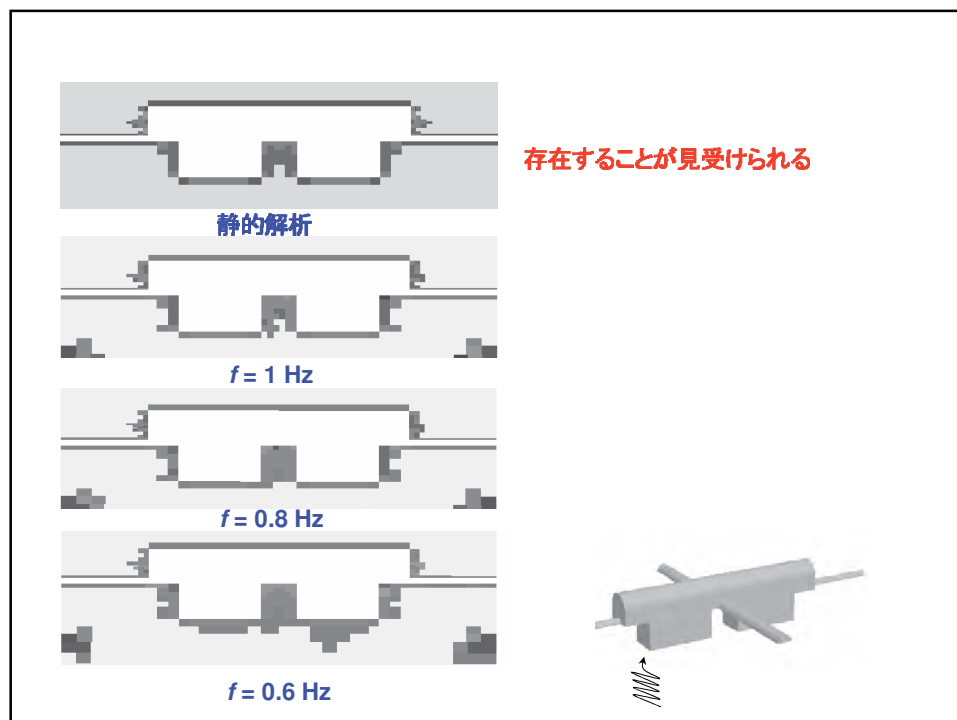
None
shear-p
shear-p tension-p

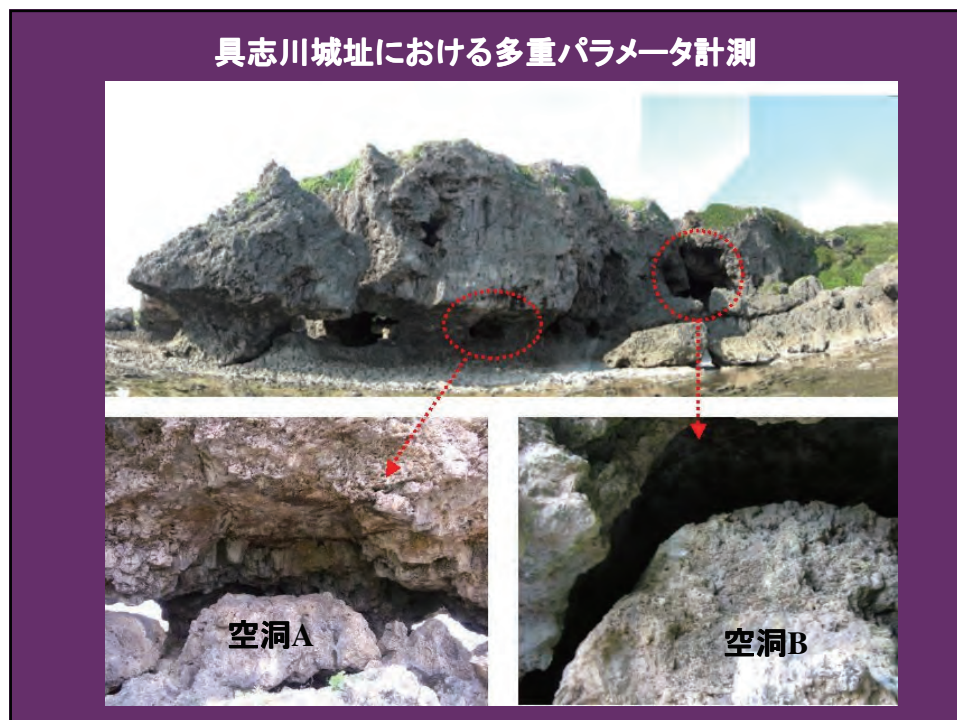
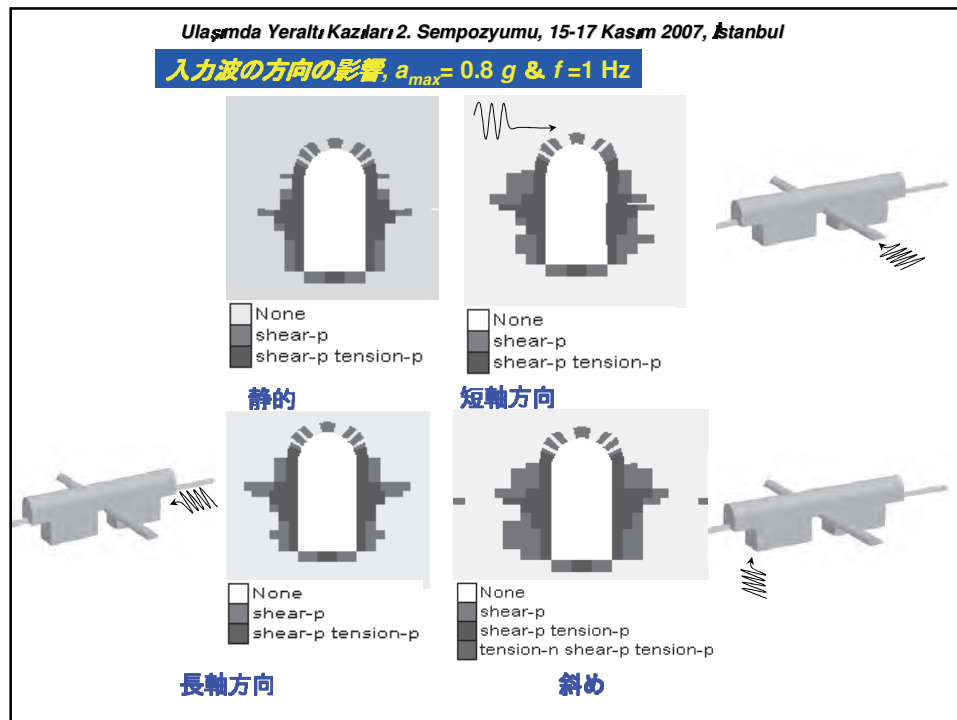
$a_{\max} = 0.8g$

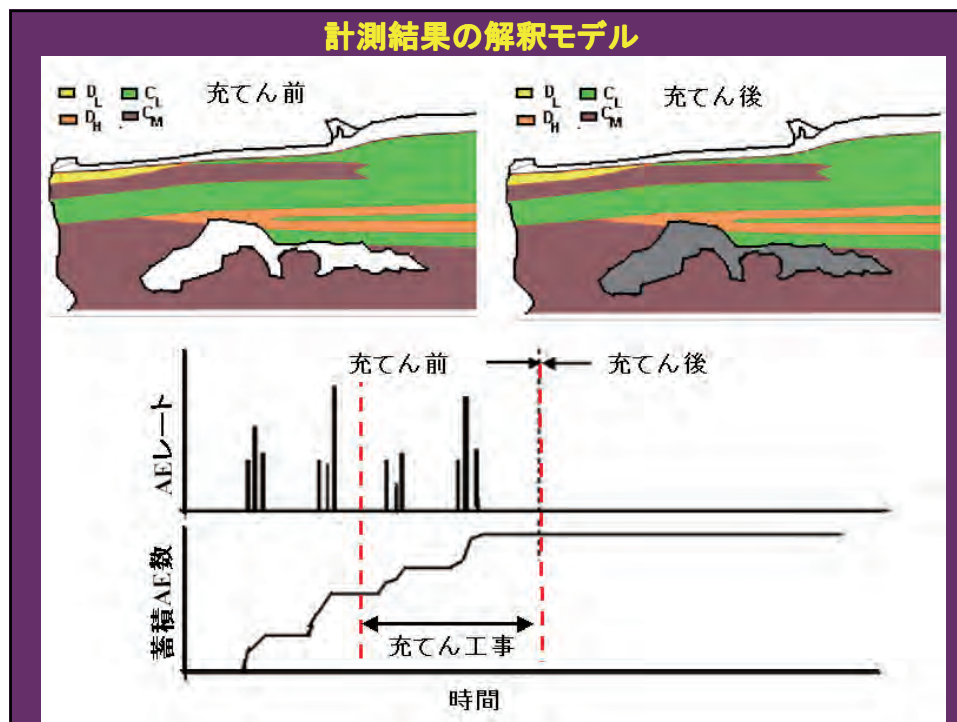
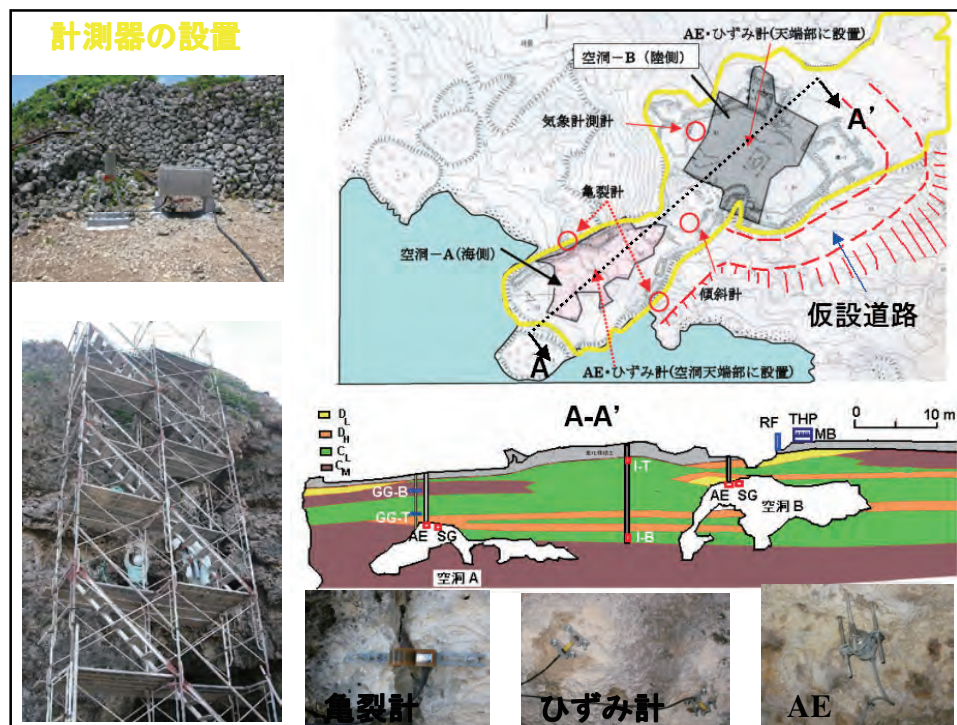
側壁における塑性域が拡大

$a_{\max} = 0.6-0.7g$



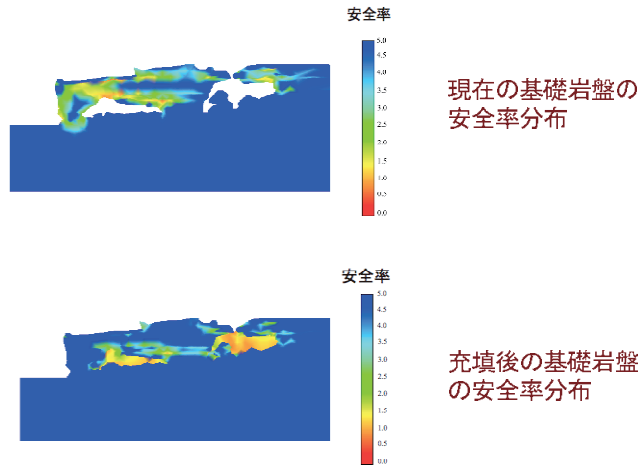






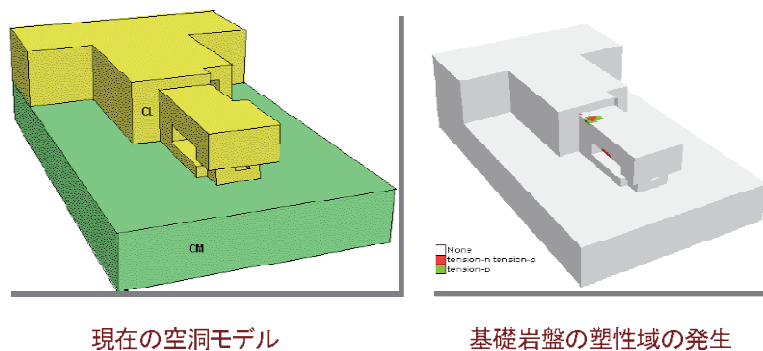
現在・充填後の基礎岩盤の静的安定性評価

2次元有限要素モデルによる空洞の安定性解析



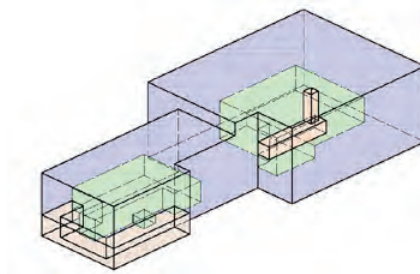
3次元有限要素解析による静的安定性評価

現在の空洞の静的安定性



3次元有限要素解析による静的安定性評価

空洞充填後の静的安定性



空洞充填後の解析モデル



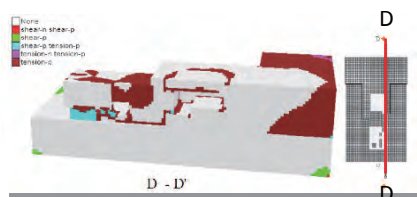
空洞充填後の解析モデル

充填材料の物性値

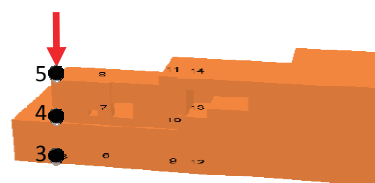
γ	E	ν	ϕ	σ_c
kN/m^3	MPa			kPa
20	200	0.26	30	1000

3次元有限要素解析による動的安定性評価

現在の空洞の動的挙動

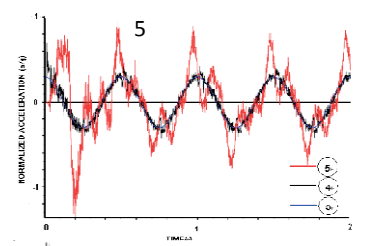


動的载荷による塑性域の発生



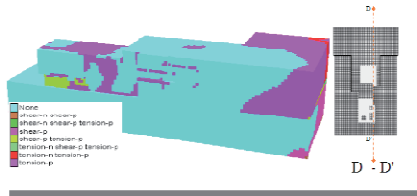
加速度応答の着目点

着目点3,4,5における
加速度応答



3次元有限要素解析による動的安定性評価

空洞充填後の動的挙動

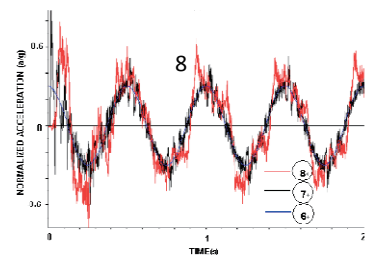


動的载荷による塑性域の発生



加速度応答の着目点

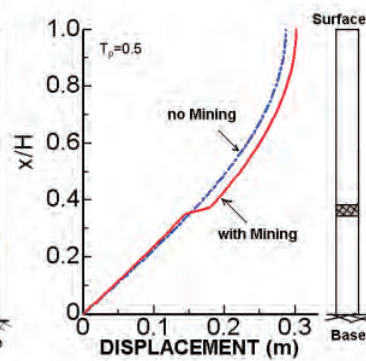
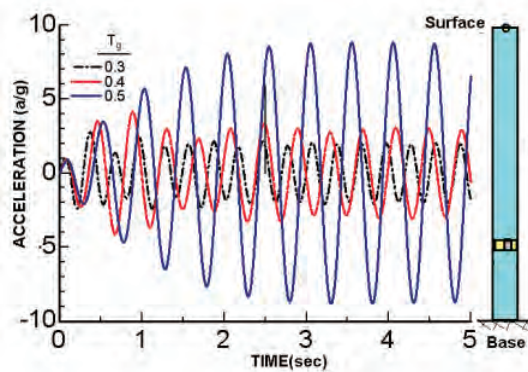
着目点6,7,8における
加速度応答

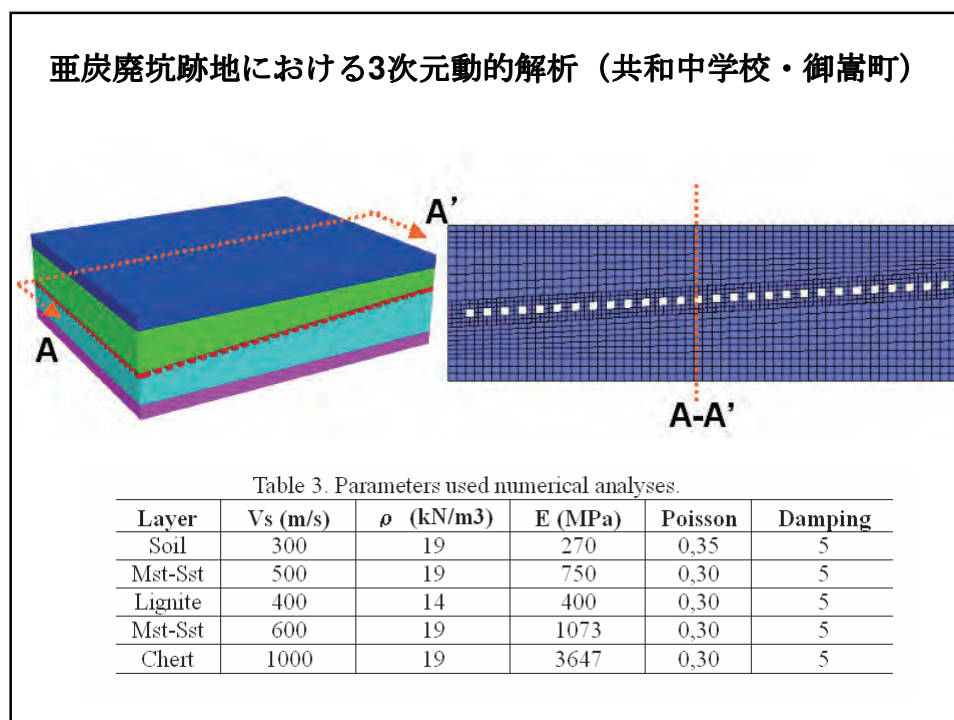
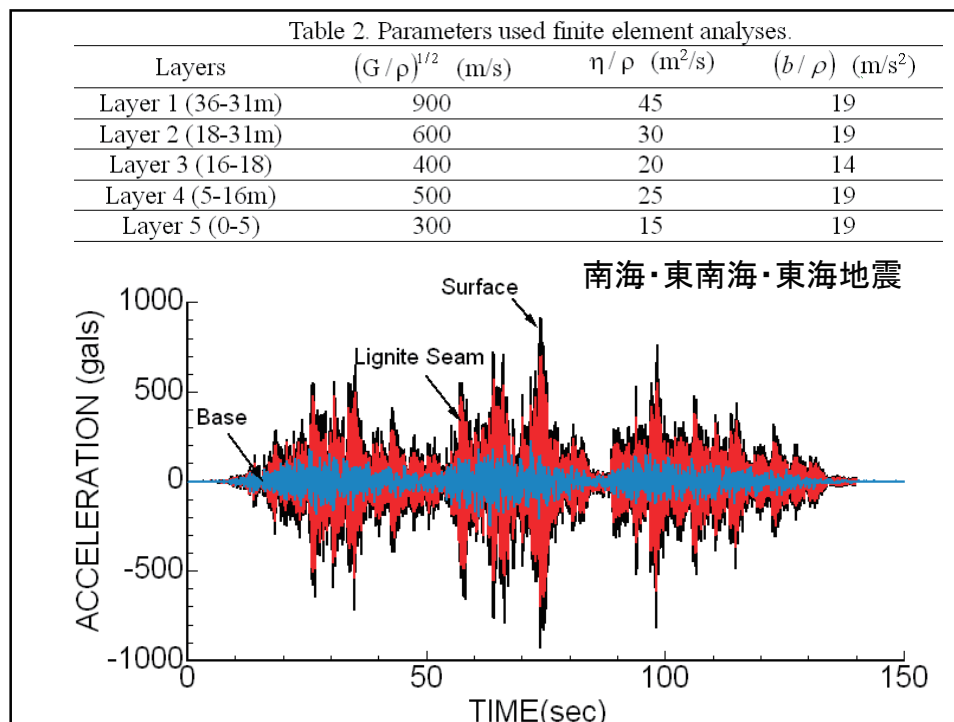


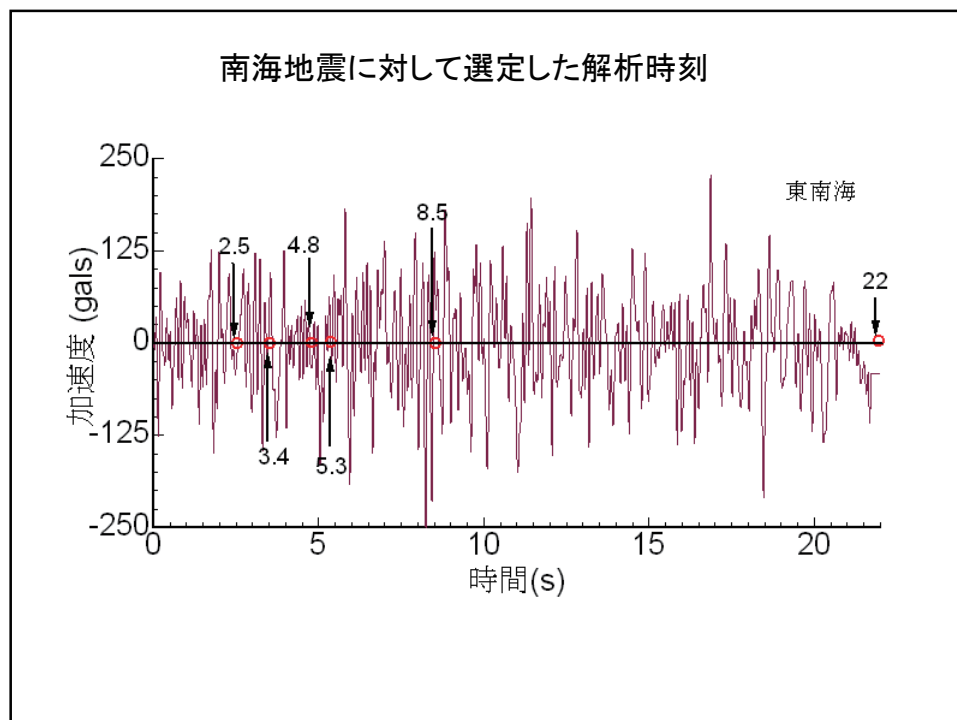
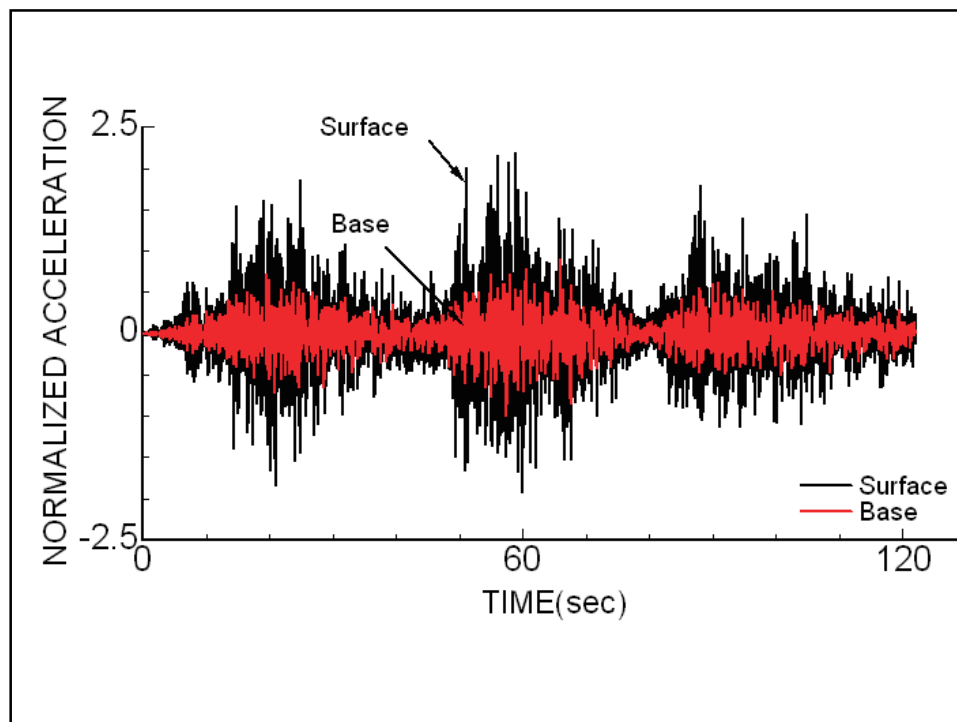
亜炭廃坑の1次元せん断層モデル

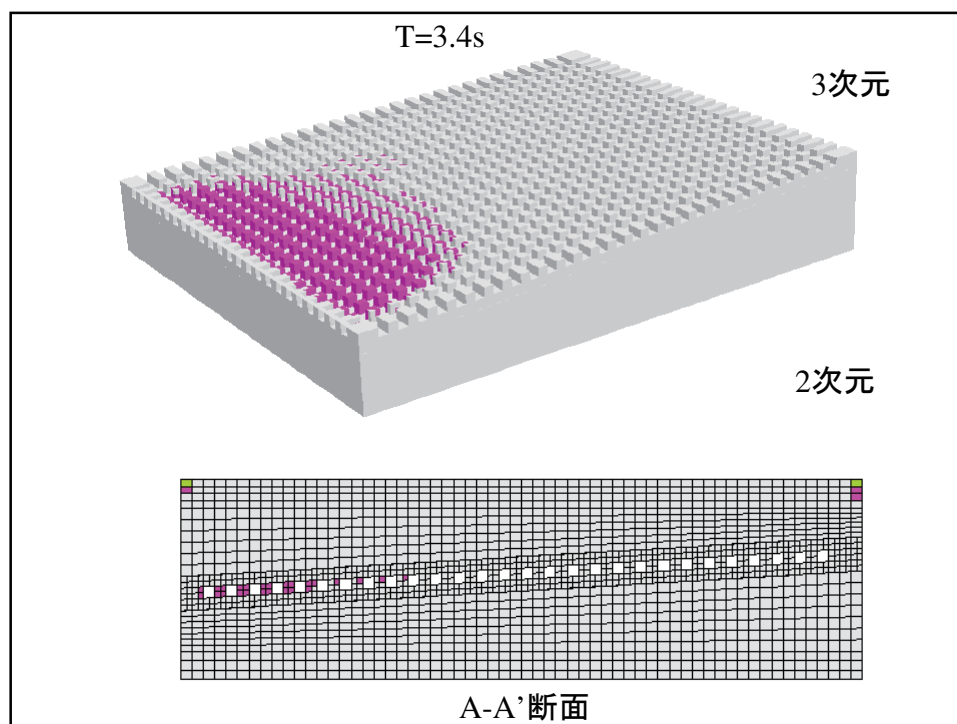
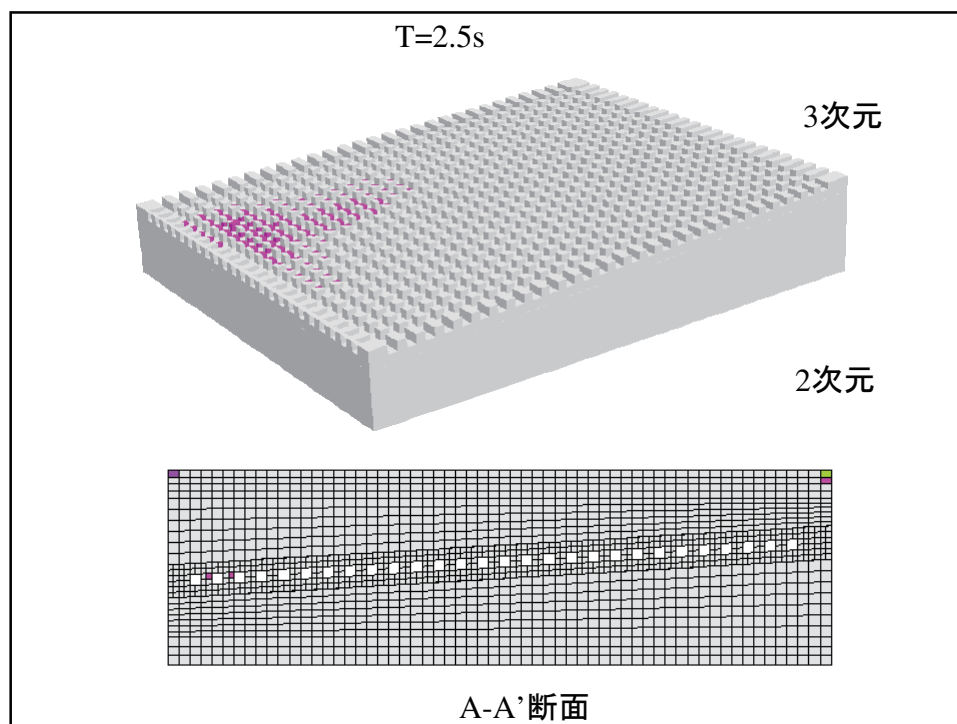
Table 1. Parameters used finite element analyses.

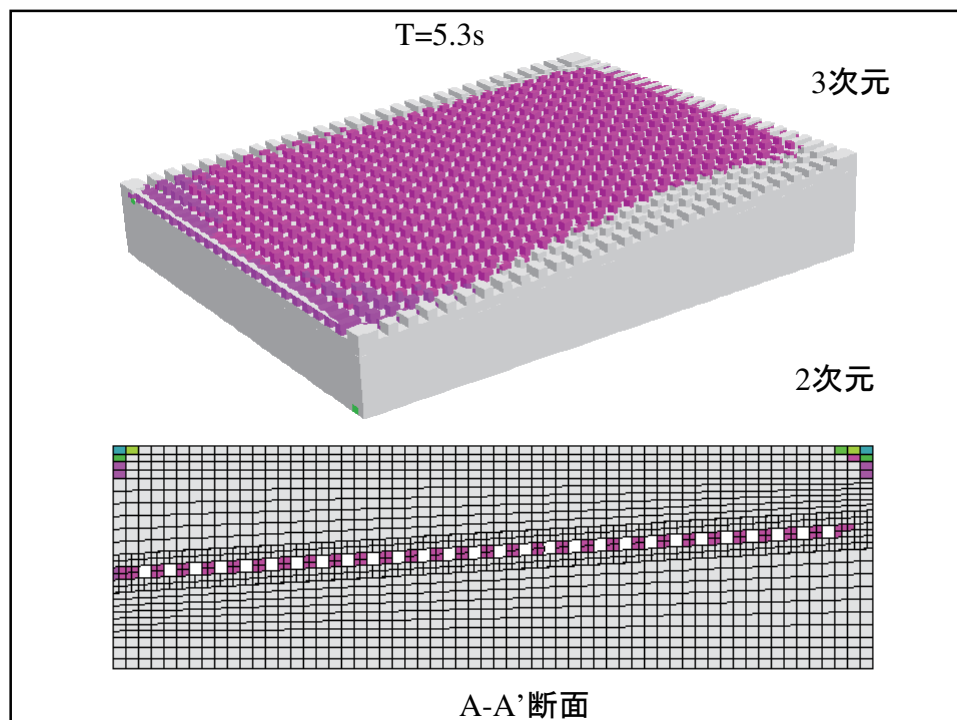
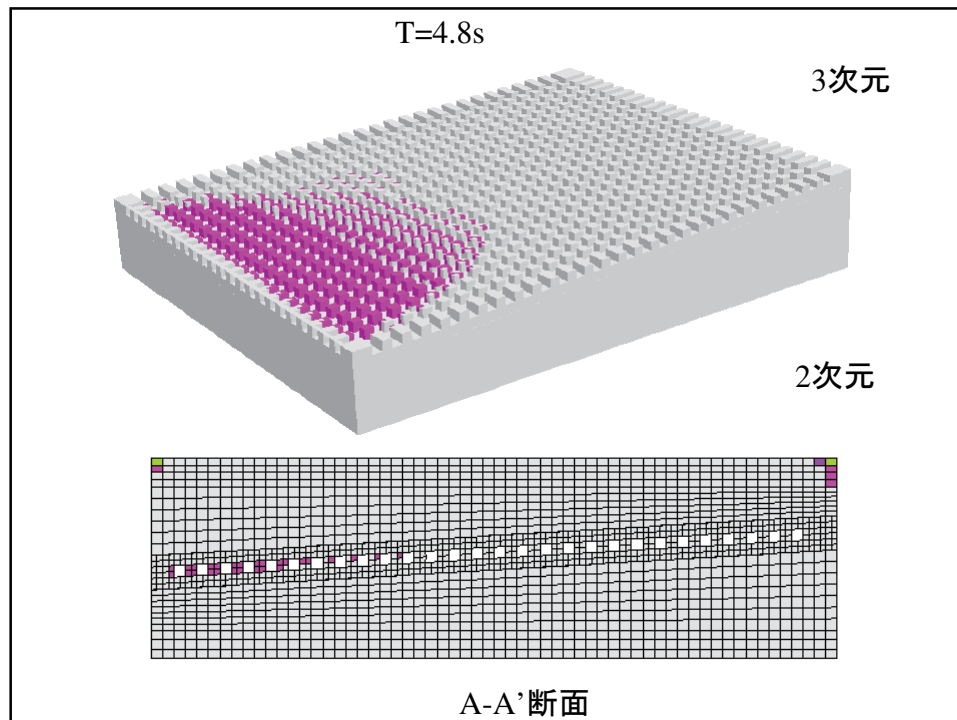
Layers	$(G/\rho)^{1/2}$ (m/s)	η/ρ (m ² /s)	(b/ρ) (m/s ²)
Layer 1 (30-40m)	320	32	10
Layer 2 (28-30m)	160	16	10
Layer 3 (0-28)	320	32	10











長壁採掘式地域における地震動の増幅解析

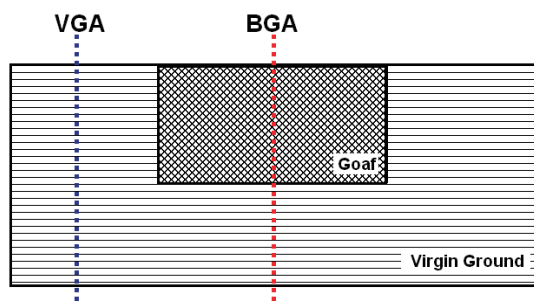
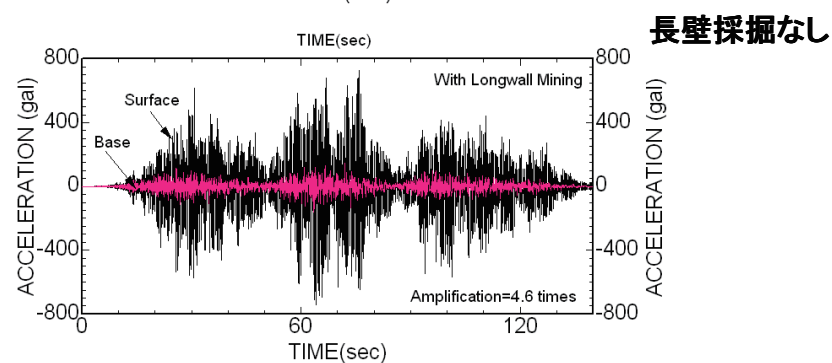
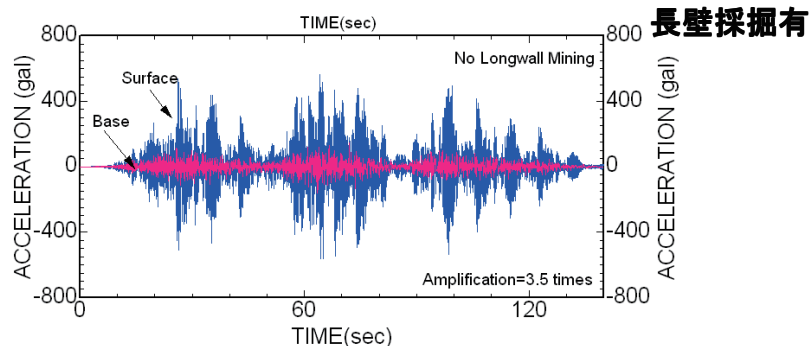
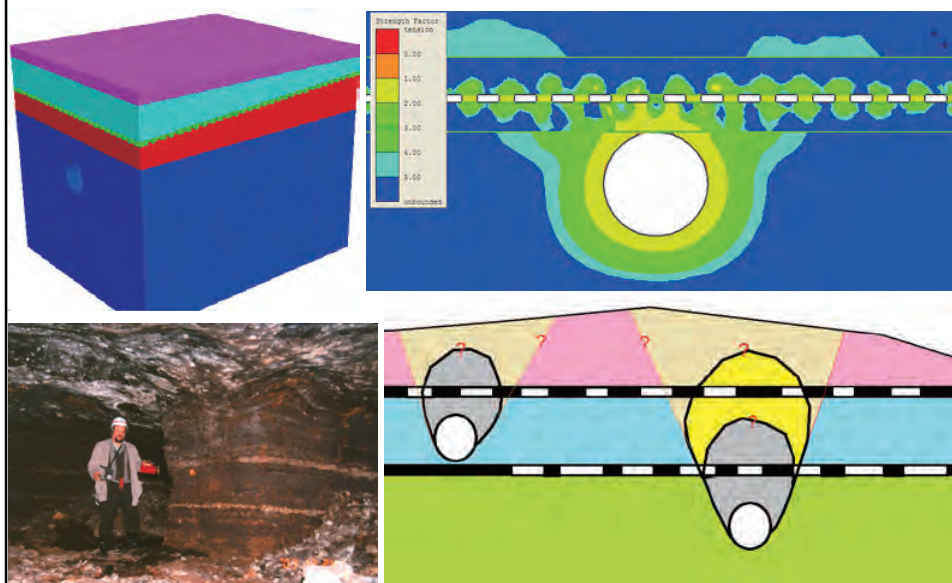


Table 5. Parameters used finite element analyses.

Layers	$(G/\rho)^{1/2}$ (m/s)	η/ρ (m ² /s)	(b/ρ) (m/s ²)
Virgin ground	900	45	25
Goaf	300	15	18



亜炭廃坑跡地直下で空洞解析



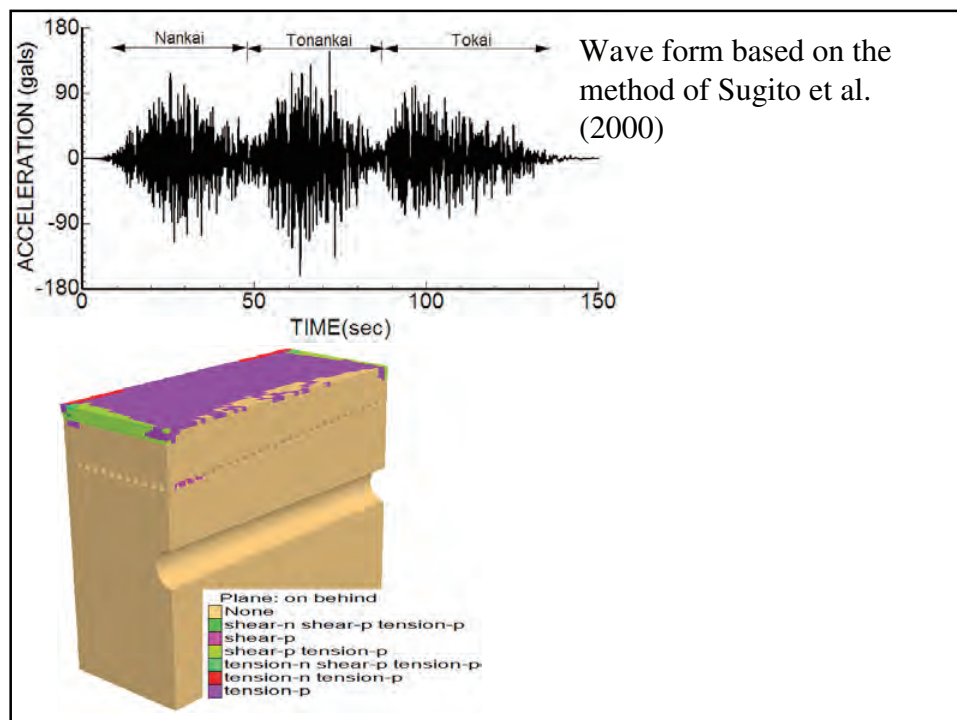
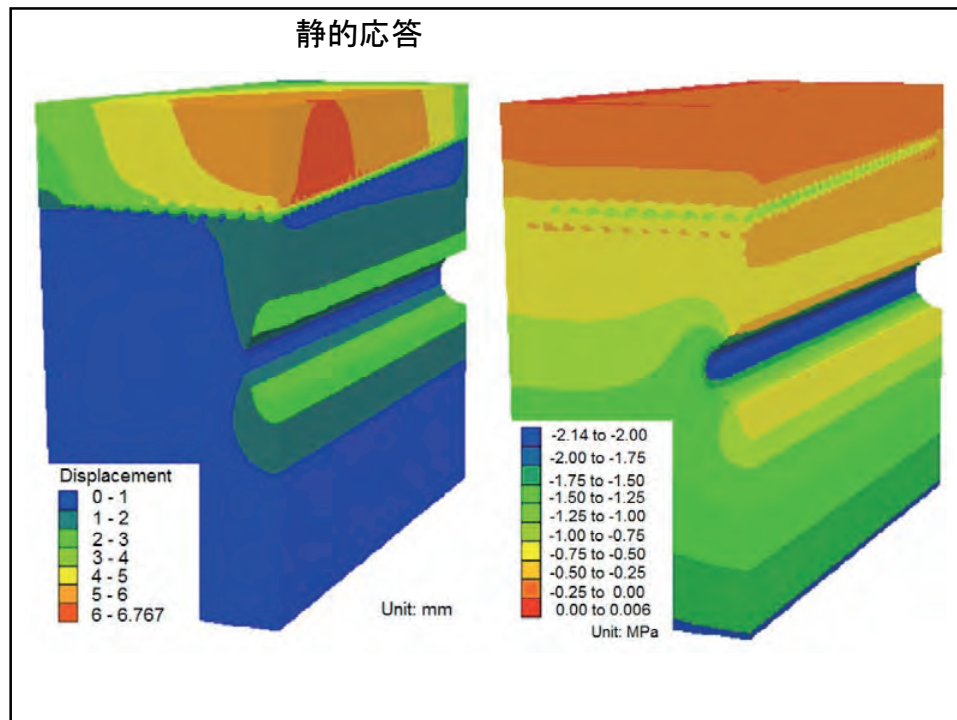
What would be the effect of underground excavation the stability of the abandoned mine?

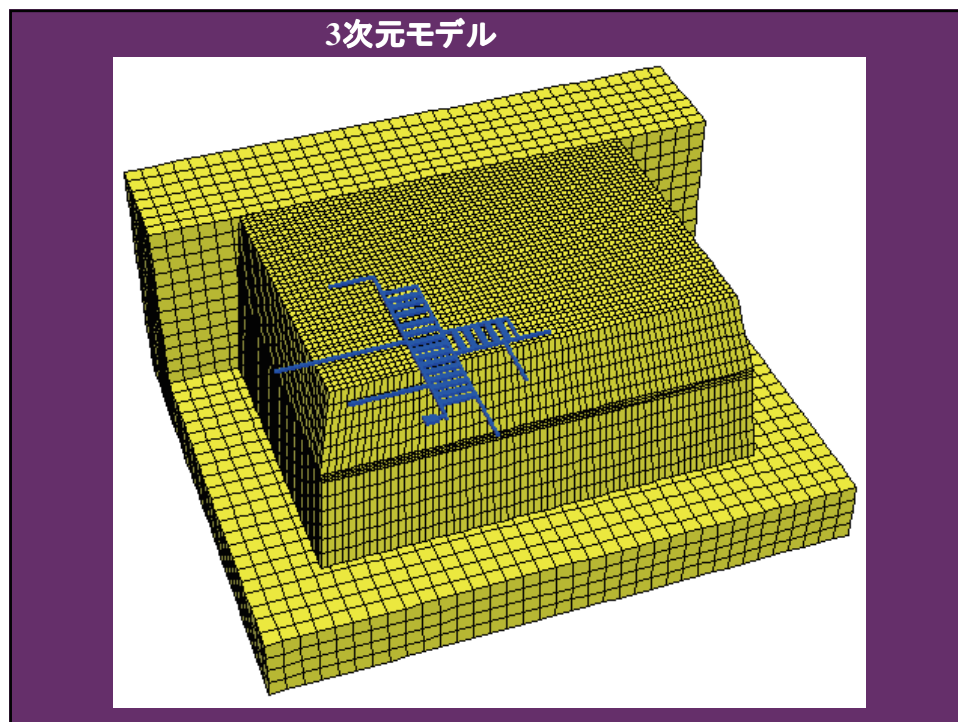
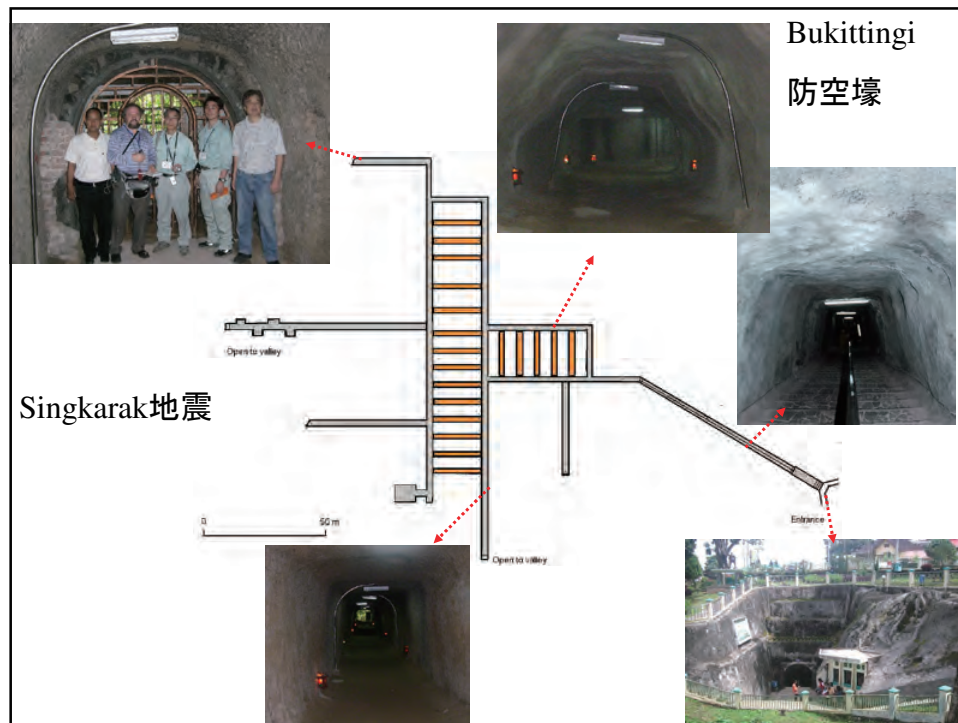
解析手順

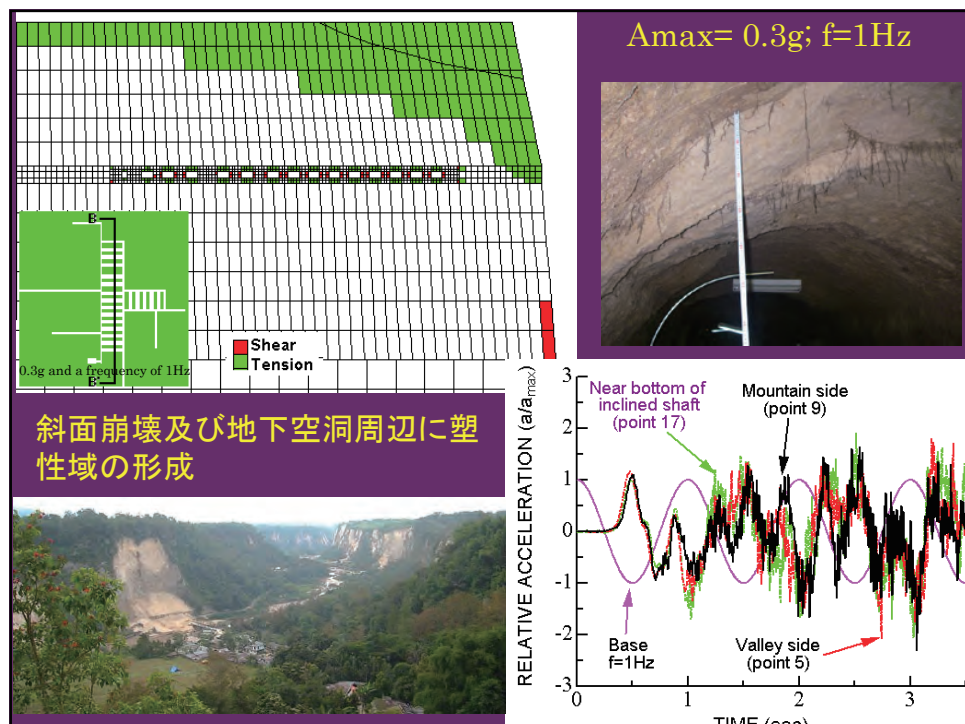
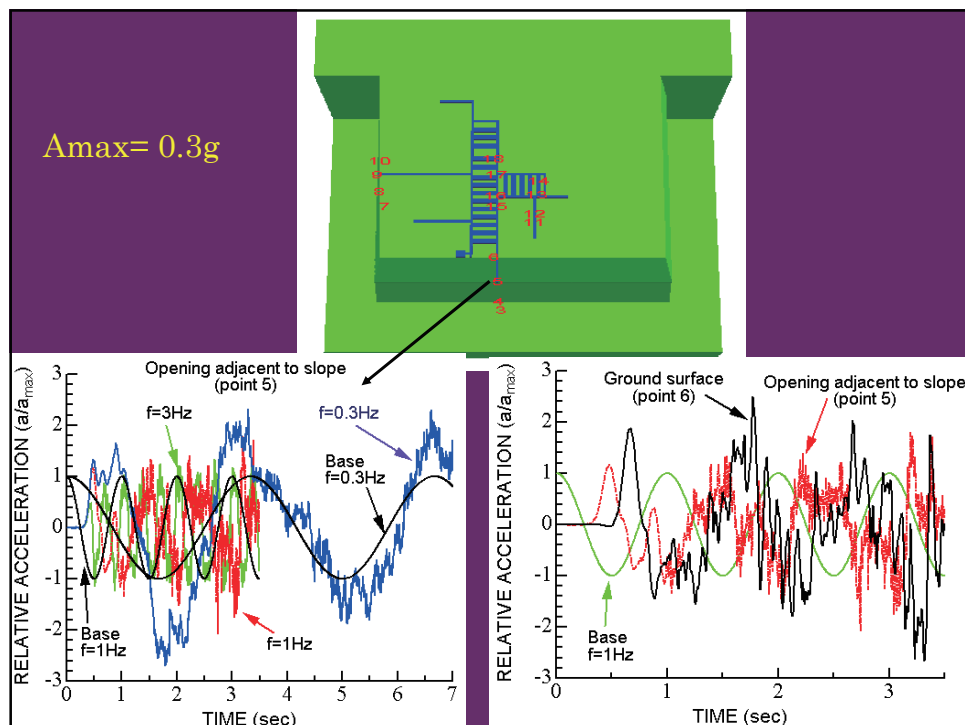
- 1) 重力を作用させる
- 2) 亜炭廃坑の掘削
- 3) トンネル掘削
- 4) 地震波の入力

Table 3. Material properties used numerical analyses.

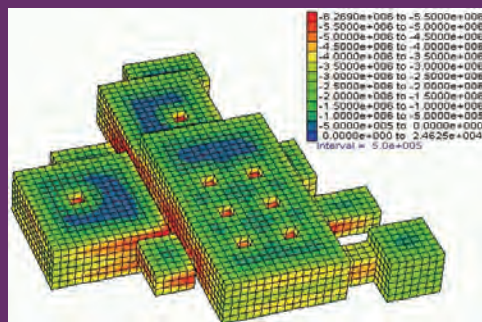
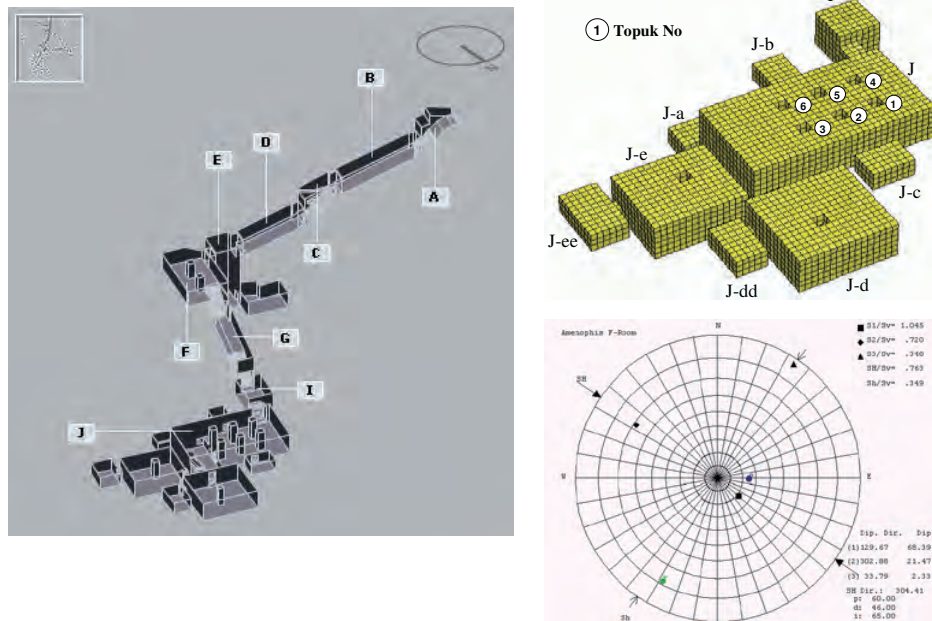
Layer	γ kN/m ³	c kPa	ϕ (°)	σ_c kPa	E MPa	ν
Soil	19	50	38	10	270	0.35
Mst-Sst-1	19	700	25	500	750	0.3
Lignite	14	656	45	500	400	0.3
Mst-Sst-2	19	1000	45	700	1073	0.3
Chert	19	3000	45	2000	3647	0.3



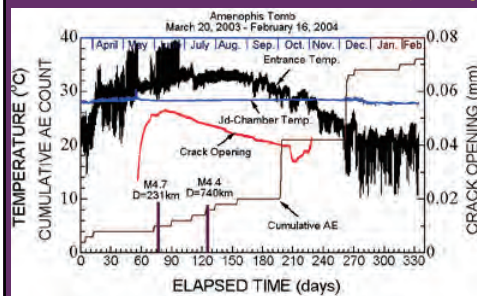
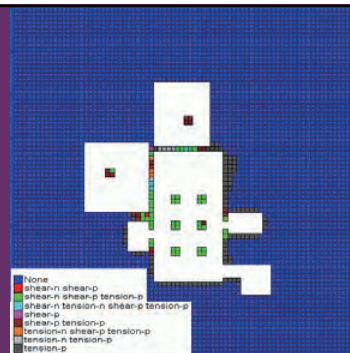




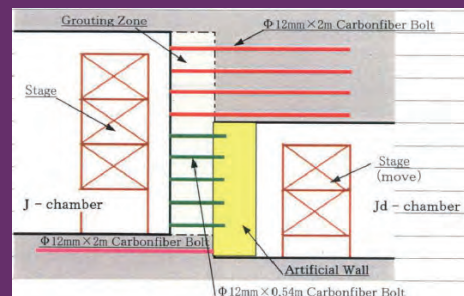
AmenophisIIIの王墓の3次元数値解析



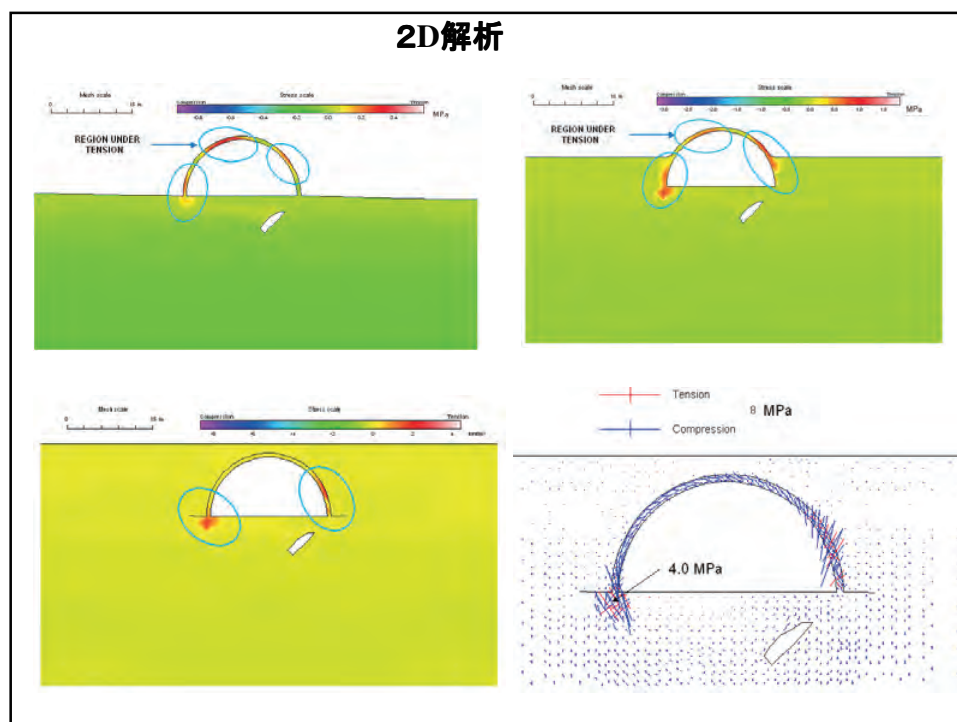
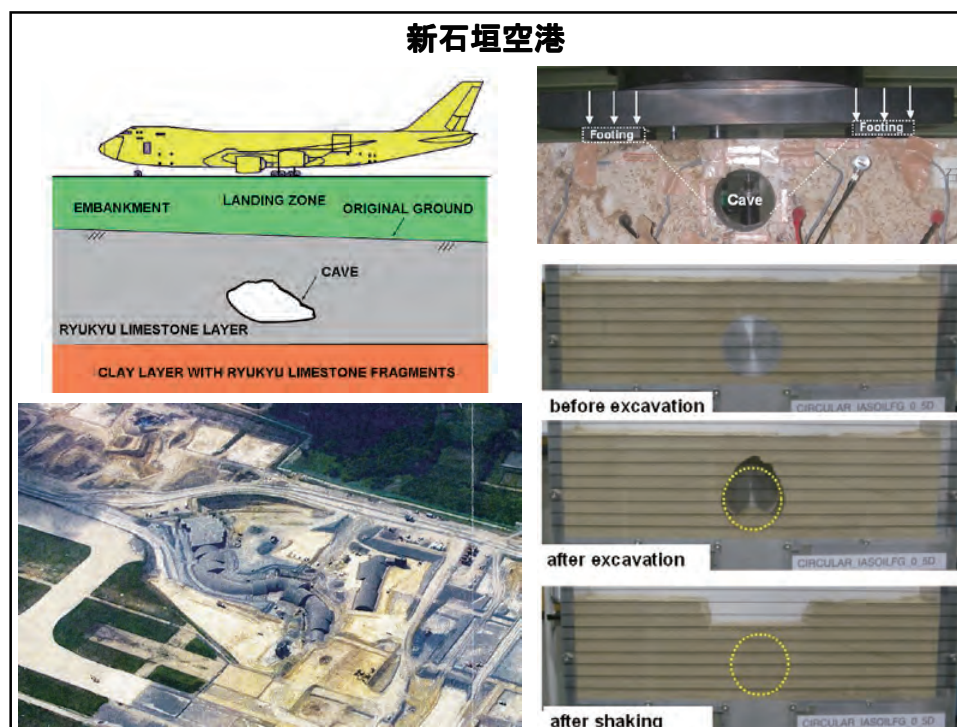
3D 檀塑性数値解析



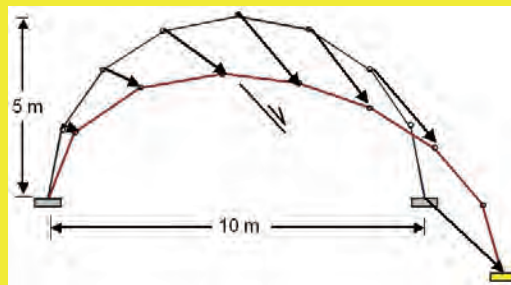
多重パラメータ計測



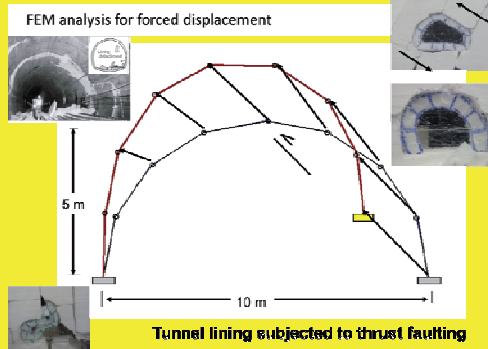
補強案



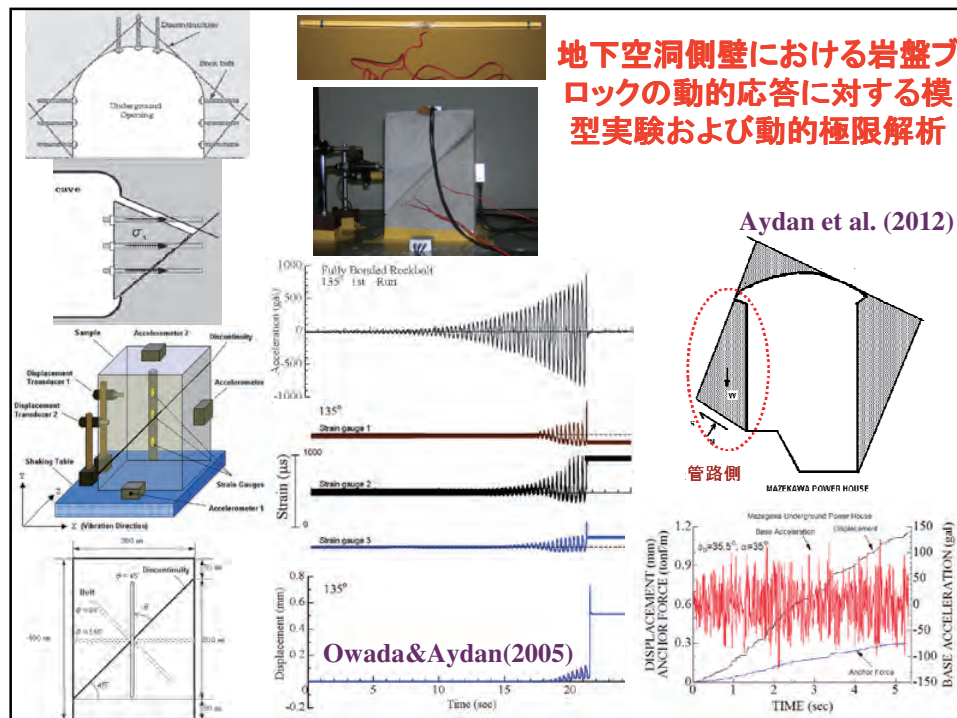
断層運動によるライニングの変形 (FEM)

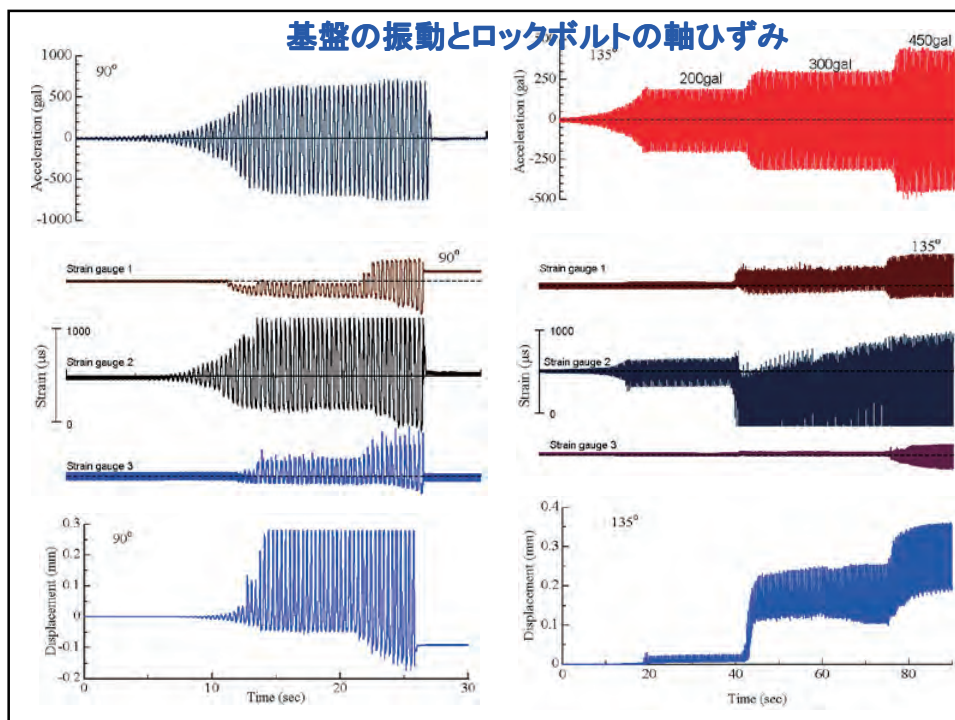
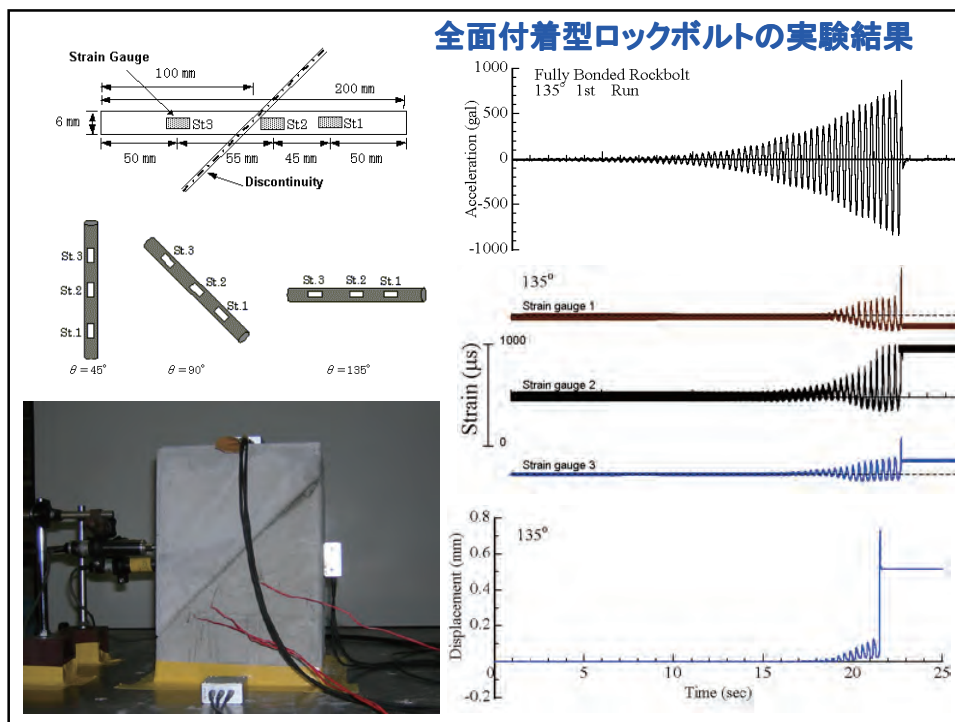


正断層

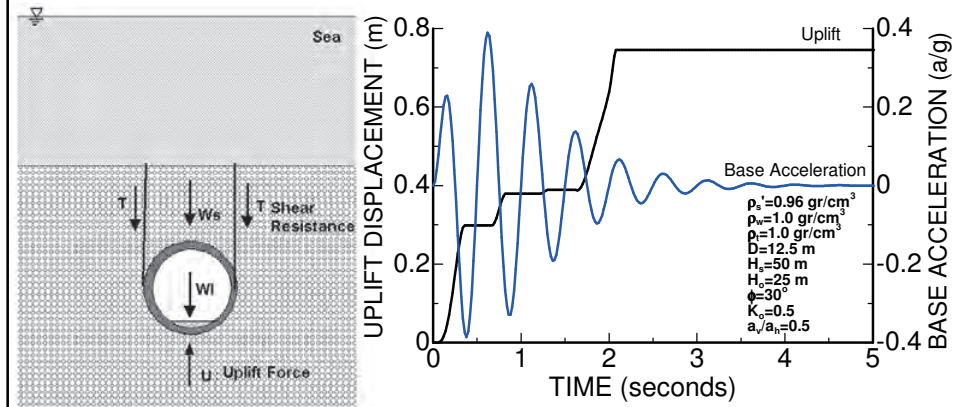


逆断層





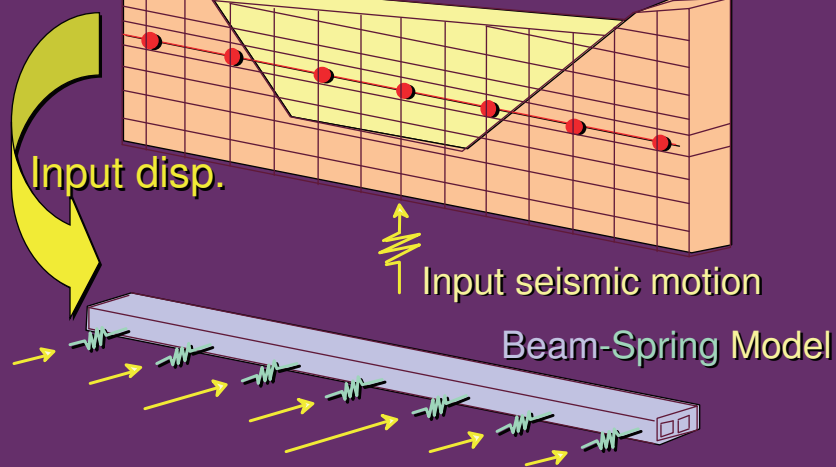
液状化地盤内のトンネルの上昇



To be evaluated using actual ground data and scenario earthquake acceleration records

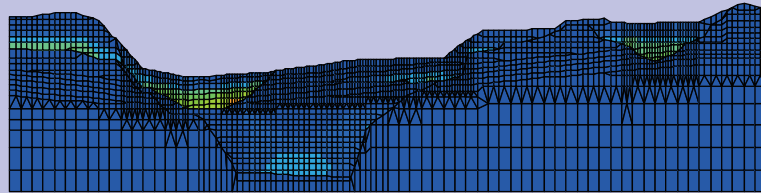
トンネル構造のモデル化

FEM Model

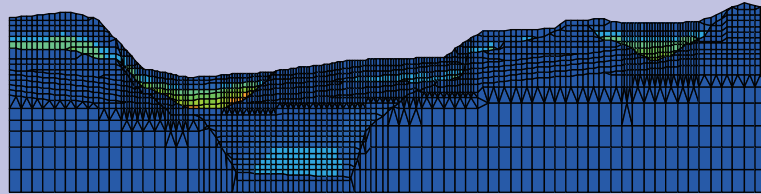


地盤の最大せん断ひずみ

(a) Response due to transverse input motion



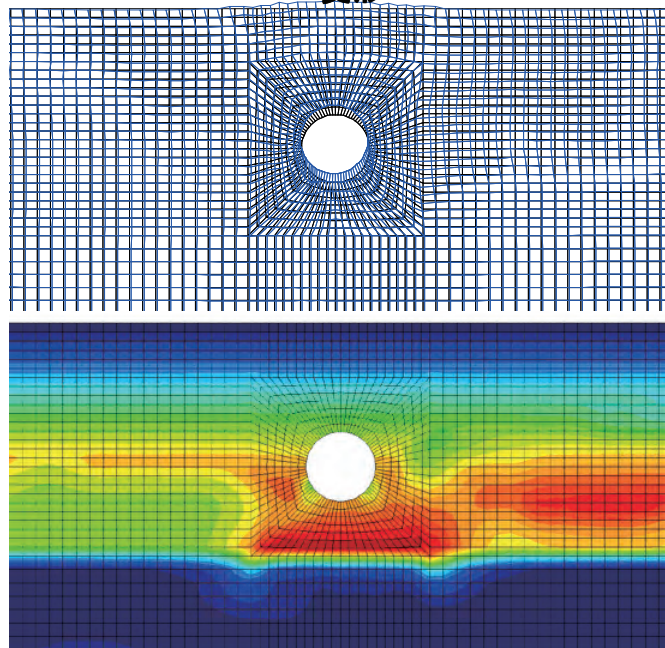
(b) Response due to longitudinal input motion



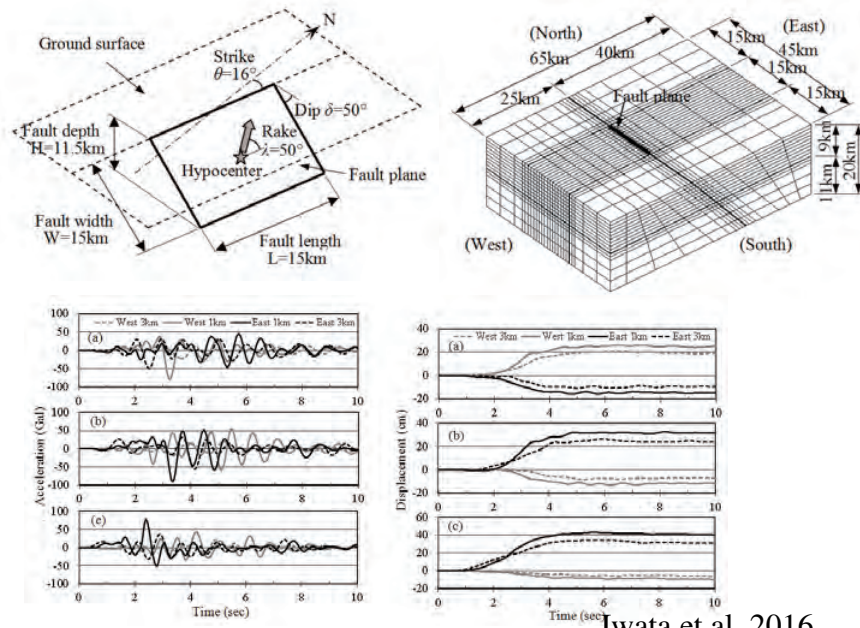
Strain



変形



地震動の影響の評価

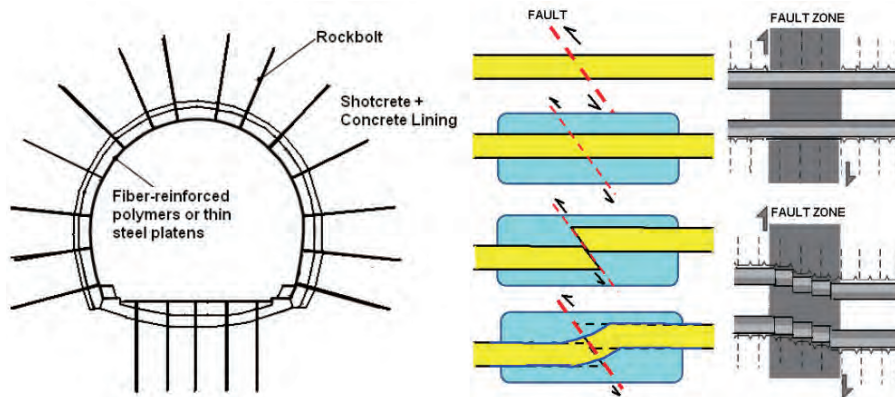


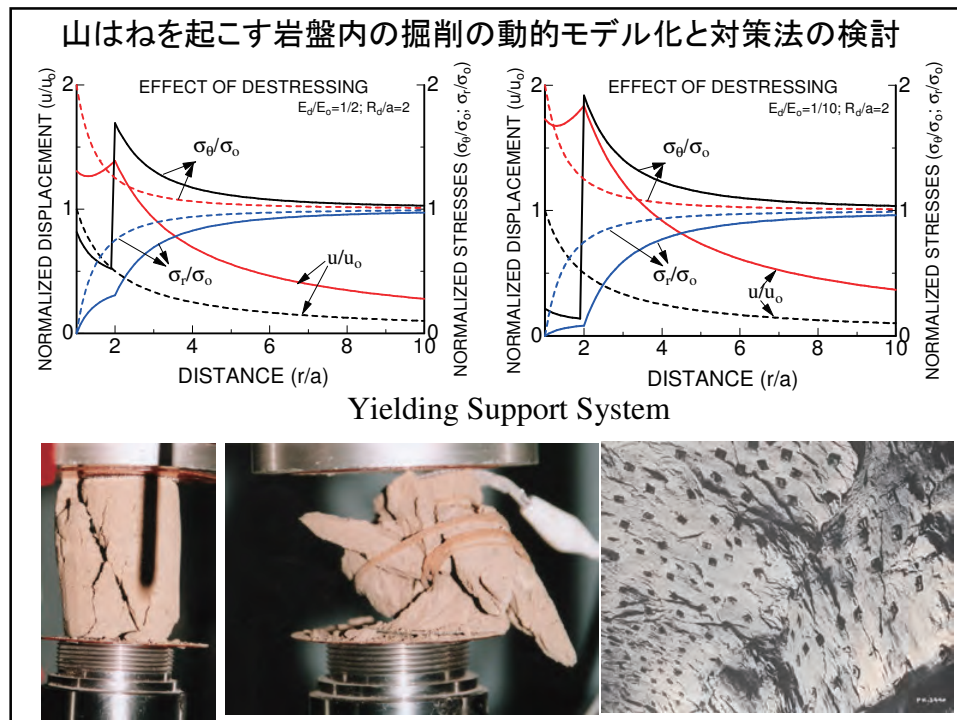
Iwata et al. 2016

地下空洞の耐震補強とその効果の評価

振動による影響が坑口以外はほとんど無視できる。

課題は永久変形である





02 3次元 FEM解析(トンネル掘削問題)

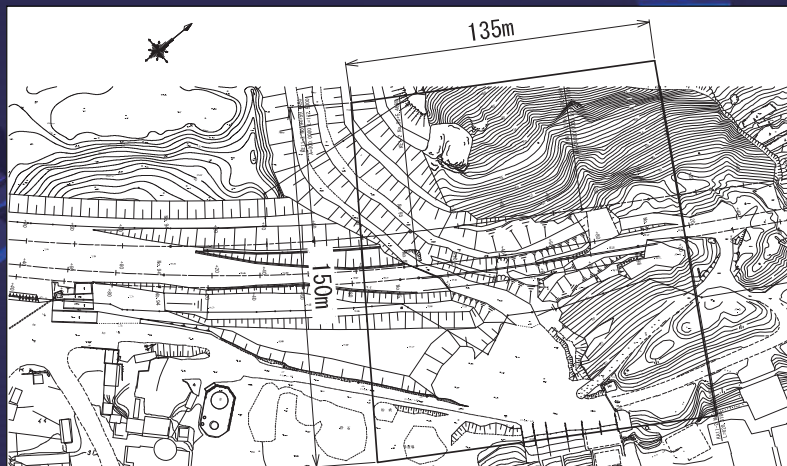
株式会社フジタ 池内 正明 様

～ MIDAS GTSを使用した解析事例紹介 ～ 3次元FEM解析(トンネル掘削問題)

株式会社フジタ
池内 正明

■ 工事概要

- ・ トンネル延長 $L = 99\text{m}$ (NATM工法, 機械掘削)
- ・ 幅員 $W = 10.5\text{m}$
- ・ 内空断面積 $A = 76.2\text{m}^2$
- ・ 掘削土量 $V = 19,160\text{m}^3$



■経緯

- ・ 斜面对策としてトンネル上に押さえ盛土
- ・ 地形が当初設定と異なる
- ・ 地層構成が当初の想定と異なる

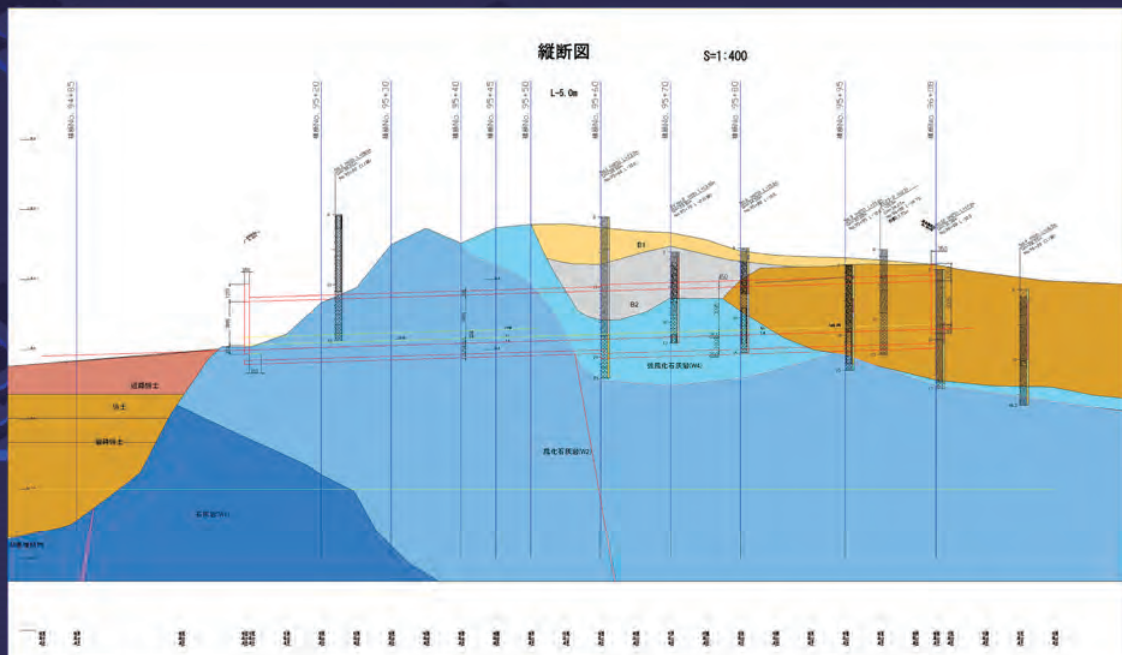


修正設計が必要
(設計施工)

■修正設計業務内容

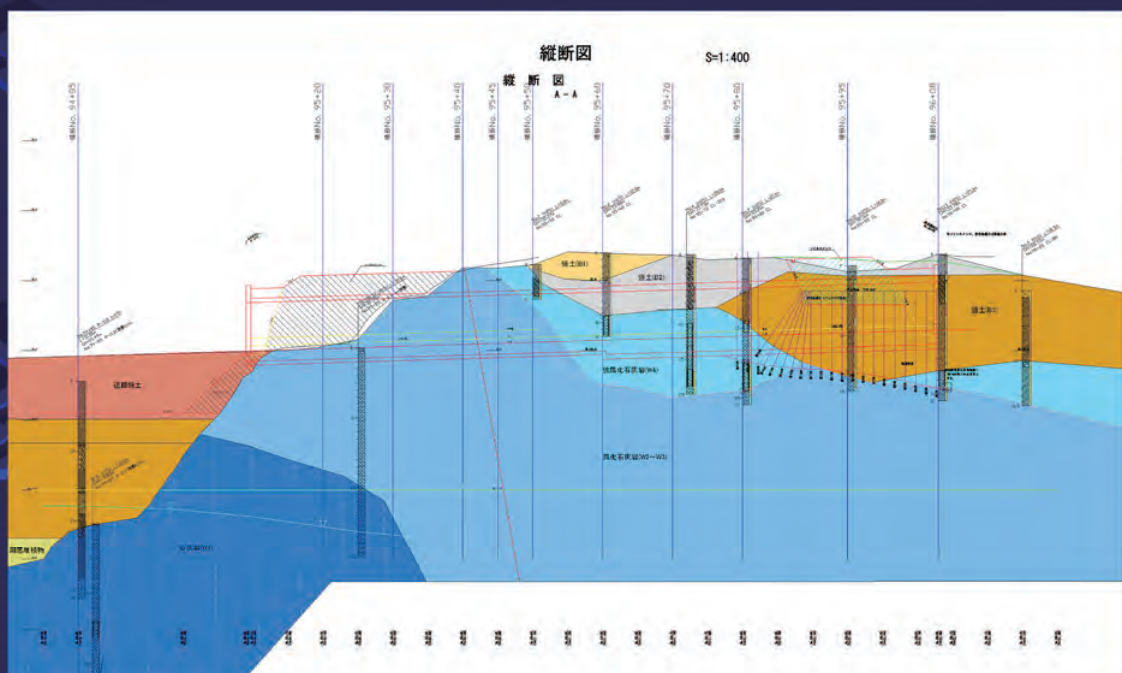
項 目	単 位	数 量
山岳トンネル詳細設計		
設計計画, 条件確認, 現地踏査	式	1
本体工設計	断面	3
補助工法の選定		
天端・脚部の検討(2次元FEM解析)	断面	3
切羽の検討(3次元FEM解析)	式	1
支保構造照査(フレーム解析)	断面	3
覆工構造設計		
Ⅱ期線影響検討(2次元FEM解析)	断面	3
構造設計(フレーム解析)	断面	3
照査	式	1
設計協議	式	1

■地質縦断図



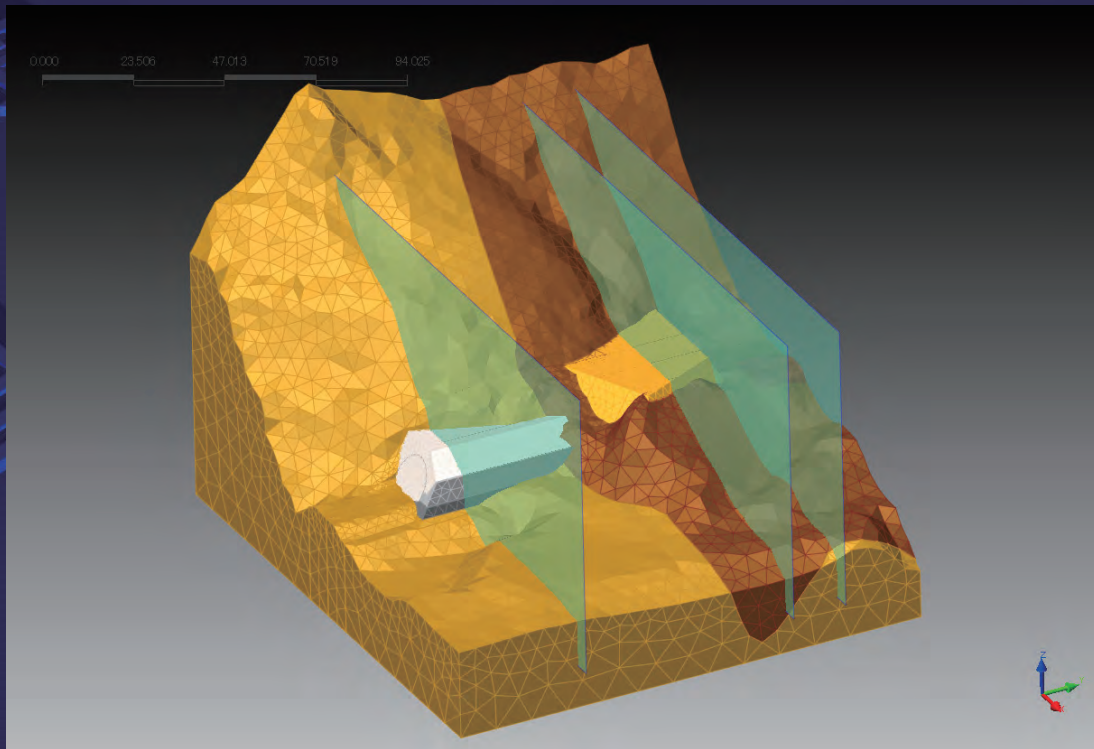
トンネル L-5.0m における地質縦断図

■地質縦断図

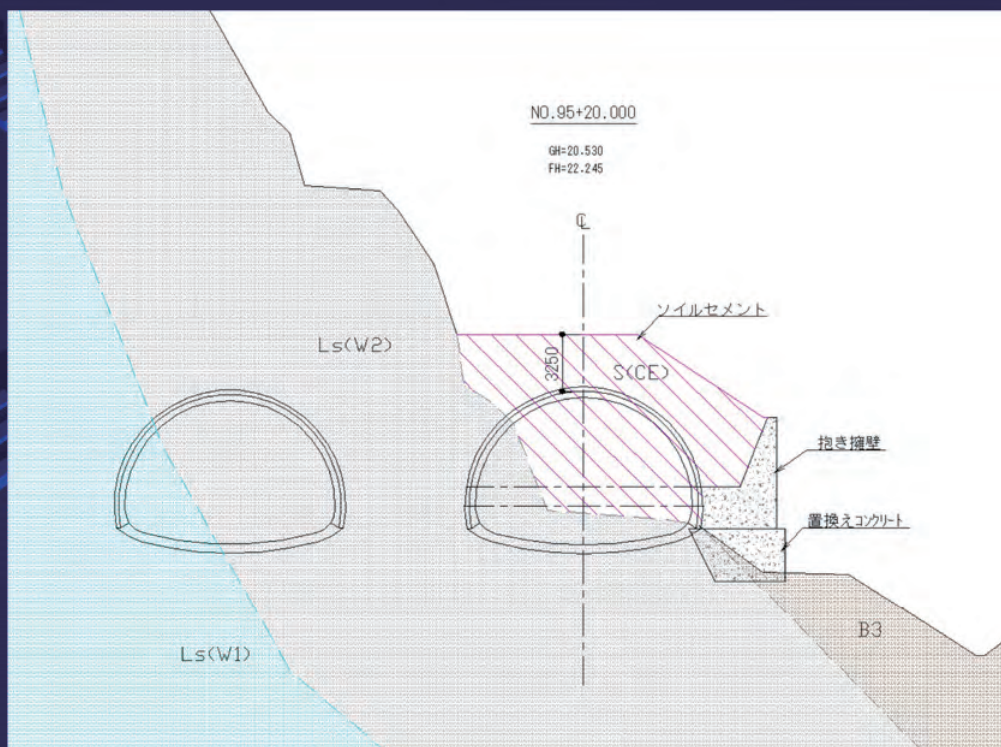


トンネルセンターにおける地質縦断図

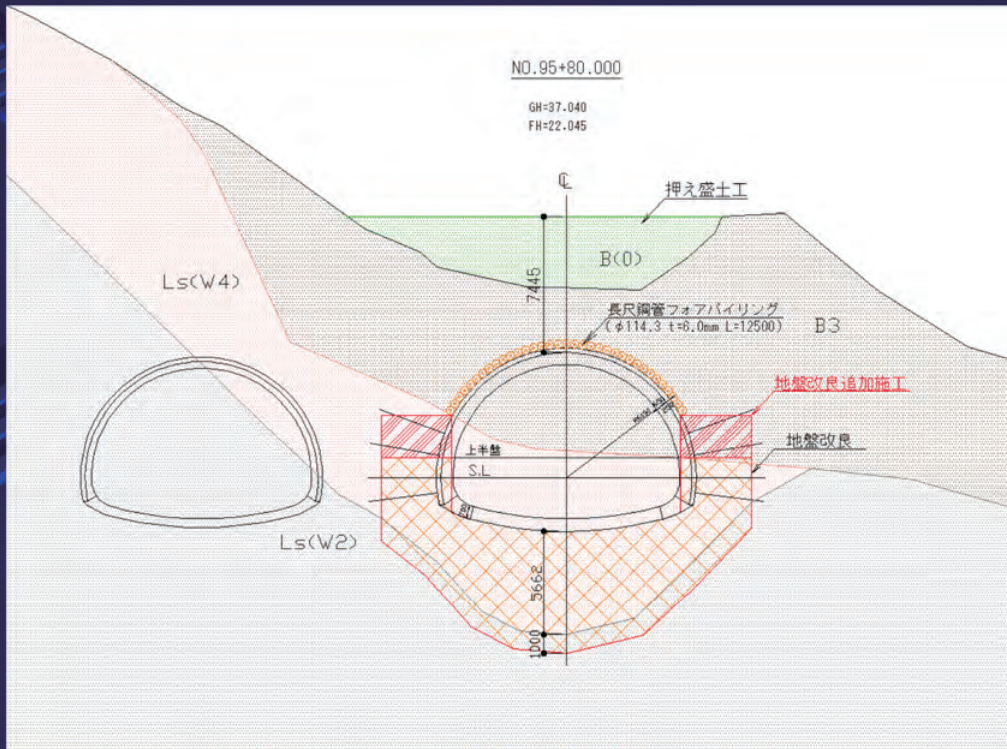
■覆工設計断面



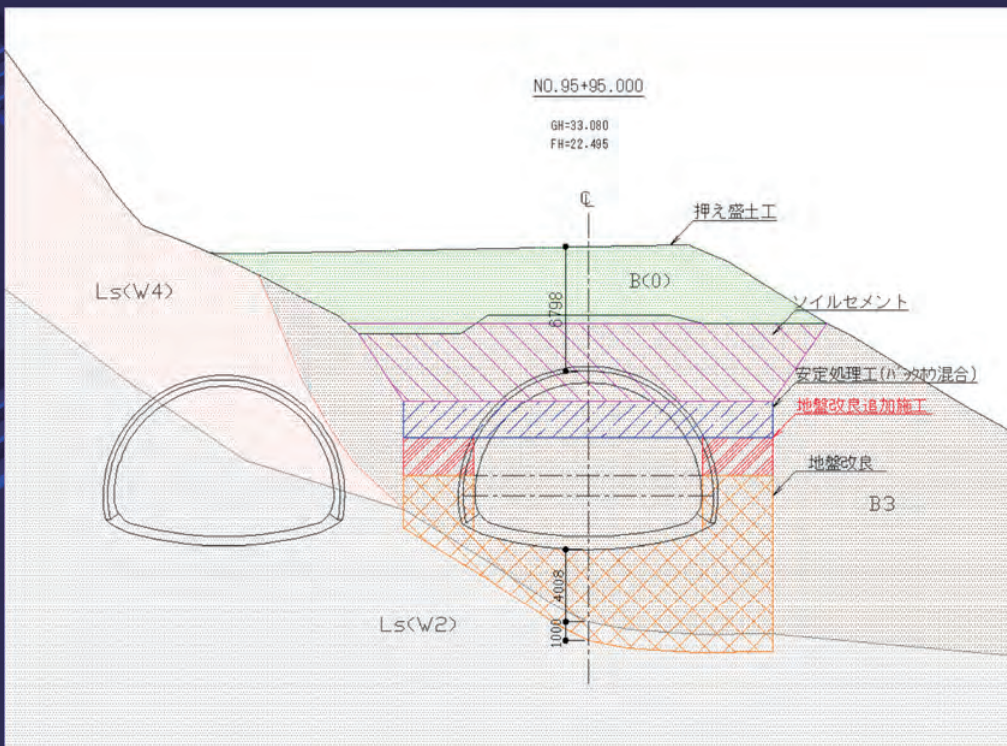
■覆工設計断面



■覆工設計断面



■覆工設計断面

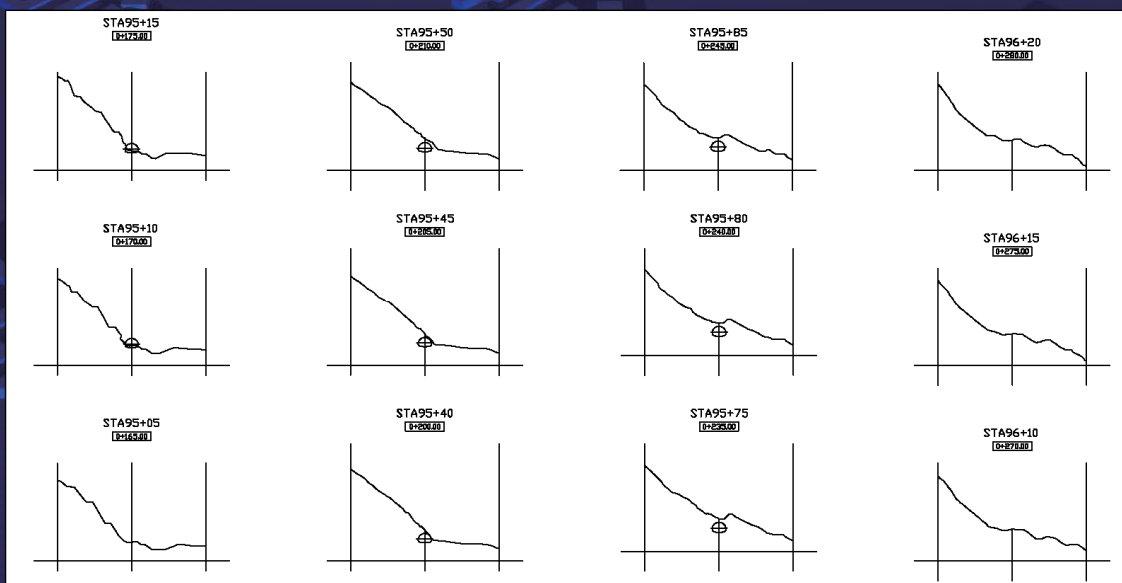


■ 3次元FEMのモデル化

・ 地表面形状作成手順の紹介

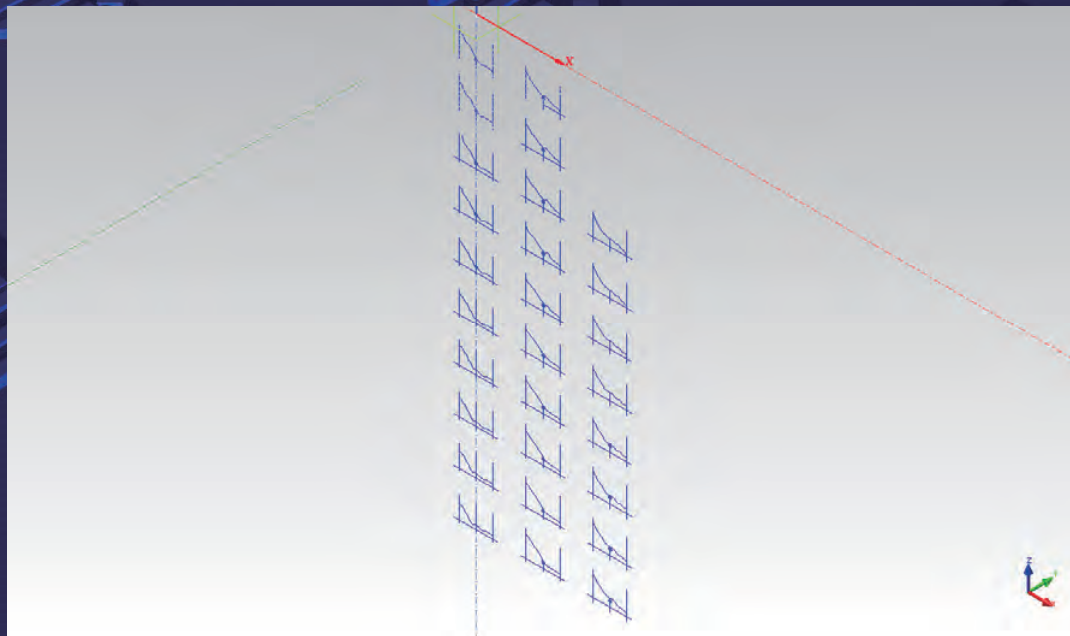
■ 3次元FEMのモデル化

Step-1 CADで横断面図を作成



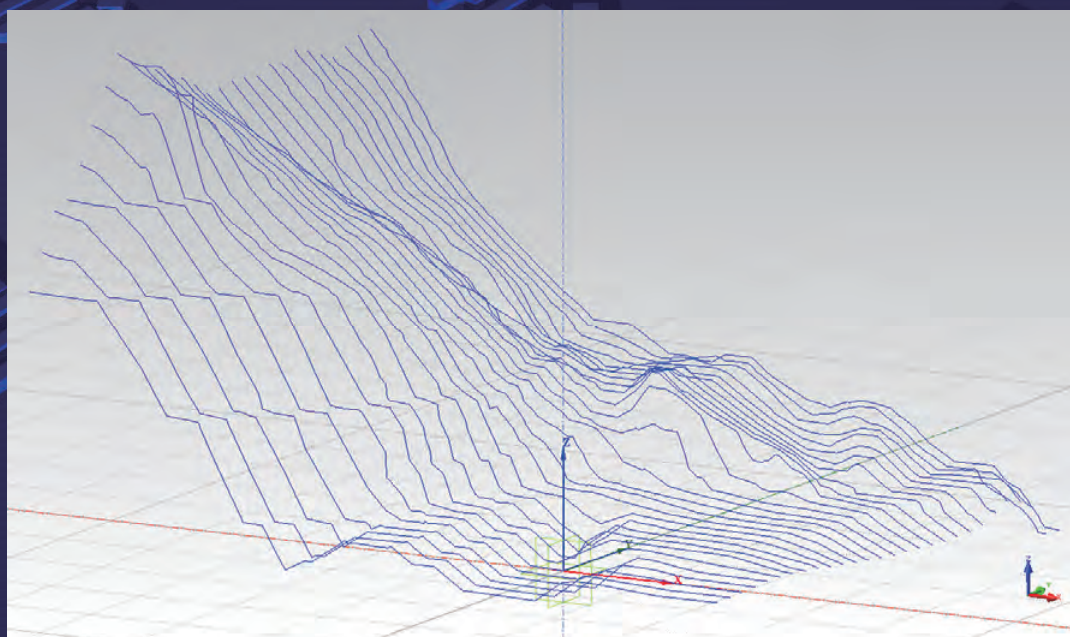
■ 3次元FEMのモデル化

Step-2 GTS上でCADデータ (DXF) 読み込み



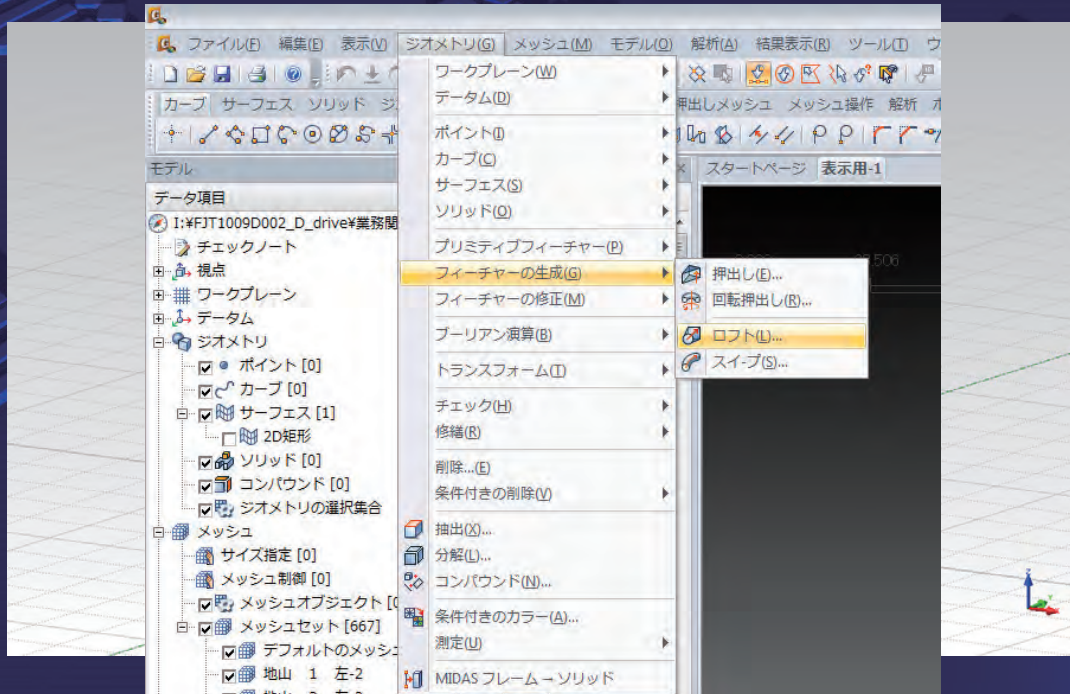
■ 3次元FEMのモデル化

Step-3 地表面ラインを3次元に配置

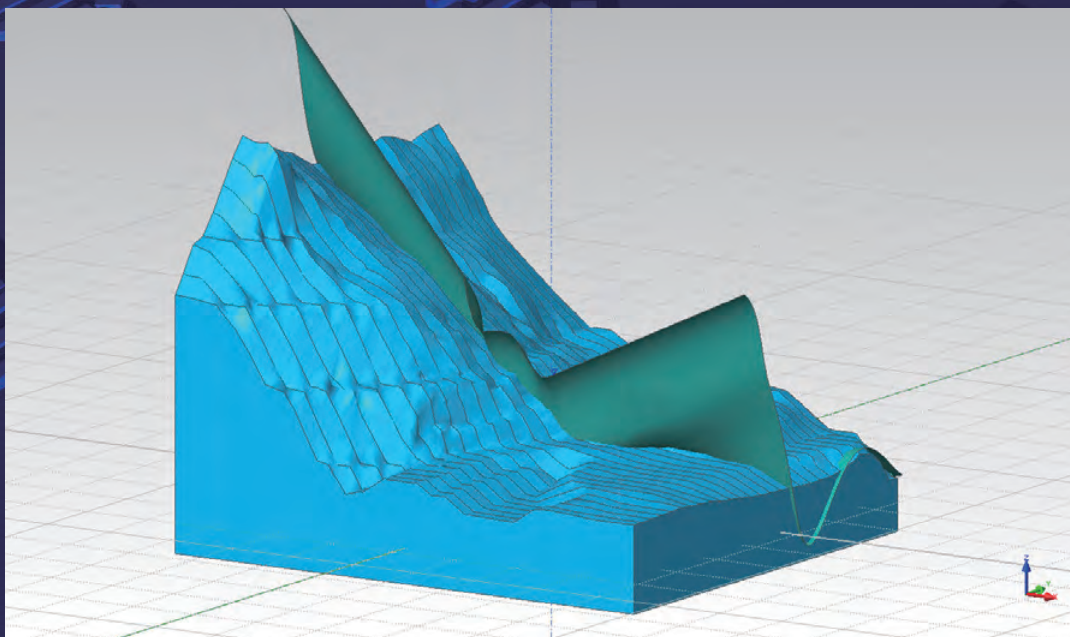


■ 3次元FEMのモデル化

Step-4 ロフトによりサーフェスを生成



■ 3次元FEMのモデル化



■ 3次元FEMのモデル化

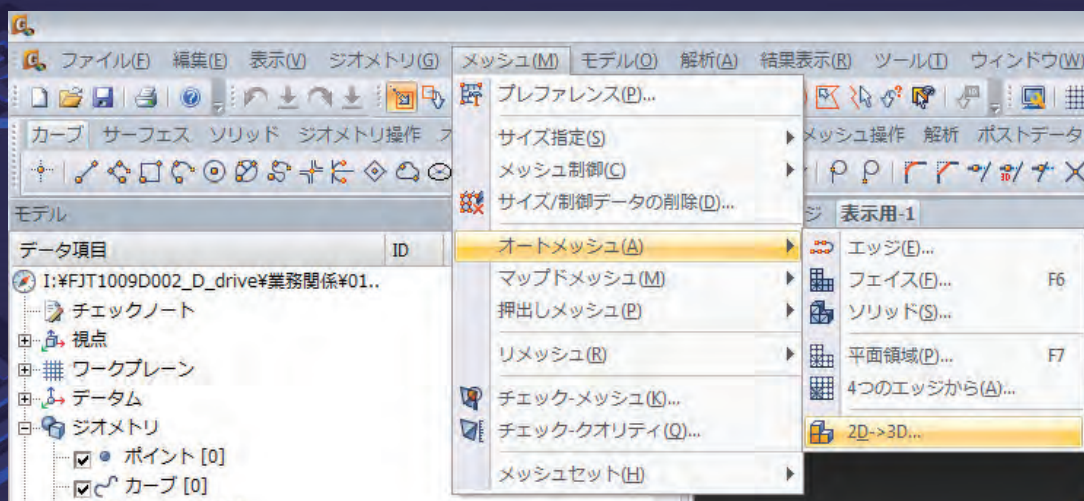
- ・メッシュ作成手法の紹介
- モデル化において最も厄介な点はメッシュセット隣接面の節点共有!!!



確実に共有させる方法

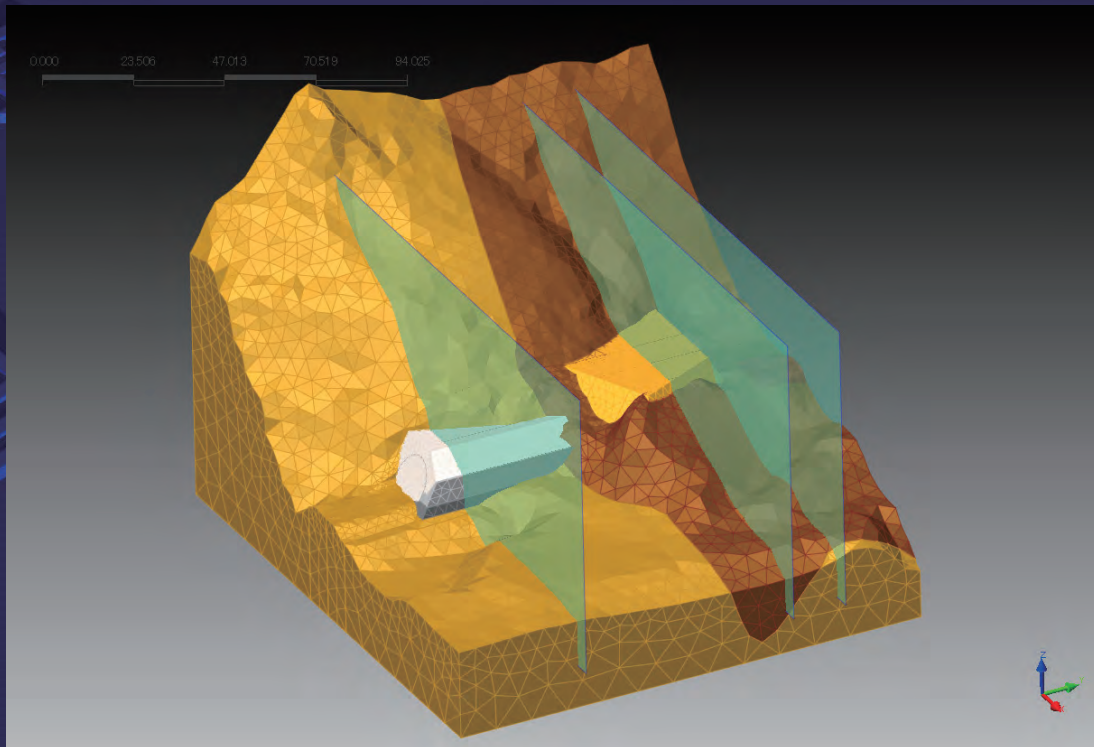
メッシュ⇒オートメッシュ⇒2D→3D

■ 3次元FEMのモデル化

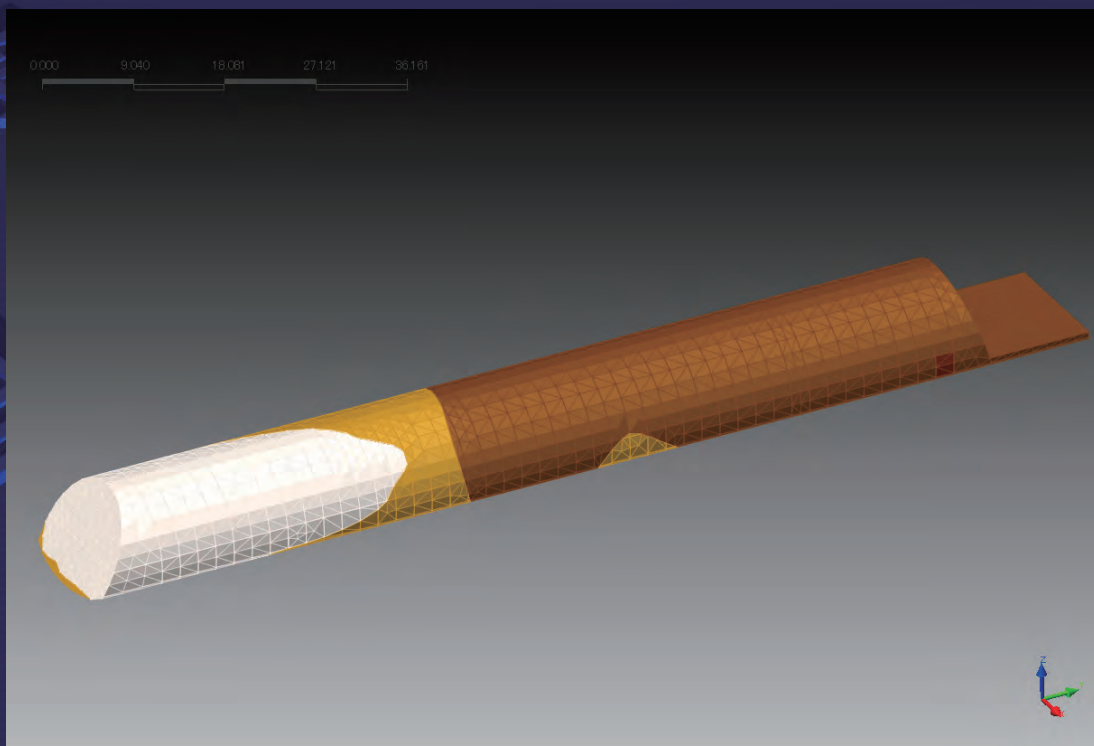


メッシュセット単位でソリッドを分割し、その表面に2D要素を作成して閉じた箱を作り、その中を3D要素で詰める手法。

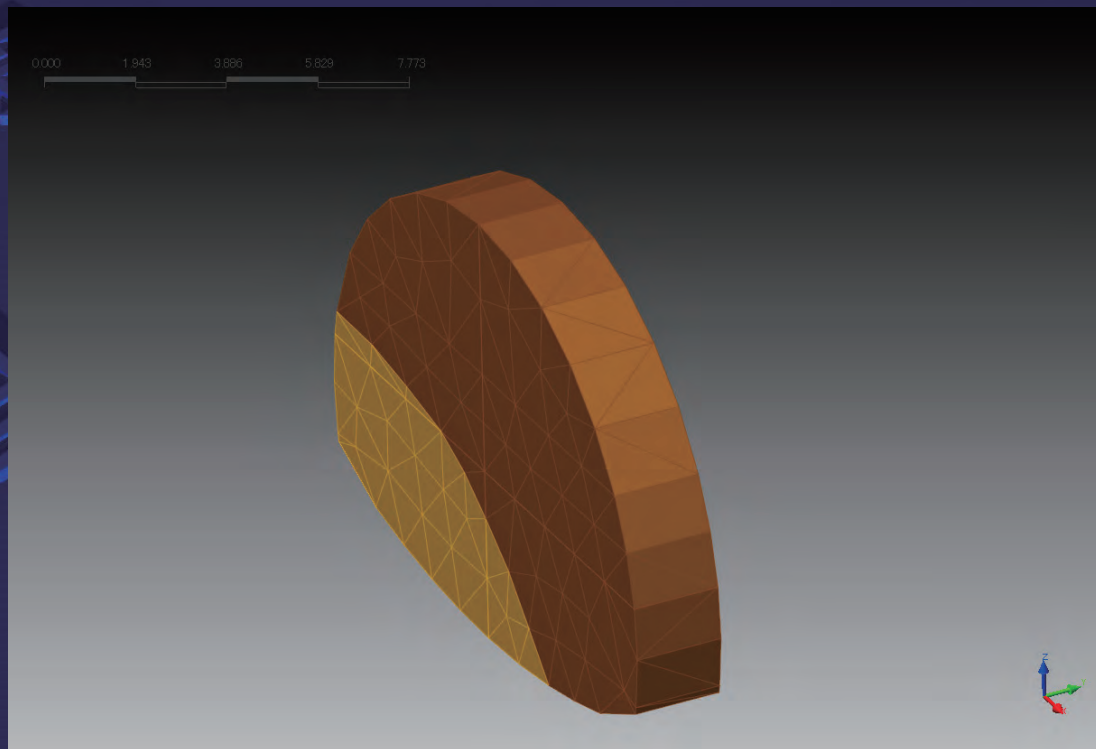
■ 3次元FEMのモデル化



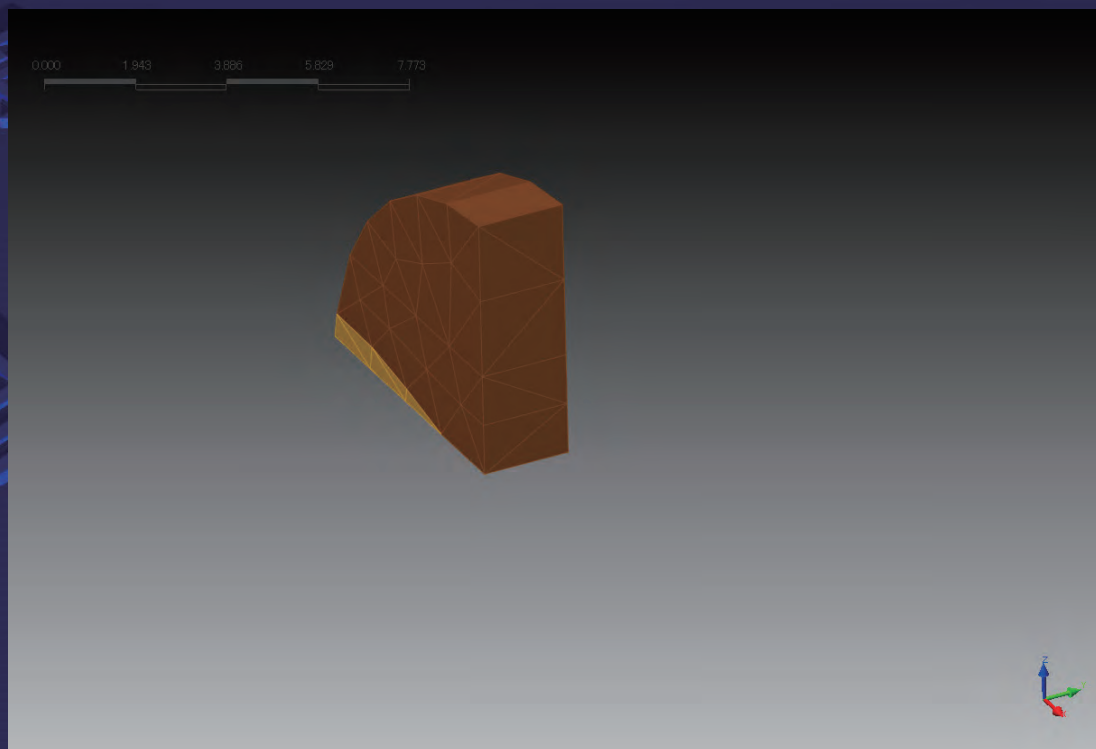
■ 3次元FEMのモデル化



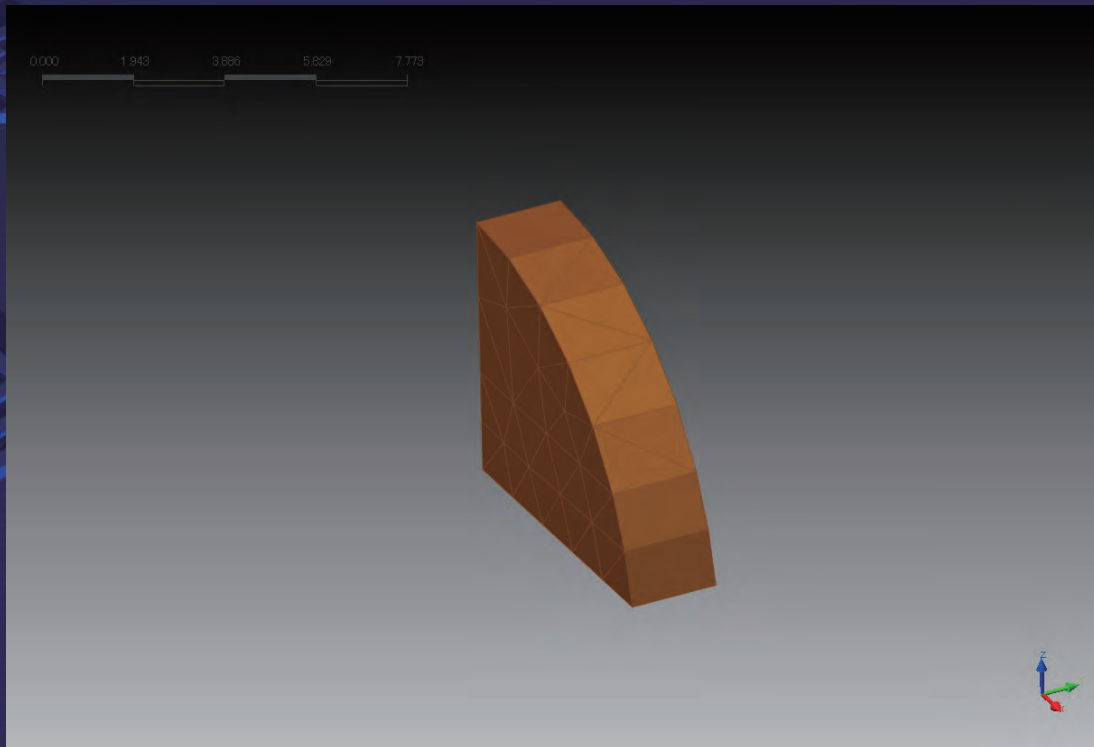
■ 3次元FEMのモデル化



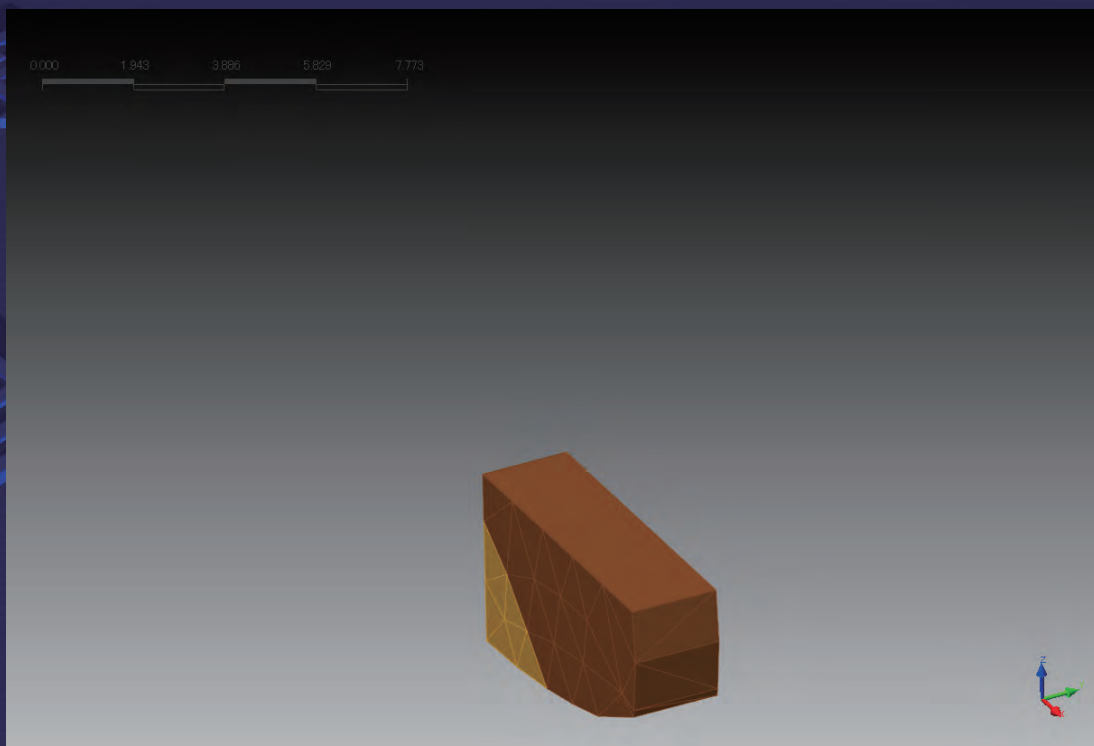
■ 3次元FEMのモデル化



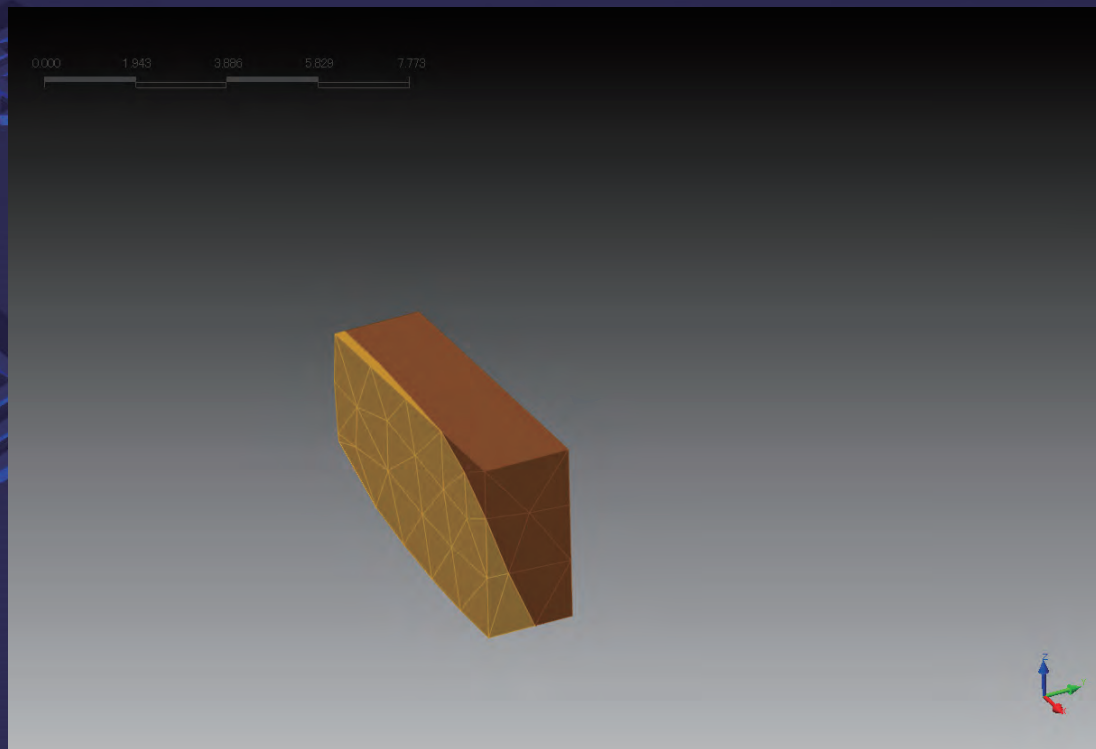
■ 3次元FEMのモデル化



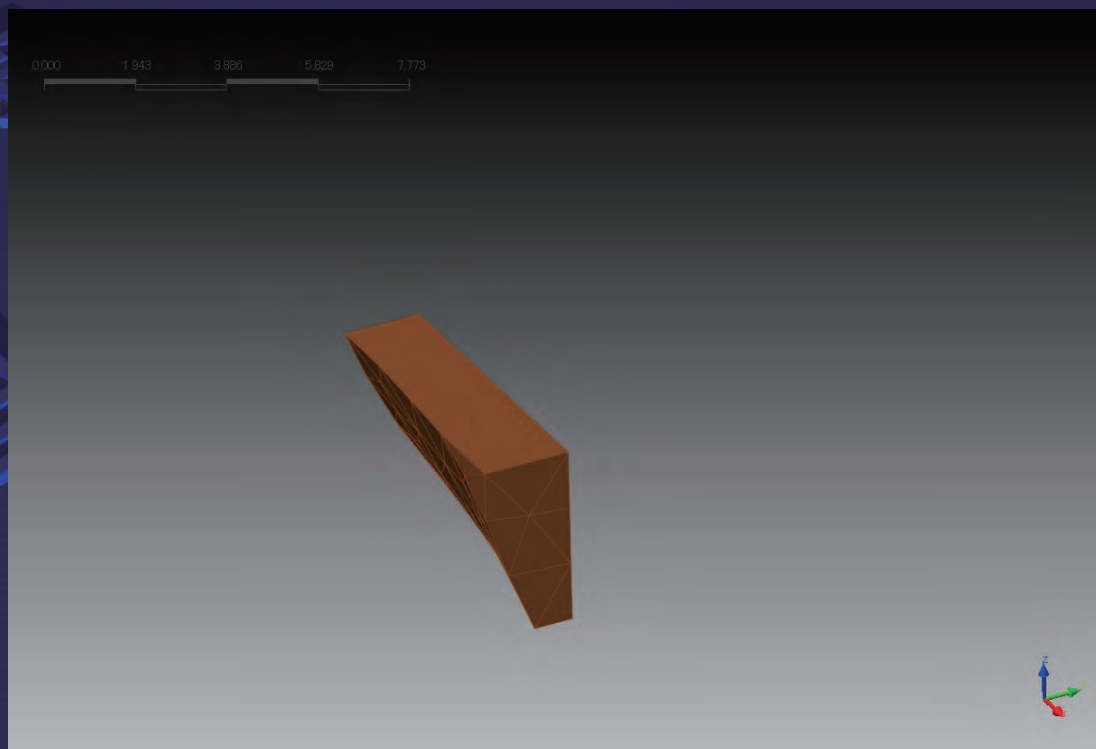
■ 3次元FEMのモデル化



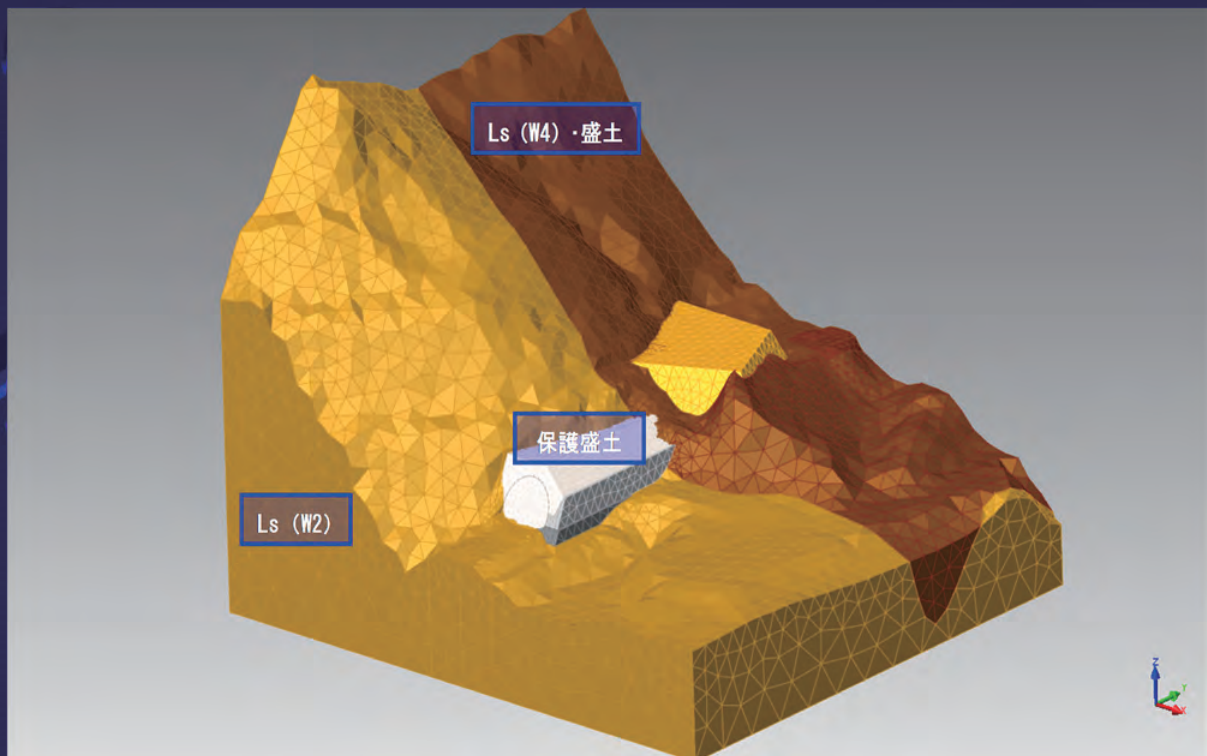
■ 3次元FEMのモデル化



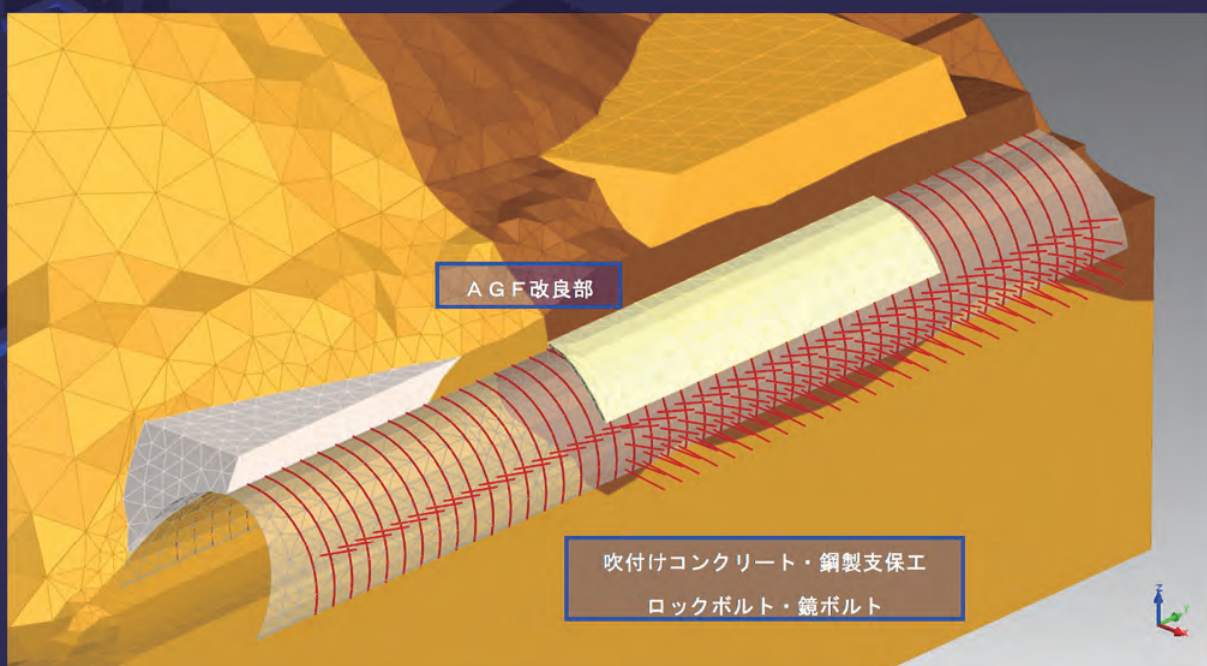
■ 3次元FEMのモデル化



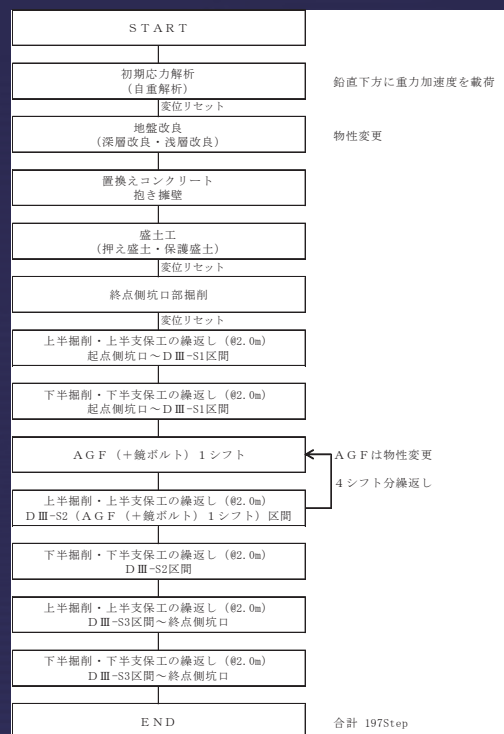
■ 3次元FEMのモデル化



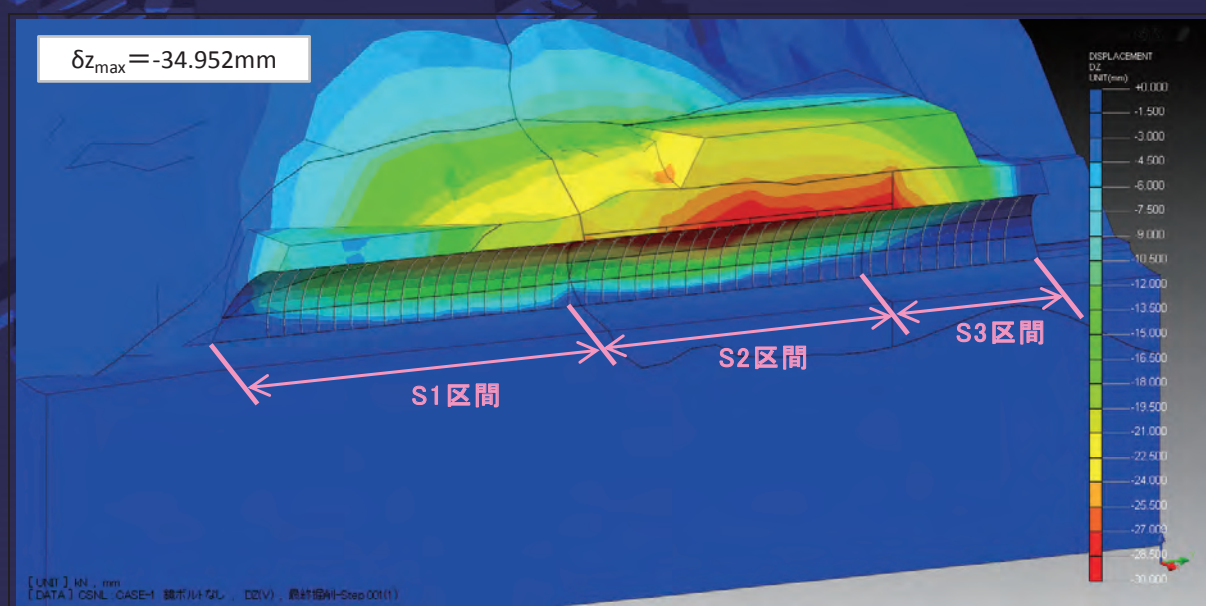
■ 3次元FEMのモデル化



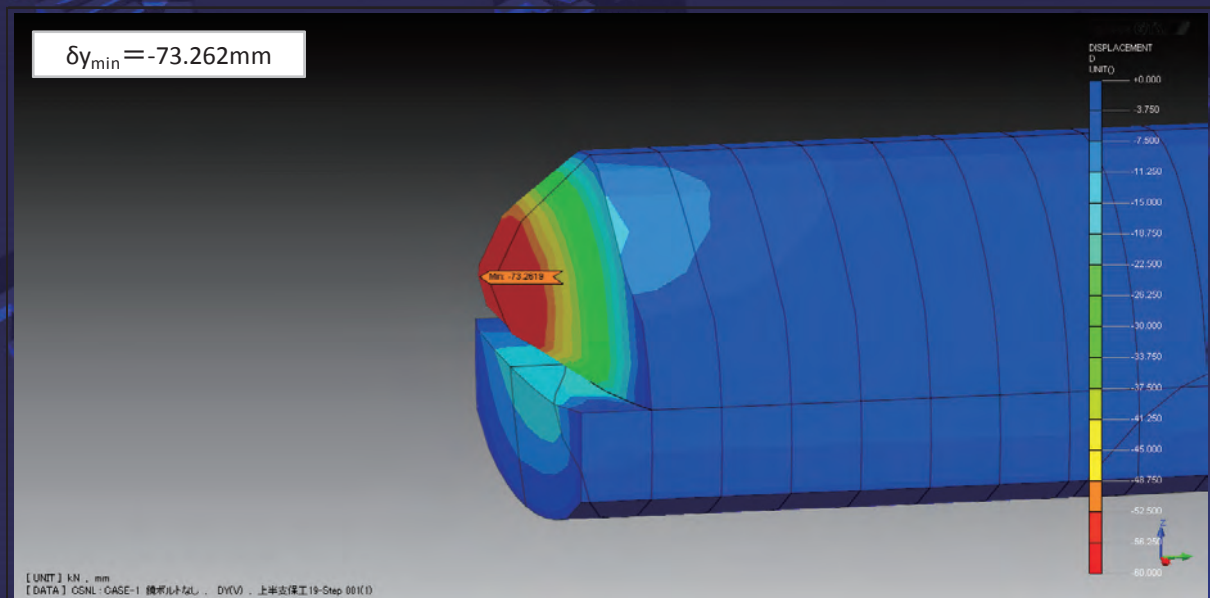
■ 3次元FEMのモデル化



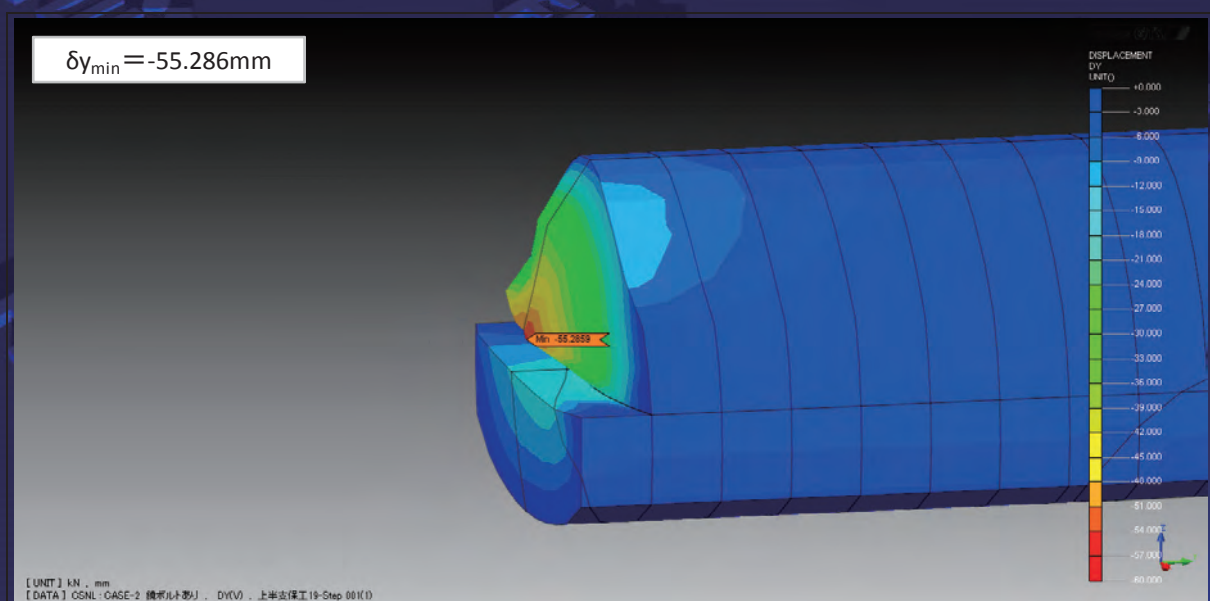
■ 解析結果の一例



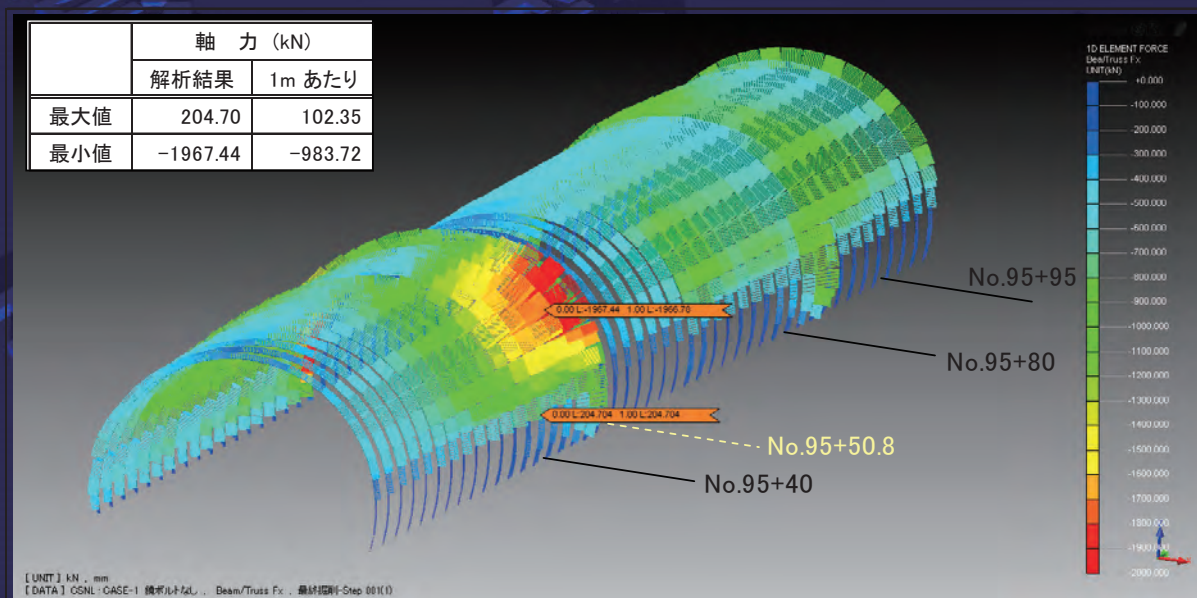
■ 解析結果の一例



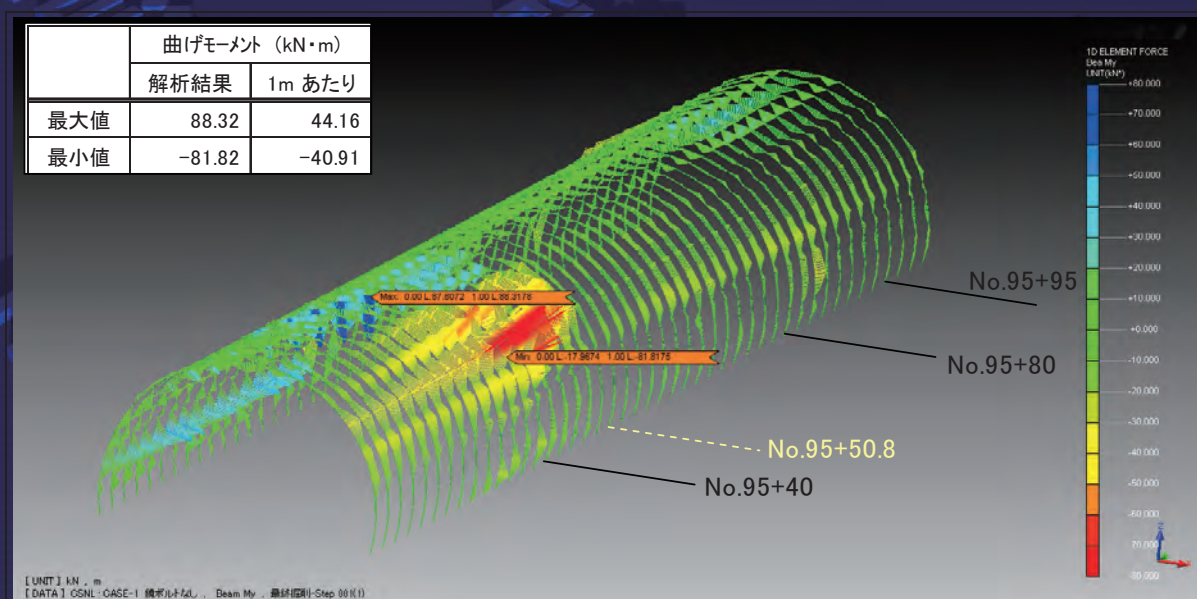
■ 解析結果の一例



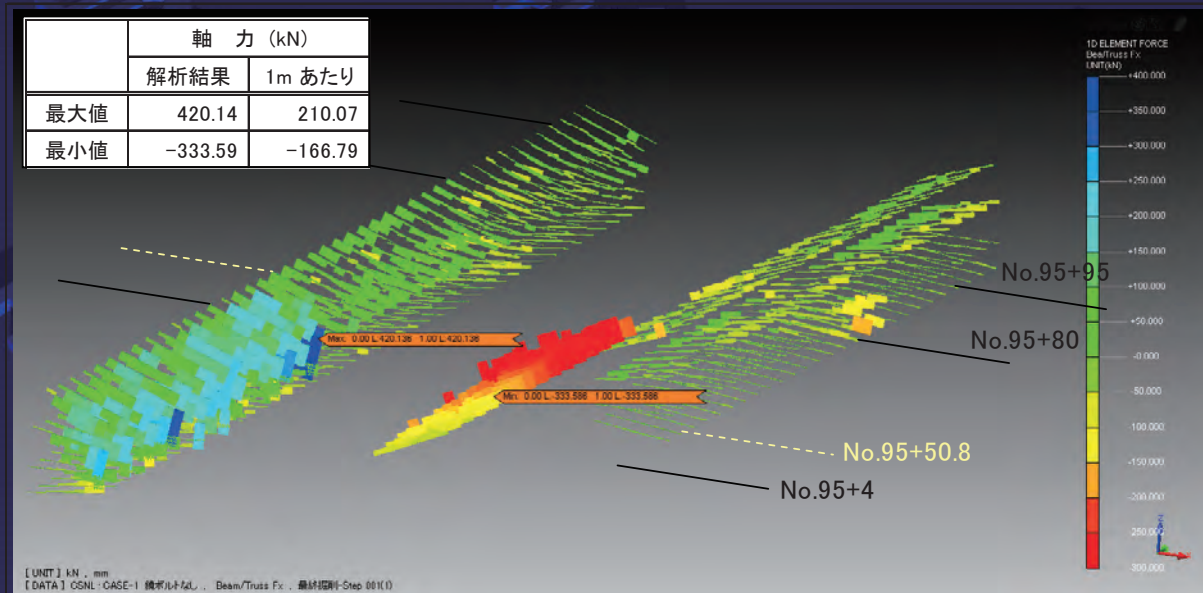
■ 解析結果の一例



■ 解析結果の一例



■解析結果の一例



■まとめ

- ・ 3次元解析を行って全体の傾向を把握
- ↓
- ・ 設計断面以外の部分が最も厳しい事が判明
- ↓
- ・ 施工時の注意喚起（変形大，小崩落発生）
- ↓
- ・ 事前予測が出来ていたので素早く対応

3次元解析を実施しないと見えない事も多い!!!

03 避難連絡坑を考慮したトンネル 3次元解析モデル

株式会社フジタ 徳永 高志 様

2015年4月22日(水)

避難連絡坑を考慮した トンネル3次元解析モデル

株式会社フジタ
徳永 高志

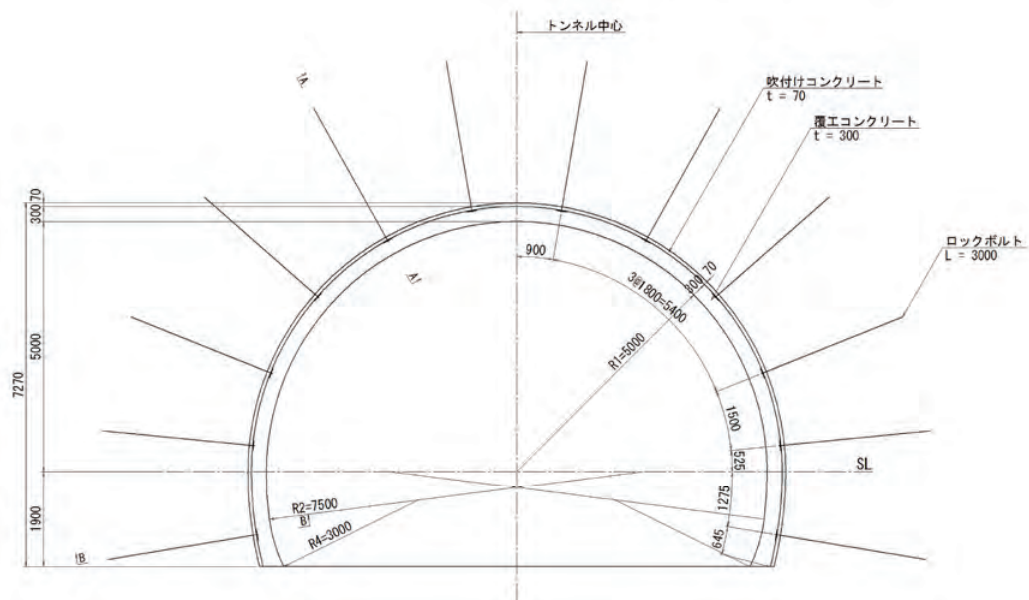
1. 解析概要



・トンネルタイプ

GTS NX

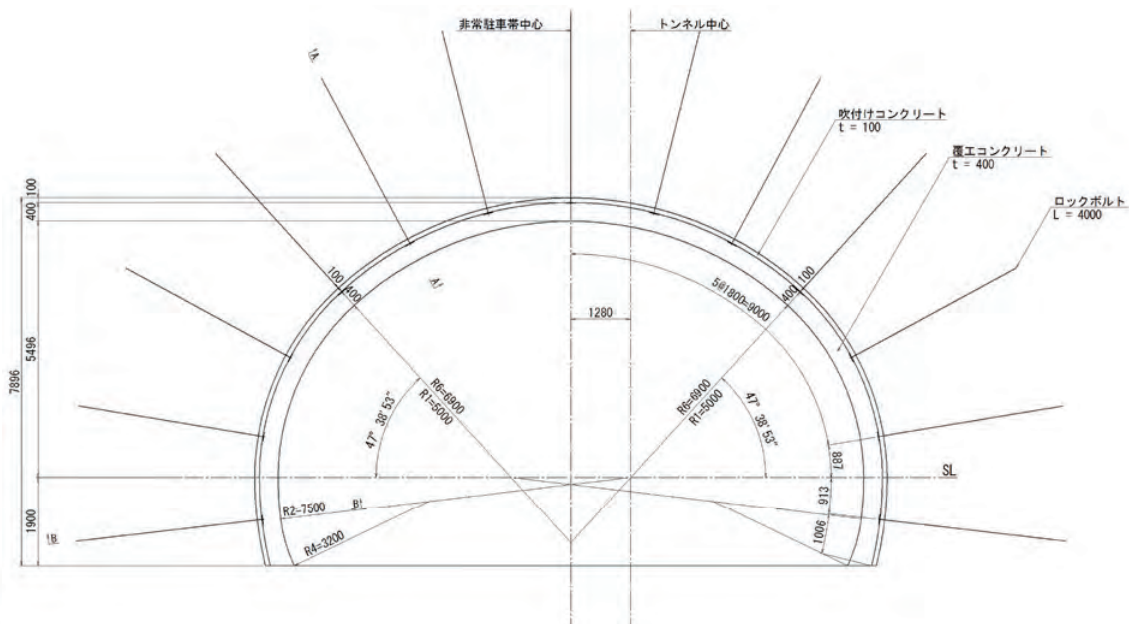
標準タイプ



・トンネルタイプ

GTS NX

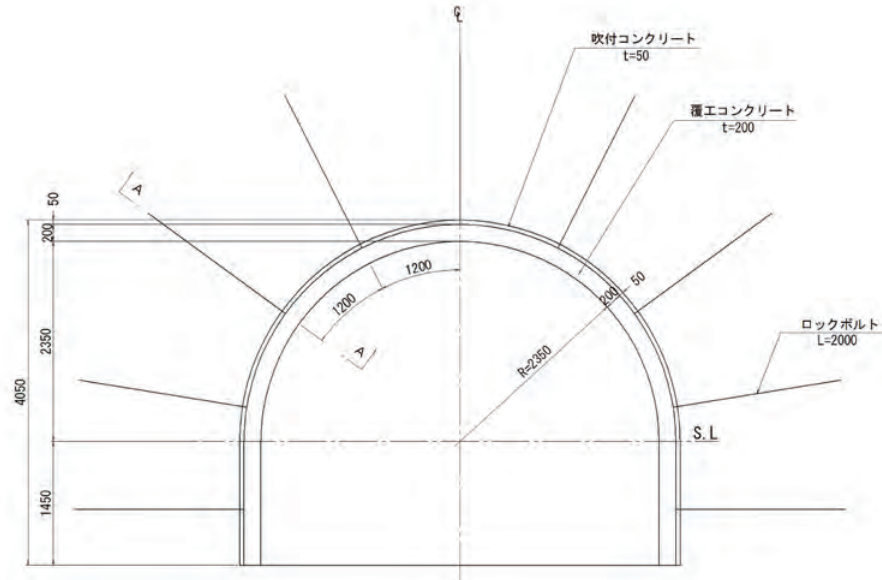
拡幅タイプ



トンネルタイプ

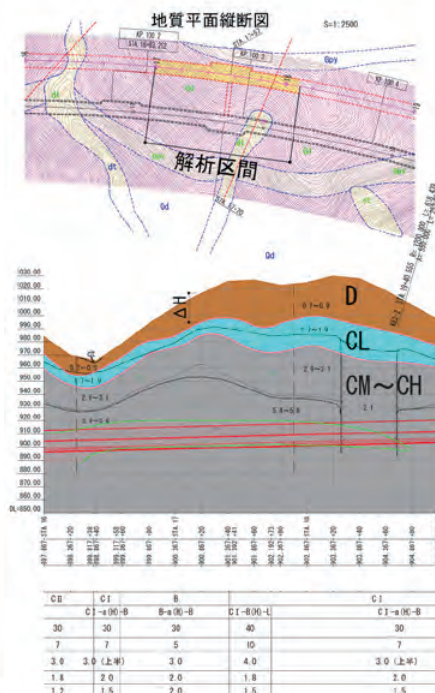
GTS NX

避難連絡坑



地質縦断面図

GTS NX



岩 級 区 分		N値	単位体積重量	変形係数: E_u	ポアソン比	粘着力	内部摩擦角	備 考
			γ (kN/m ³)	(kN/m ²)	ν	C (kN/m ²)	ϕ (°)	
土砂	D	—	17.0	50,000	0.35	0	36	
軟岩	CL	—	19.0	90,000	0.30	60	37	
中硬岩	CM	—	24.0	750,000	0.25	320	40	
中硬岩～硬岩	CM～CH	—	25.0	875,000	0.25	660	45	CMとCHの平均値
硬岩	CH	—	26.0	1,000,000	0.25	1000	50	一般値
改良体	—	—	20.0	2,210,000	0.17	—	—	先行注入ボルト(参考値)

地 質 層 序 表

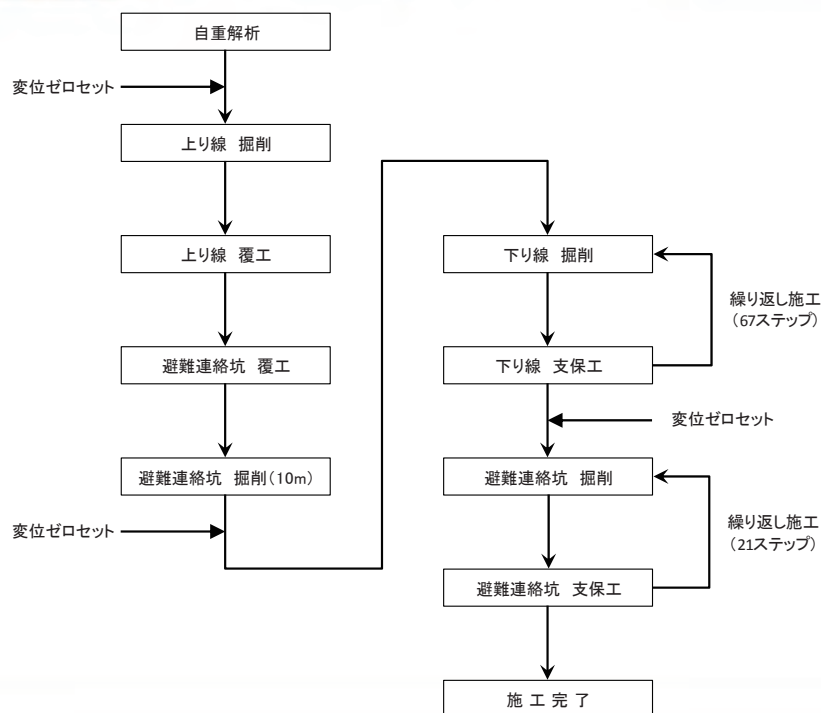
地層番号	地層名	地層説明	地層厚	地層位置	地層年代	地層特性	地層利用
1	表土	表土層	0.5	地表	現代	軟弱	基礎
2	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
3	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
4	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
5	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
6	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
7	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
8	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
9	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
10	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
11	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
12	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
13	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
14	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
15	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
16	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
17	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
18	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
19	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
20	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
21	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
22	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
23	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
24	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
25	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
26	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
27	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
28	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
29	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
30	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
31	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
32	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
33	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
34	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
35	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
36	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
37	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
38	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
39	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
40	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
41	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
42	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
43	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
44	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
45	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
46	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
47	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
48	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
49	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
50	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
51	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
52	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
53	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
54	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
55	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
56	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
57	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
58	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
59	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
60	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
61	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
62	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
63	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
64	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
65	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
66	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
67	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
68	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
69	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
70	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
71	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
72	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
73	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
74	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
75	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
76	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
77	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
78	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
79	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
80	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
81	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
82	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
83	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
84	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
85	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
86	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
87	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
88	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
89	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
90	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
91	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
92	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
93	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
94	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
95	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
96	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
97	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
98	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
99	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎
100	砂層	砂層	1.0	地表下	現代	軟弱	基礎

・解析条件



解 析 手 法		本解析
		3次元線形FEM解析
解析範囲	側方	50m(4.5D)
	下方	40m(3.5D)
要素モデル	地盤	立体要素
	連絡坑既設コンクリート	立体要素
	吹付・覆工コンクリート	板要素
	ロックボルト	棒要素
拘束条件	側方	水平変位固定
	下方	水平・鉛直変位固定

・解析条件

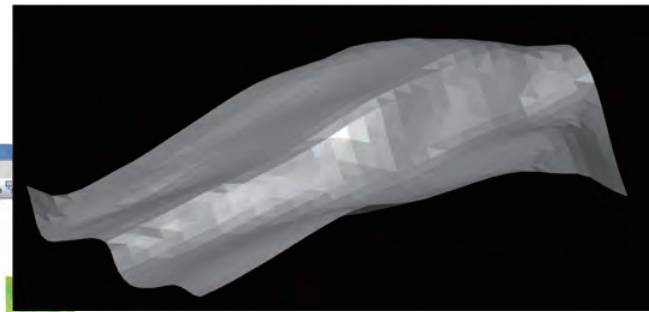


2.モデル作成

GTS NX

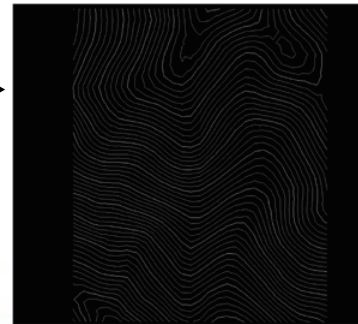
・地表面データの取込

★国土地理院より無料で入手



AutoCAD Civil3Dに取込み, サーフェスを作成!

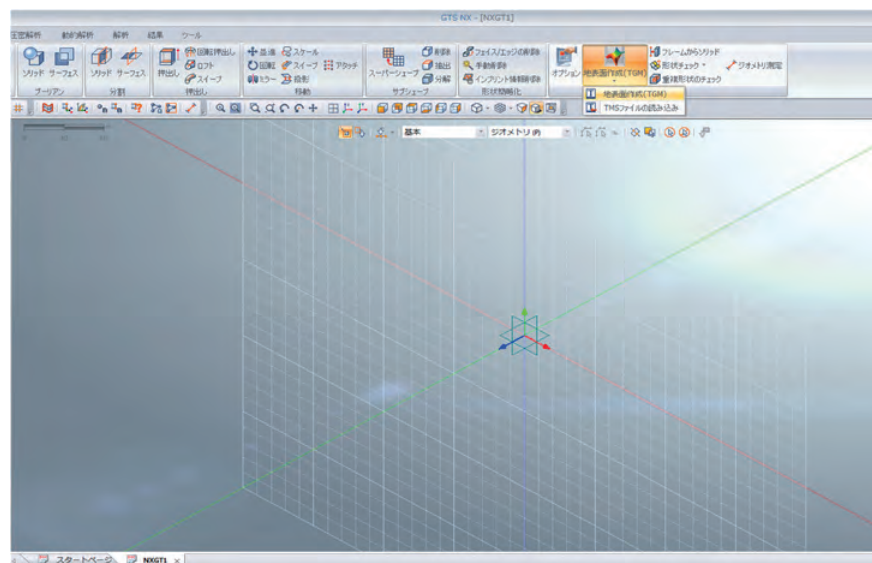
サーフェスを等高線データに変換し, DXFで保存!



サーフェスの取込

GTS NX

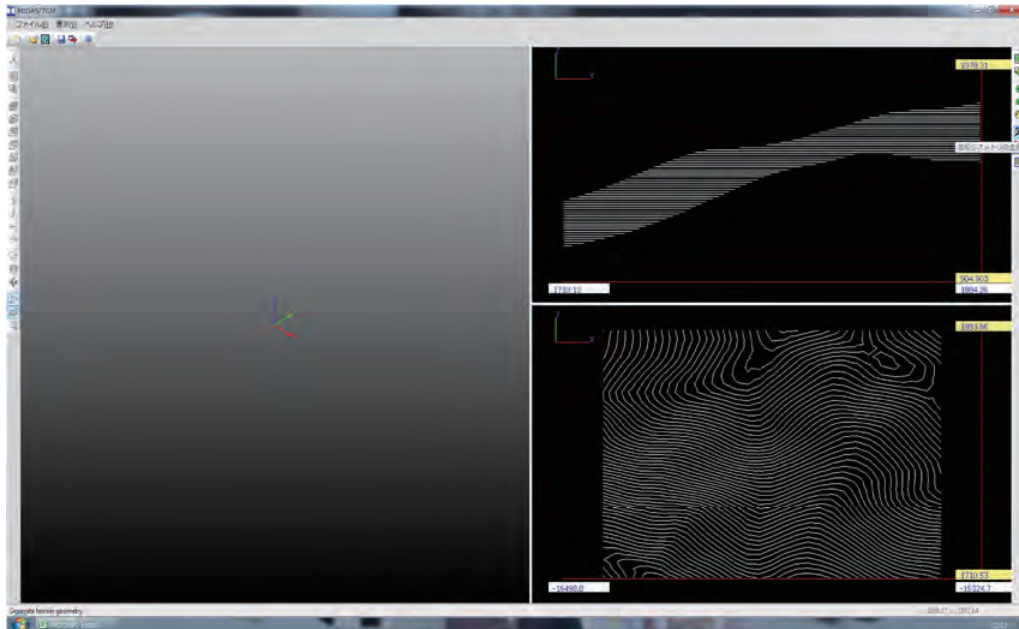
ジオメトリ → ツール → 地表面作成(TGM)を開く!



サーフェスの取込

GTS NX

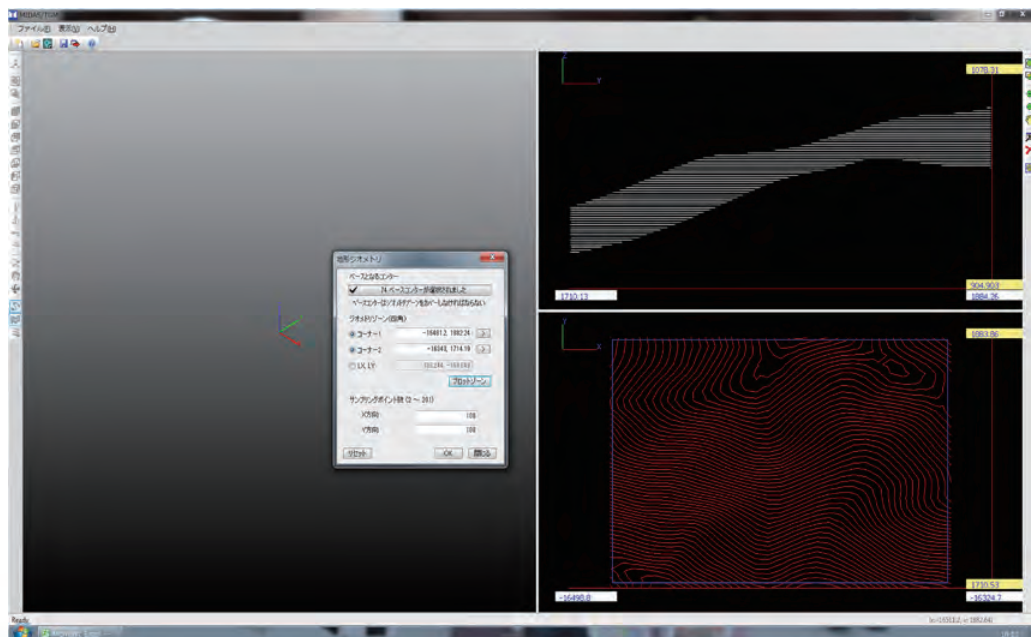
DXFファイルを開く



サーフェスの取込

GTS NX

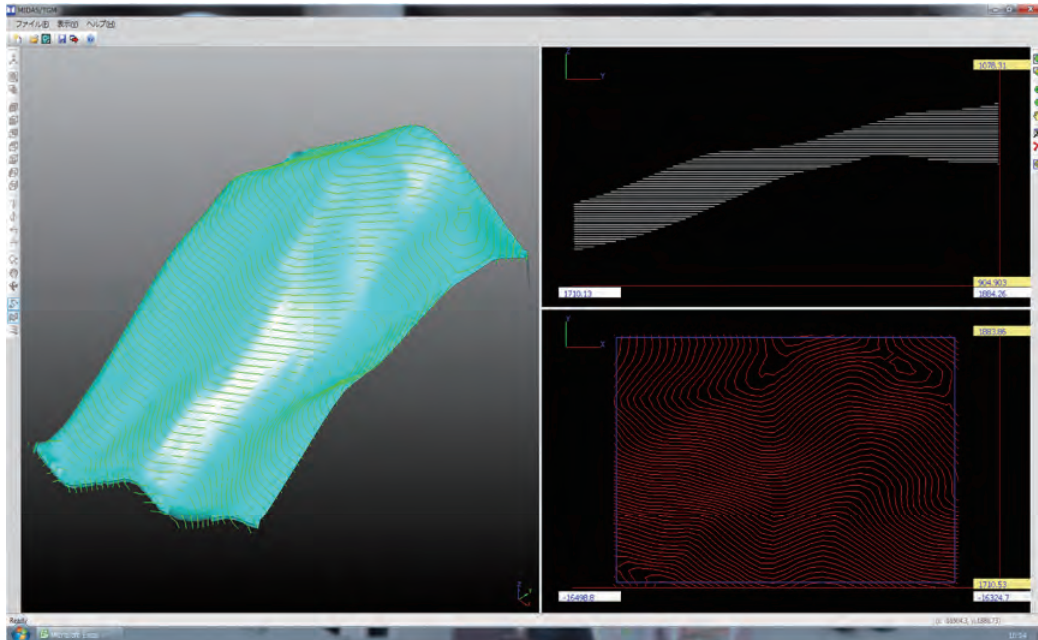
ベースコンタおよびプロットエリアの設定



サーフェスの取込

GTS NX

サーフェスの作成 → サーフェスの書出しでTMSファイルで保存！



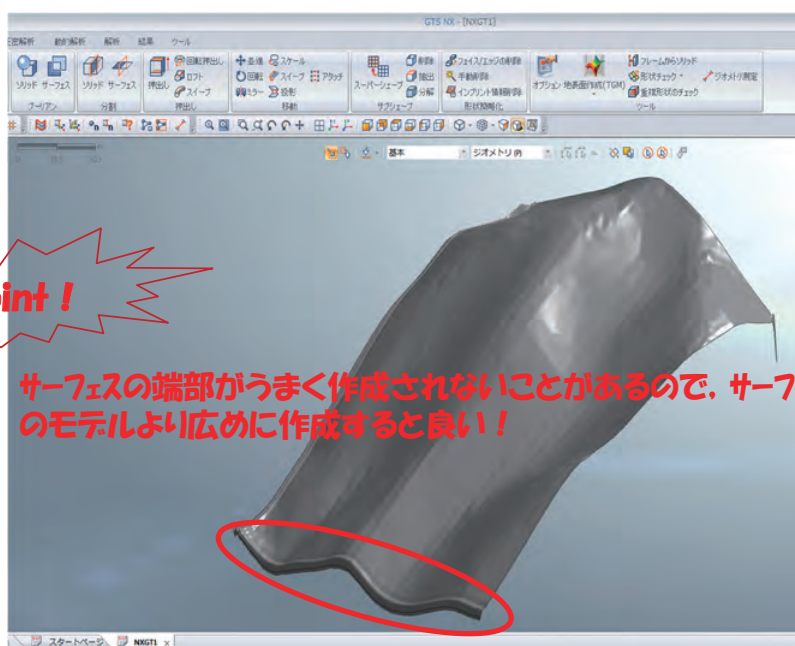
サーフェスの取込

GTS NX

TMSファイルを地表面作成ツールから読み込む！

Point !

サーフェスの端部がうまく作成されないことがあるので、サーフェスは実際のモデルより広めに作成すると良い！

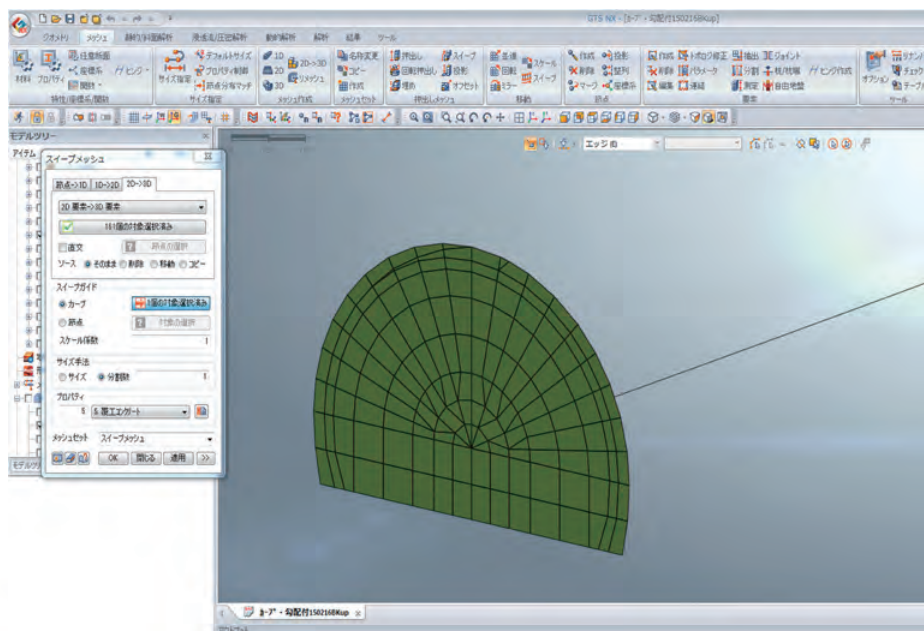


トンネルメッシュ



2Dメッシュで好みのメッシュを作成

→ 掘削延長に合わせて2Dメッシュを押出して3Dメッシュを作成！



トンネルメッシュ

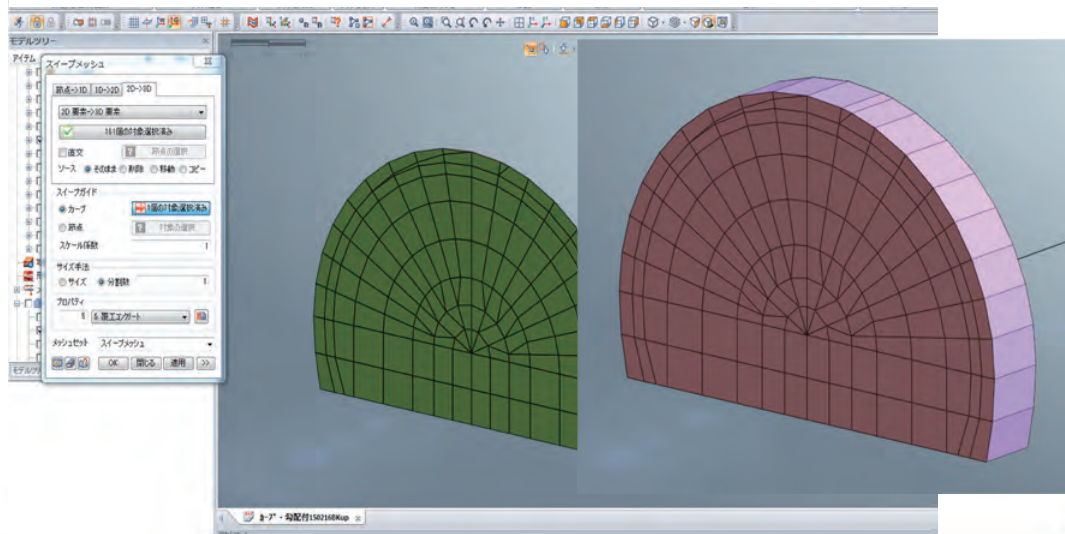


2Dメッシュで好みのメッシュを作成

→ 掘削延長に合わせて2Dメッシュを押出して3Dメッシュを作成！

あらかじめ、CAD等で3Dポリラインで線形を作成して、NXで読み込む

→ この線に合わせてスワイプメッシュで3Dメッシュを作成！

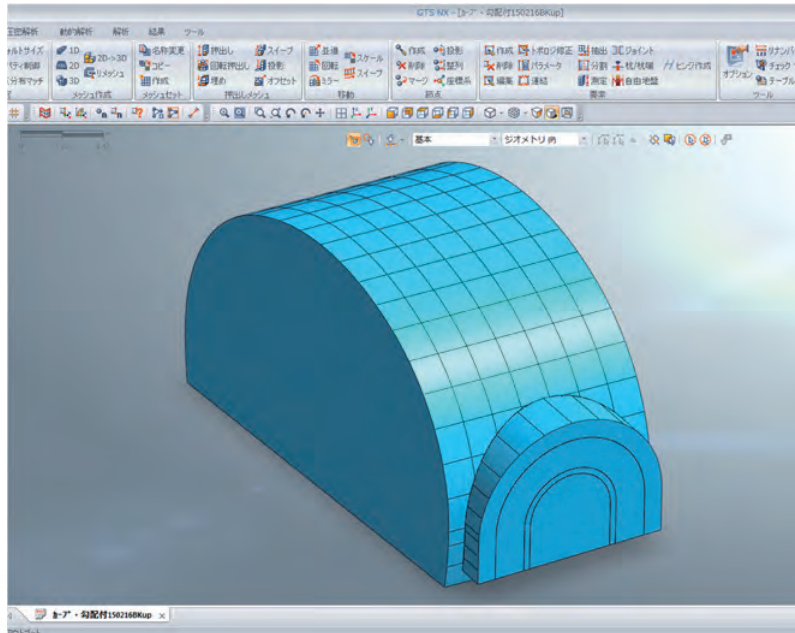


避難連絡坑接続部

GTS NX 

まず、接続部のソリッドを作成

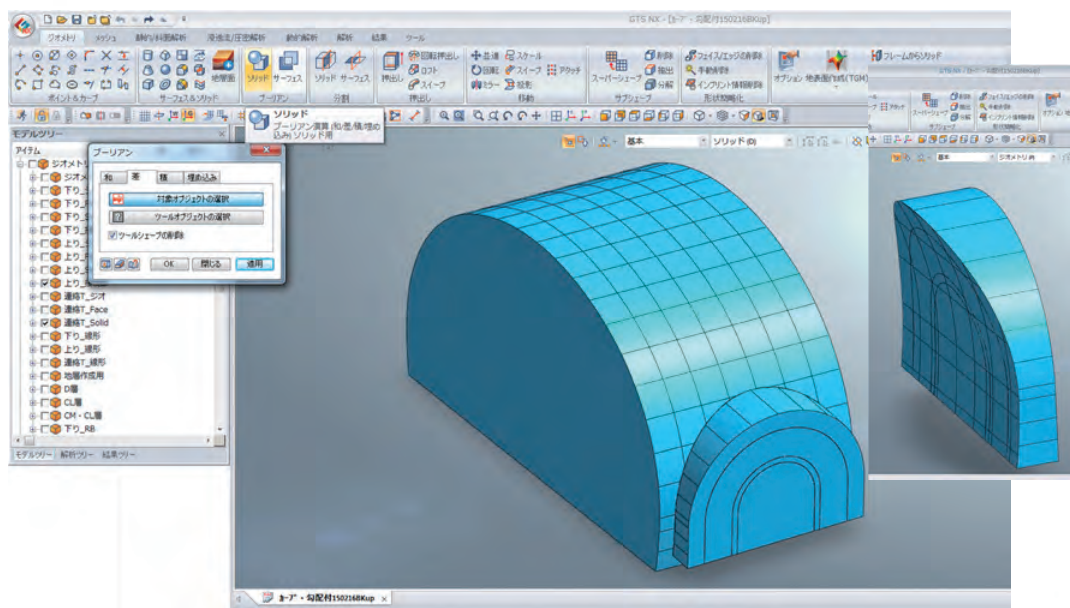
Point:この時、ソリッドは掘削長単位、外形はメッシュと同じ形状！



避難連絡坑接続部

GTS NX 

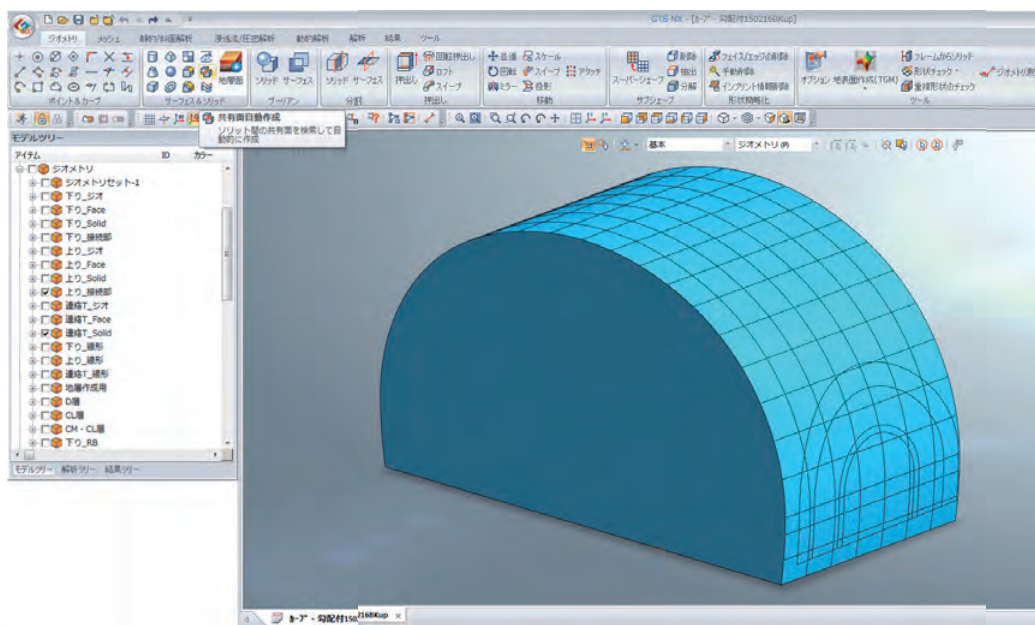
ジオメトリ → ブーリアン → 差 の機能を使い、連絡のソリッドを本設トンネル形状とする



避難連絡坑接続部

GTS NX

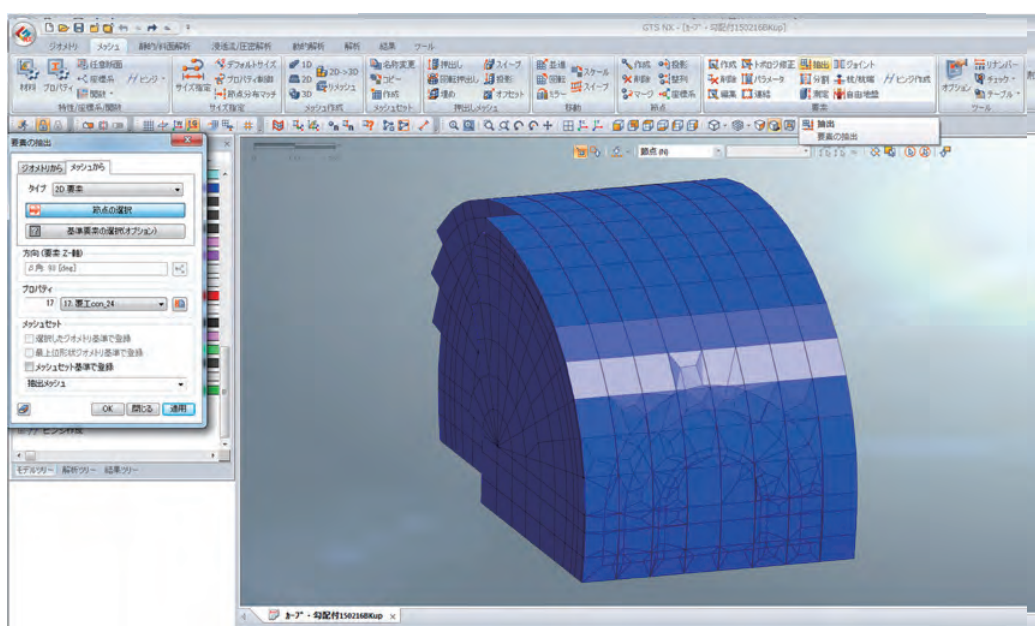
作成したソリッドを共有面自動作成で、共有する！
→ その後、自動メッシュでメッシュを作成！



避難連絡坑接続部

GTS NX

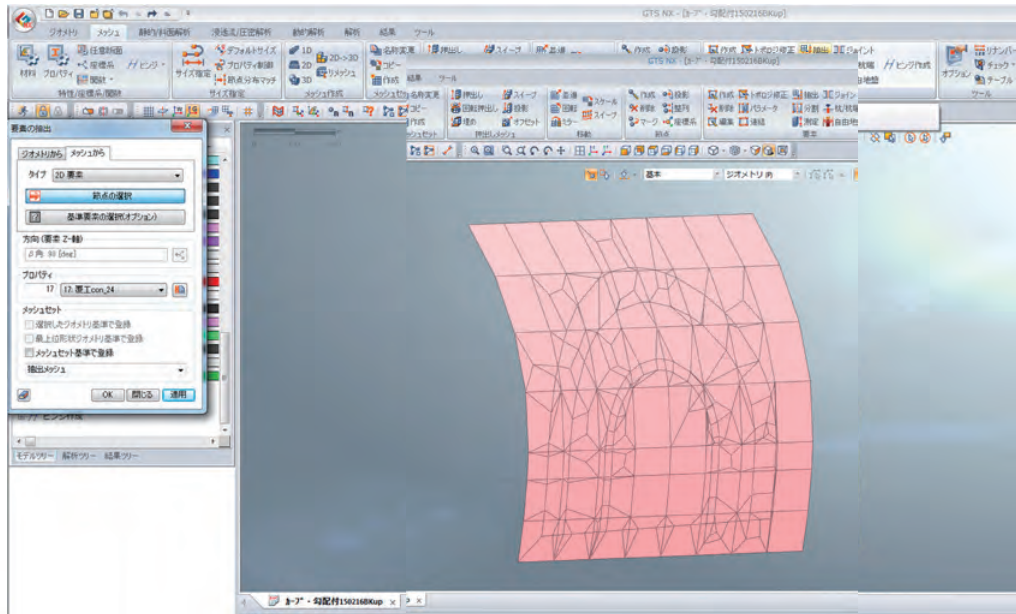
作成したソリッドを共有面自動作成で、共有する！
→ その後、自動メッシュでメッシュを作成！



避難連絡坑接続部

GTS NX 

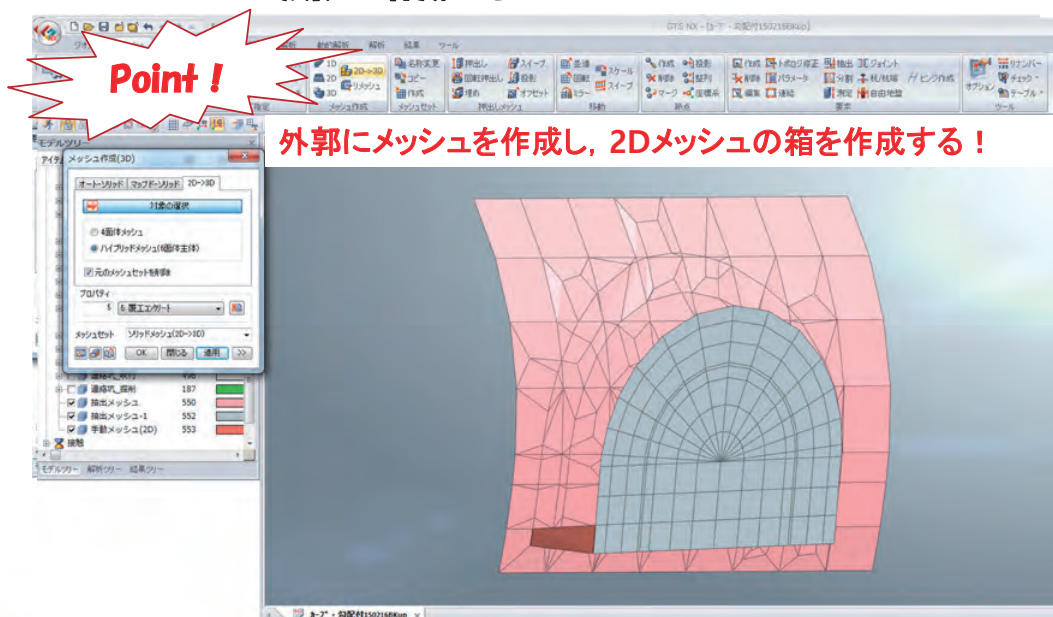
3Dメッシュから接続部の2Dメッシュを抽出する！
※メッシュ → 要素 → 抽出



避難連絡坑接続部

GTS NX 

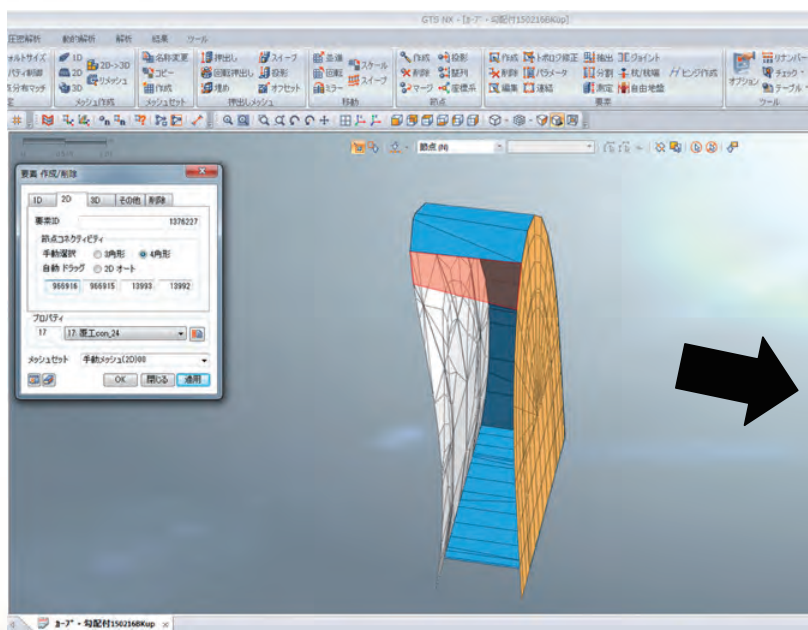
避難連絡坑の2Dメッシュと接続部の2Dを継ぐメッシュを作成する！
※メッシュ → 要素 → 作成 → 2D



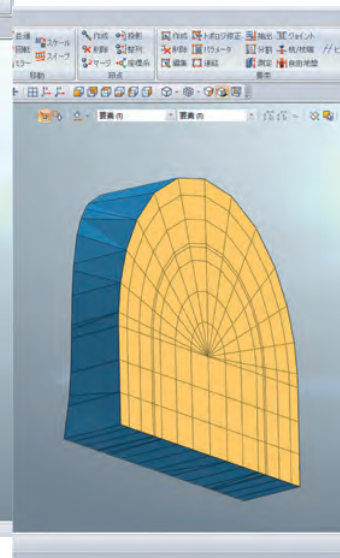
避難連絡坑接続部

GTS NX

箱形状の作成状況



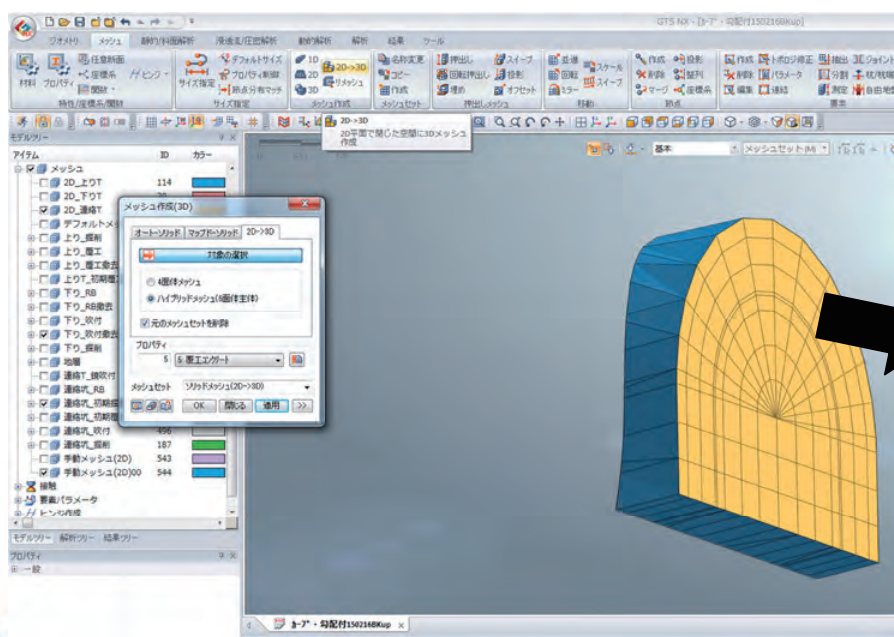
箱形状の作成完了



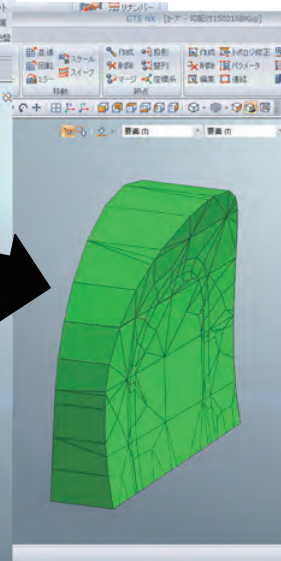
避難連絡坑接続部

GTS NX

箱の中を埋めてメッシュを作成！
※メッシュ → メッシュ作成 → “2D→3D”



メッシュ作成完了

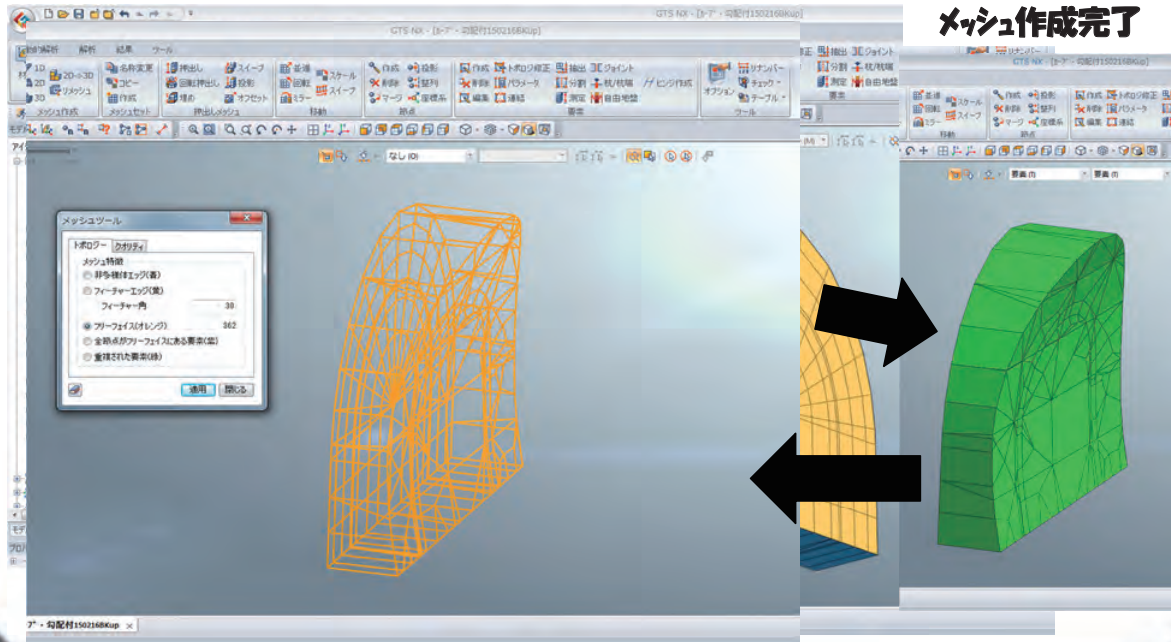


避難連絡坑接続部

GTS NX

重要:メッシュ作成後、フリーフェイスの有無のcheck!
※メッシュ → ツール → チェック → トポロジー

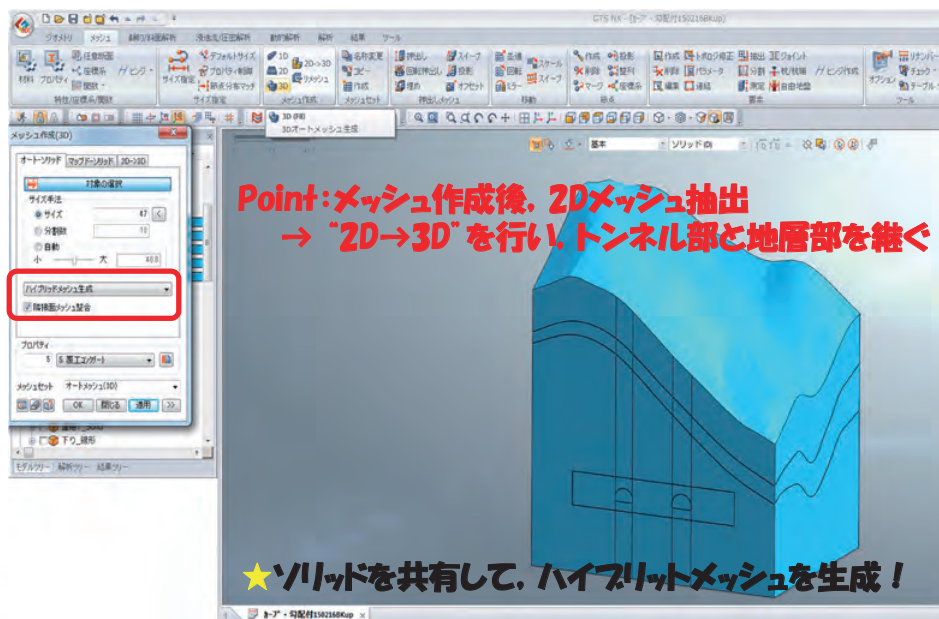
メッシュ作成完了



地層メッシュ

GTS NX

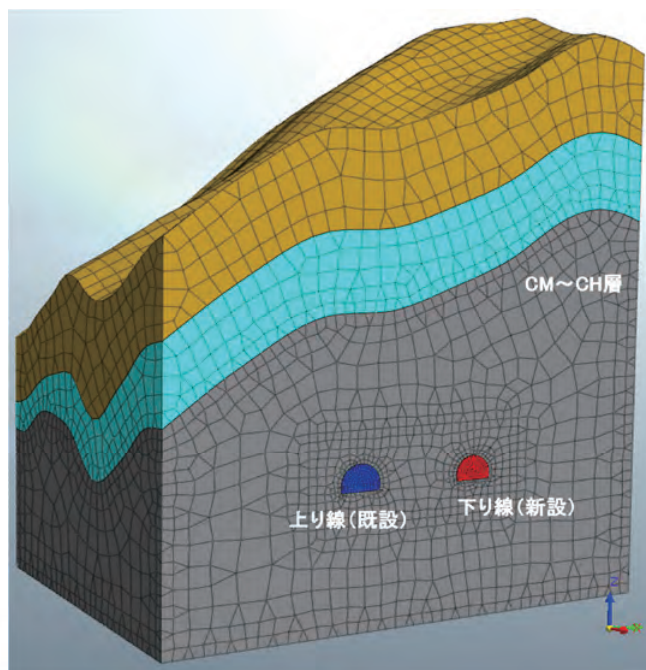
地層サーフェスをNX(地表面機能)または、AutoCadで作成
→ サーフェスを押出して地層毎にソリッドを作成!



解析モデル図

GTS NX

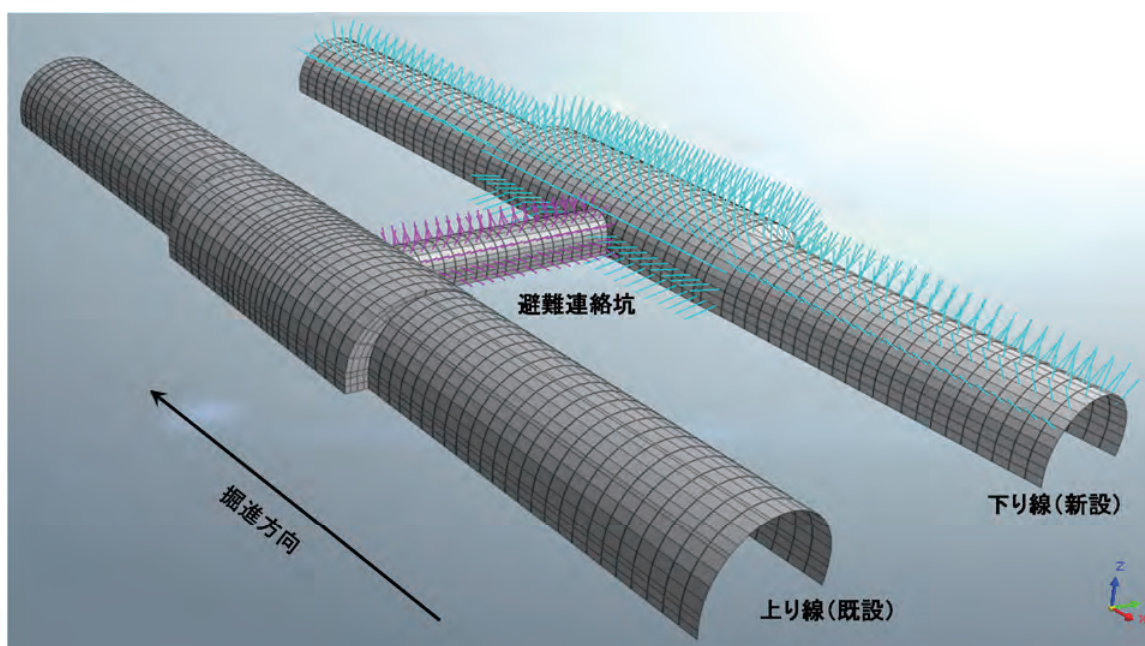
モデル全体図



解析モデル図

GTS NX

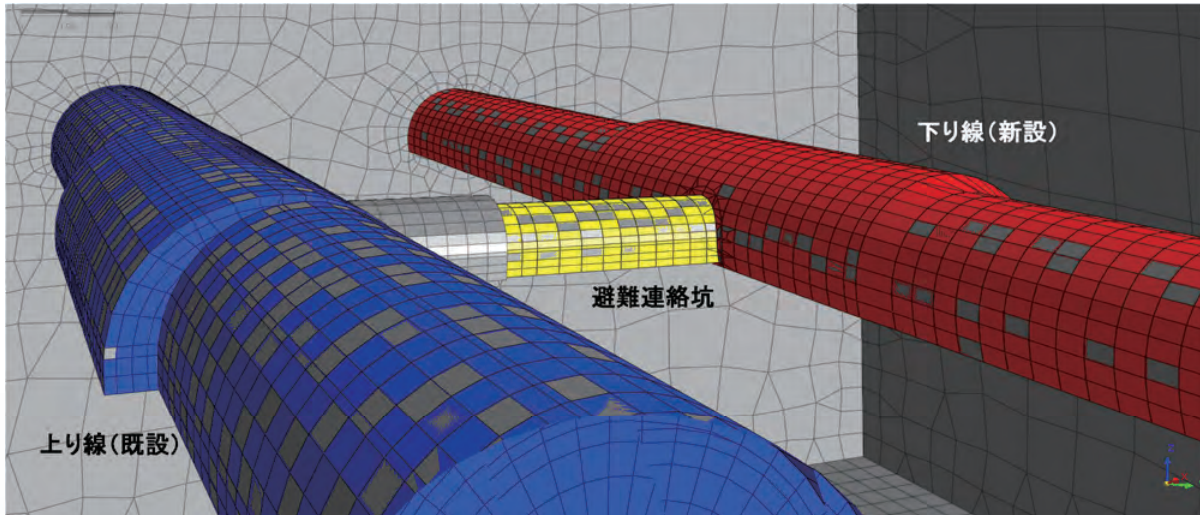
トンネル鳥瞰図



解析モデル図

GTS NX

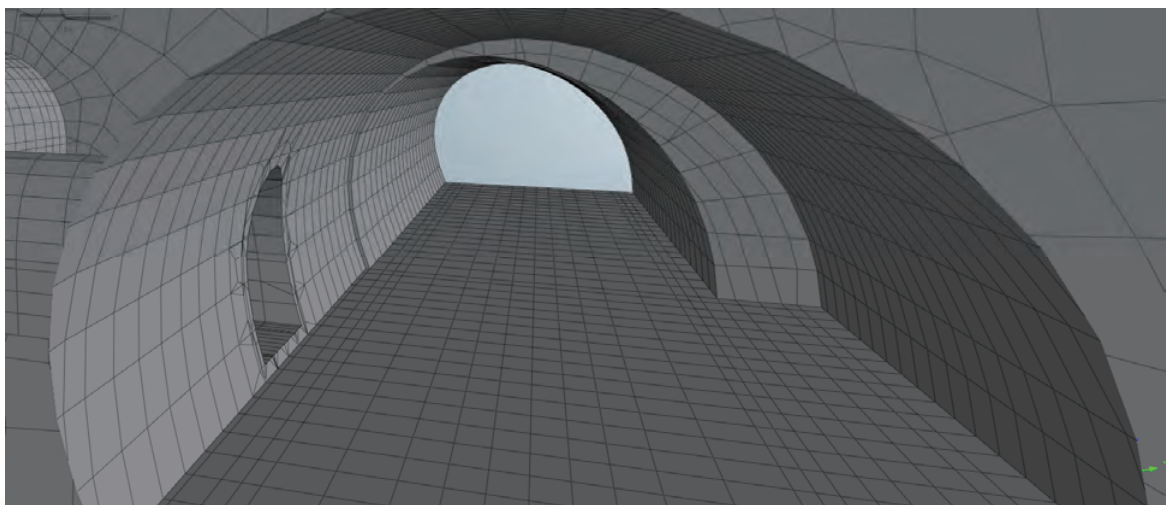
トンネルモデル(地層内部ビュー)



解析モデル図

GTS NX

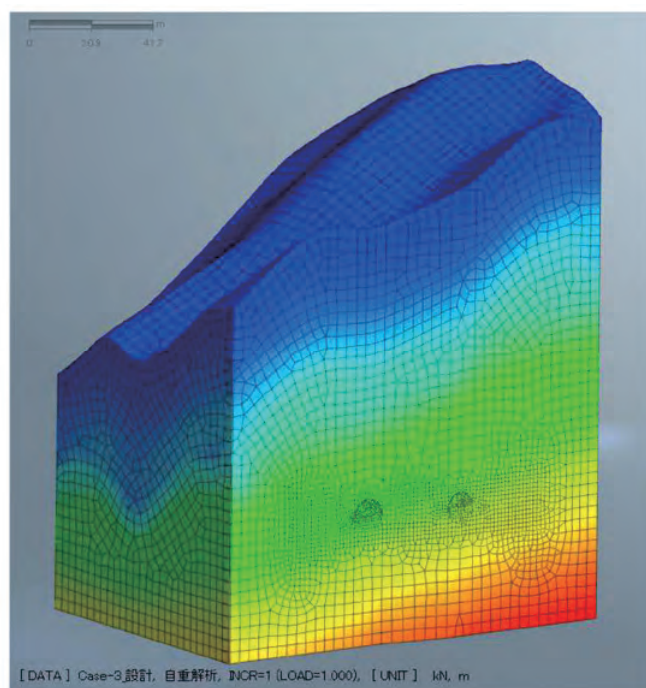
トンネル内部モデル



3.解析結果図

GTS NX

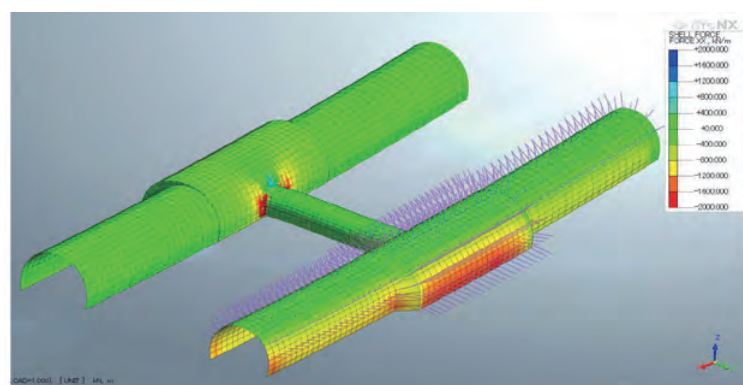
自重解析結果



3.解析結果図

GTS NX

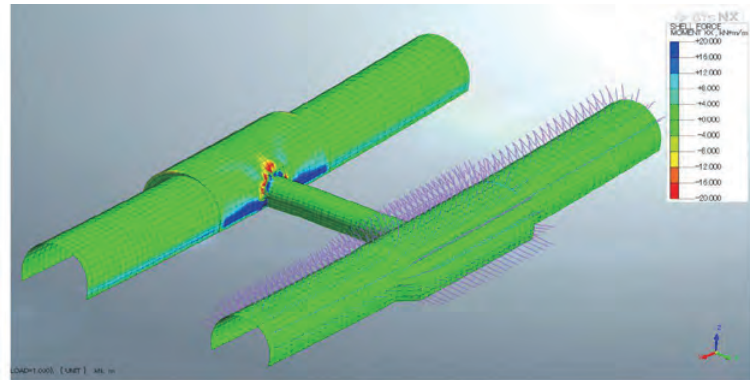
覆工コンクリート 軸力



3.解析結果図

GTS NX

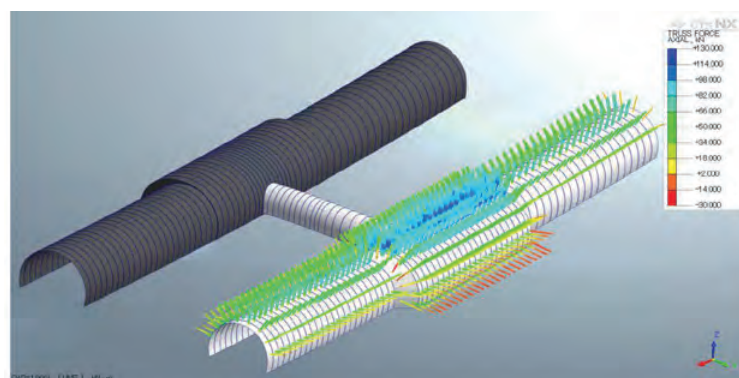
覆工コンクリート 曲げモーメント



3.解析結果図

GTS NX

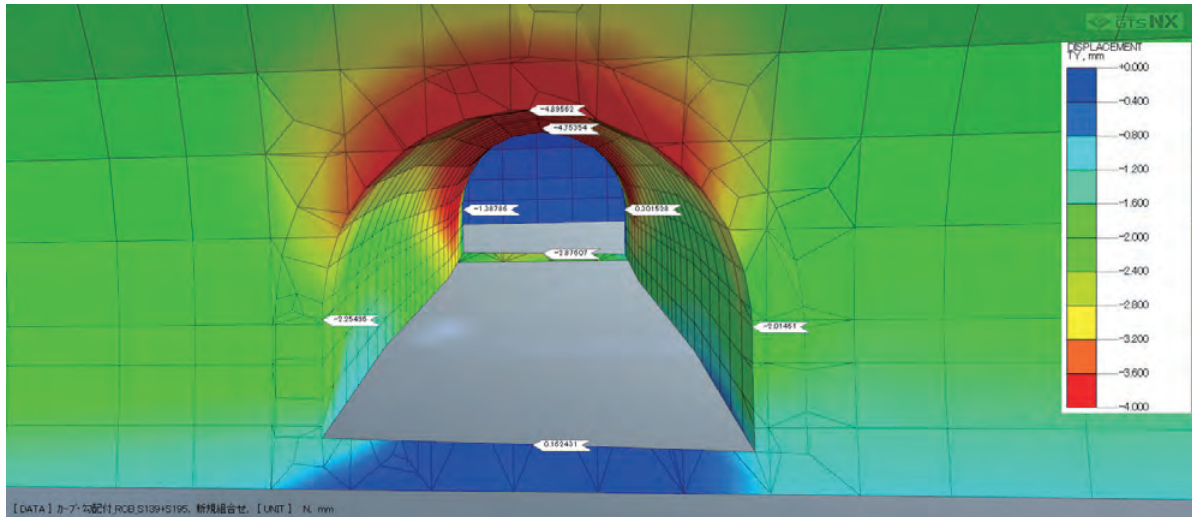
ロックボルト 軸力



3.解析結果図

GTS NX

避難連絡坑接続部の解析結果



ご清聴ありがとうございました



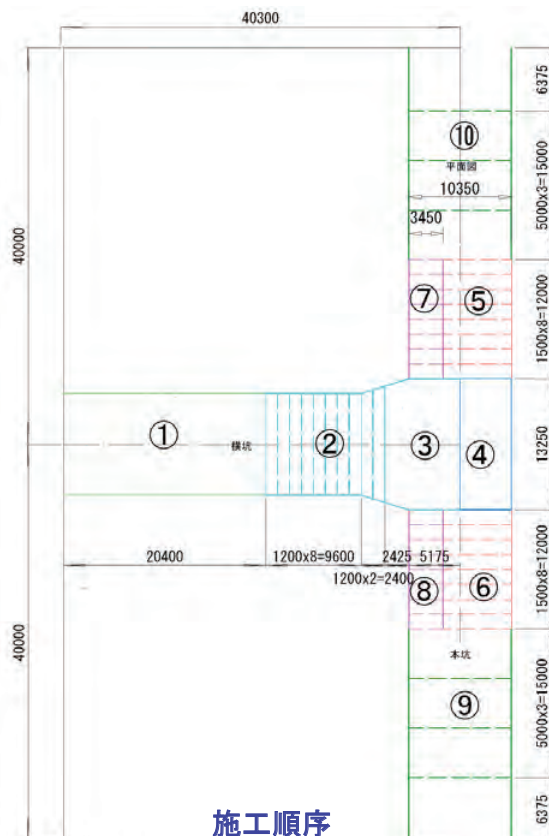
04 作業用横坑より本線トンネルを施工する際の施工過程の応力変形解析

株式会社クレアテック 鈴木 崇史 様

作業用横坑より本線トンネルを施工する際の 施工過程の応力変形解析

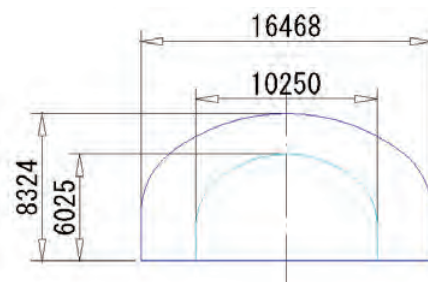
2015.6.16 GTSNXセミナー

解析モデル概要(1)

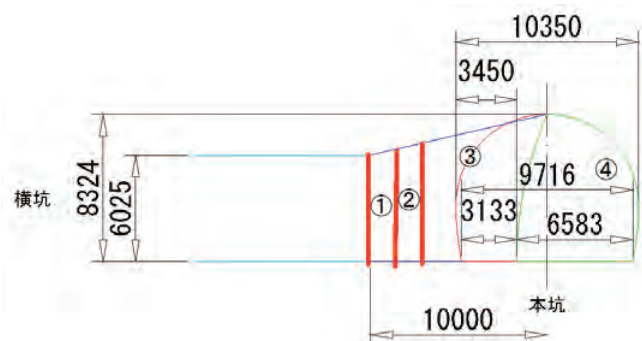


施工順序

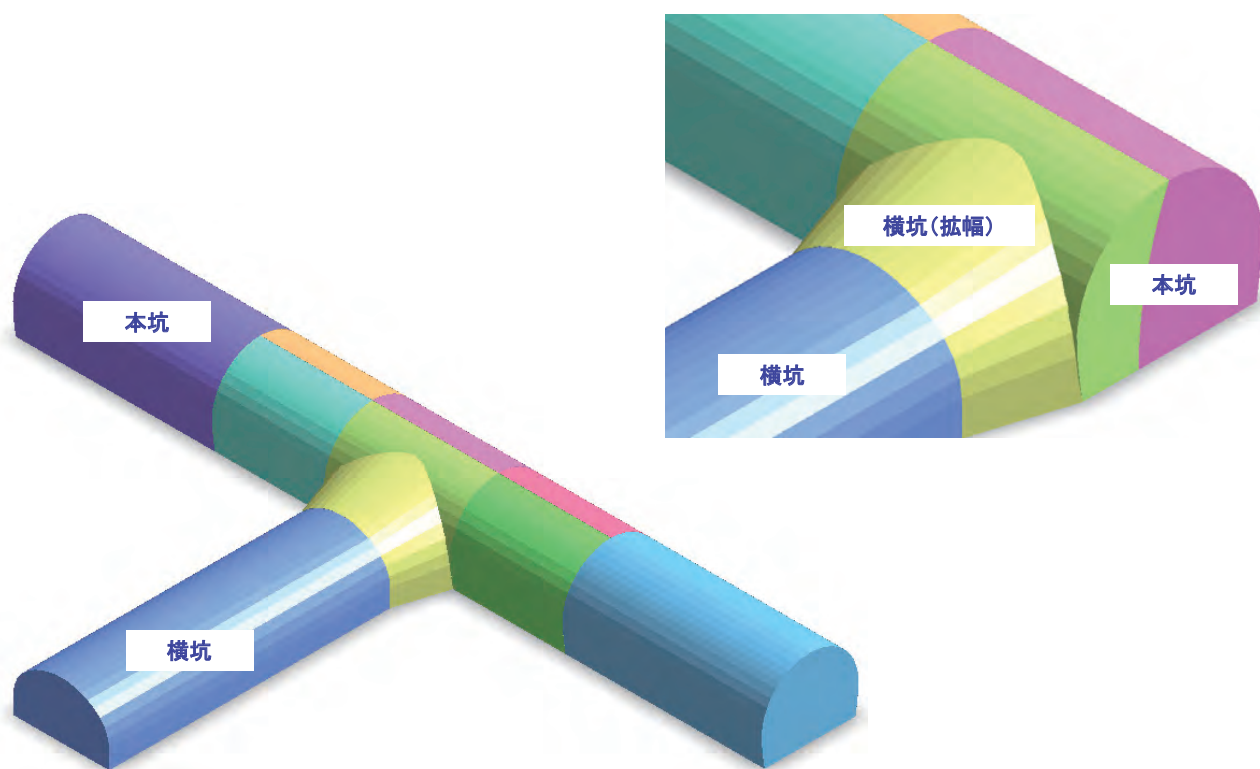
横坑断面



本坑断面



解析モデル概要(2)



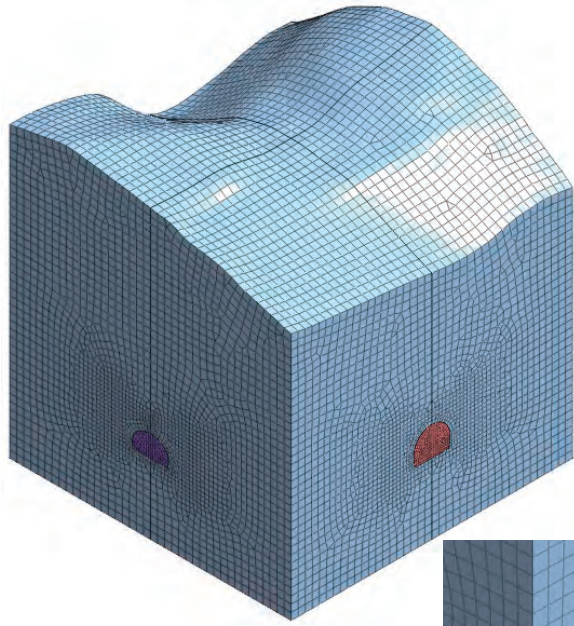
2

解析条件

- ・吹付コンクリートの応力の確認
→四角形の板要素でモデル化
(ハイブリッドメッシュを使用)
- ・ロックボルトの軸力の確認
→ロックボルトは埋め込みトラス要素でモデル化
- ・地表面形状はCADデータから座標値を抽出
→ポイントパッチかグリッドパッチで平面を作成
- ・地層構成は岩盤層の1層とする

3

解析モデル(全体モデル)



全体モデル

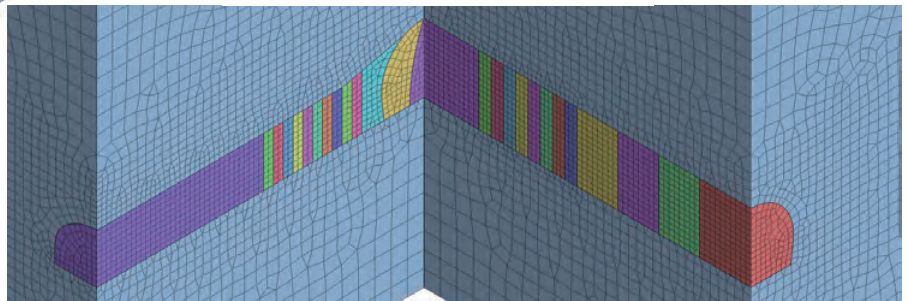
総節点数 : 184,890 節点

総要素数 : 283,464 要素

施工段階ステップ数 : 54ステップ

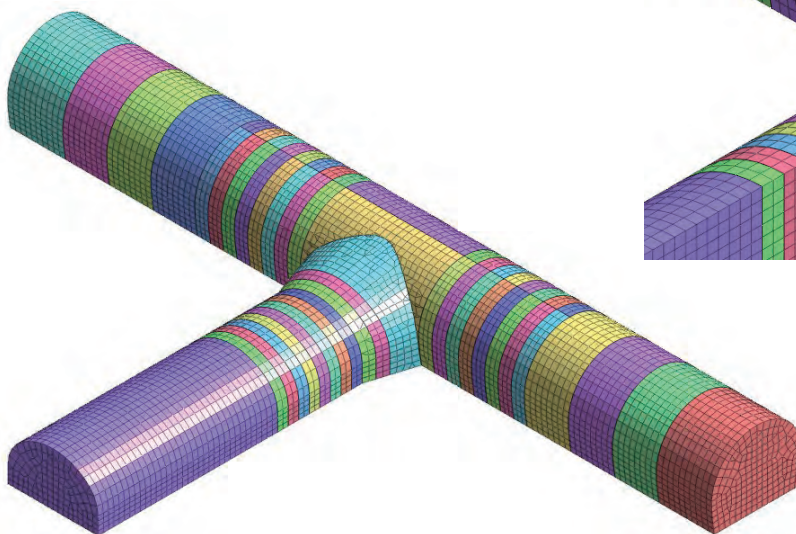
計算時間 : 245分

トンネル部

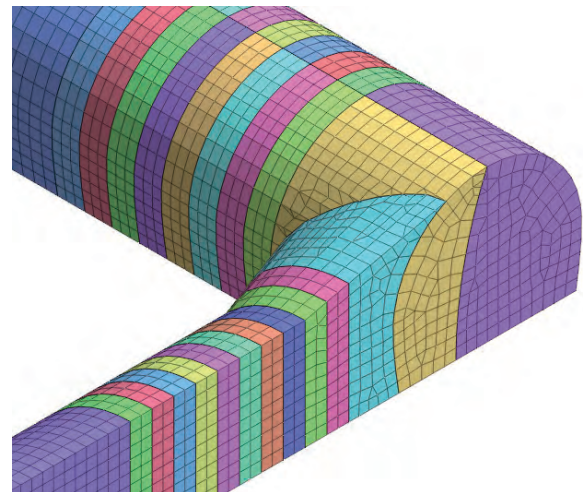


4

解析モデル(掘削部)



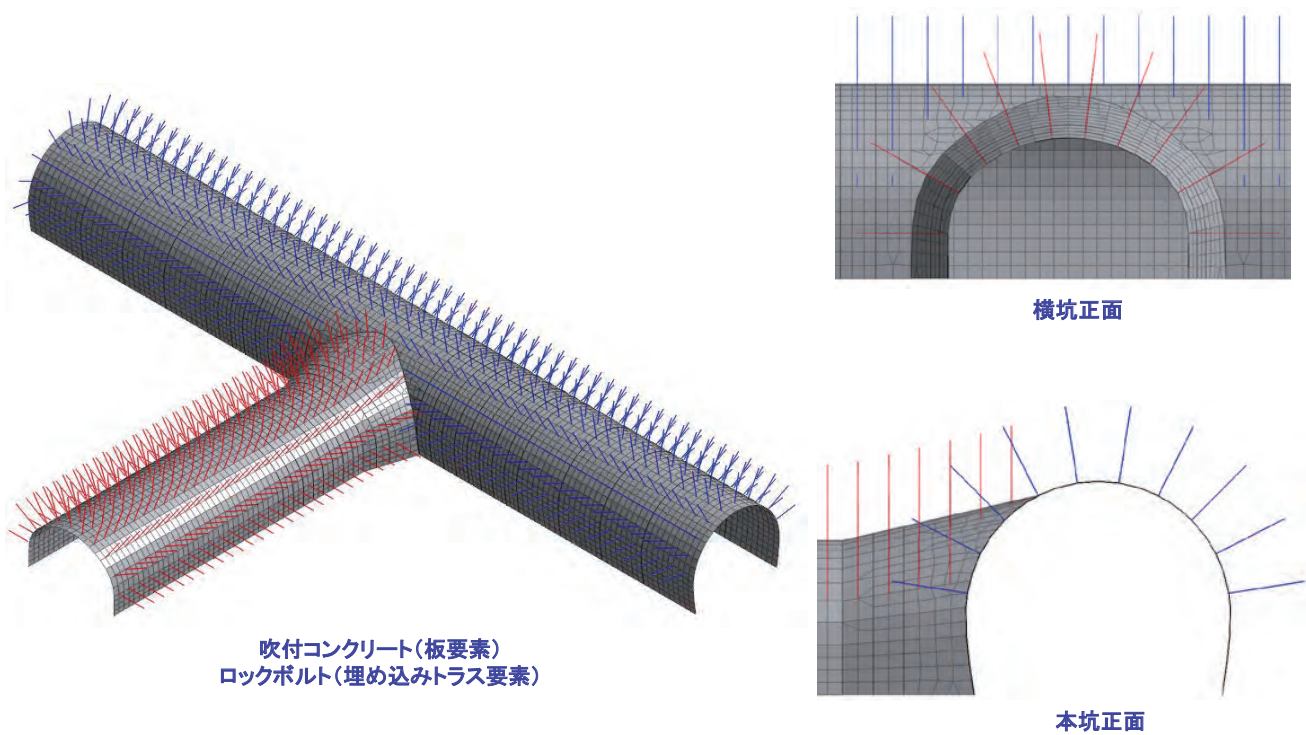
掘削部メッシュ形状



拡大表示(手前非表示)

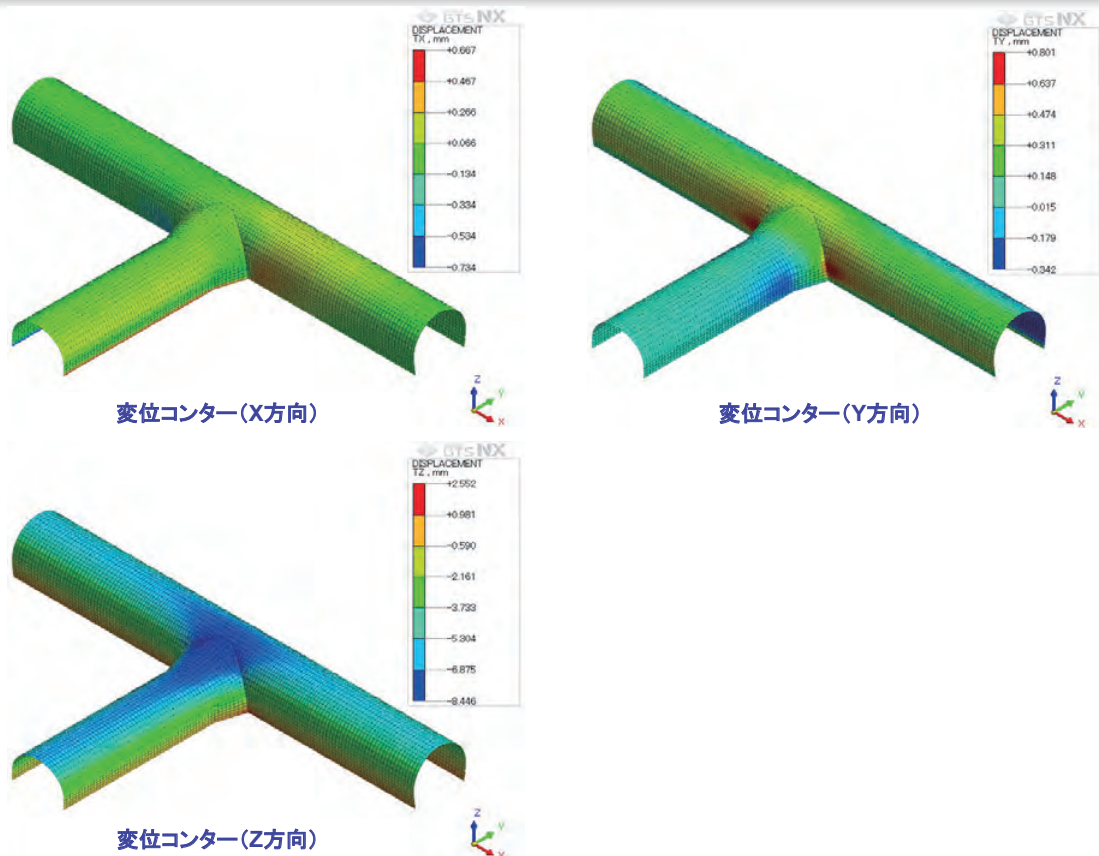
5

解析モデル(板要素, 埋め込みトラス要素)



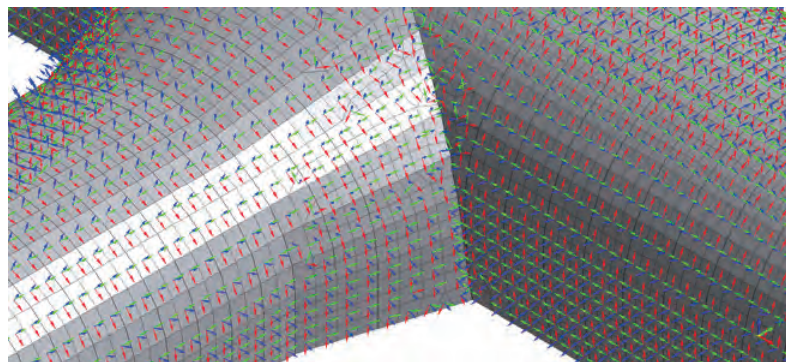
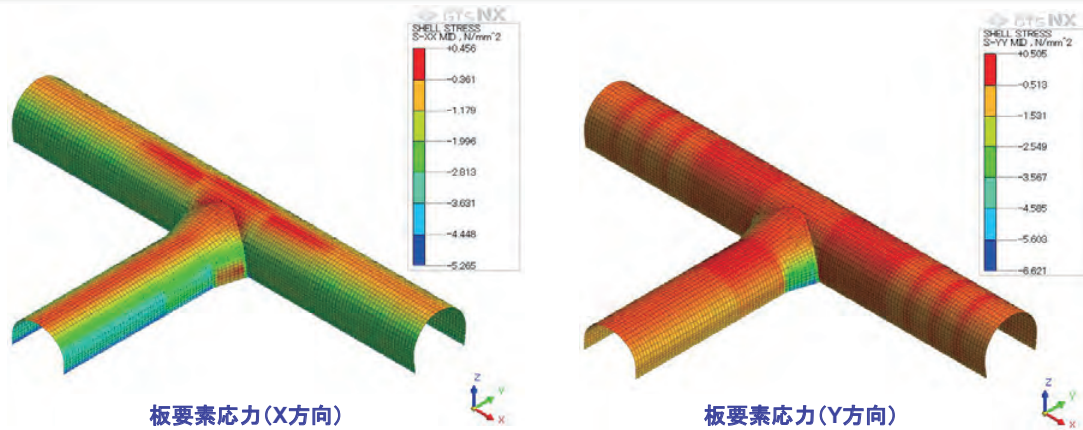
6

解析結果(変位コンター図)



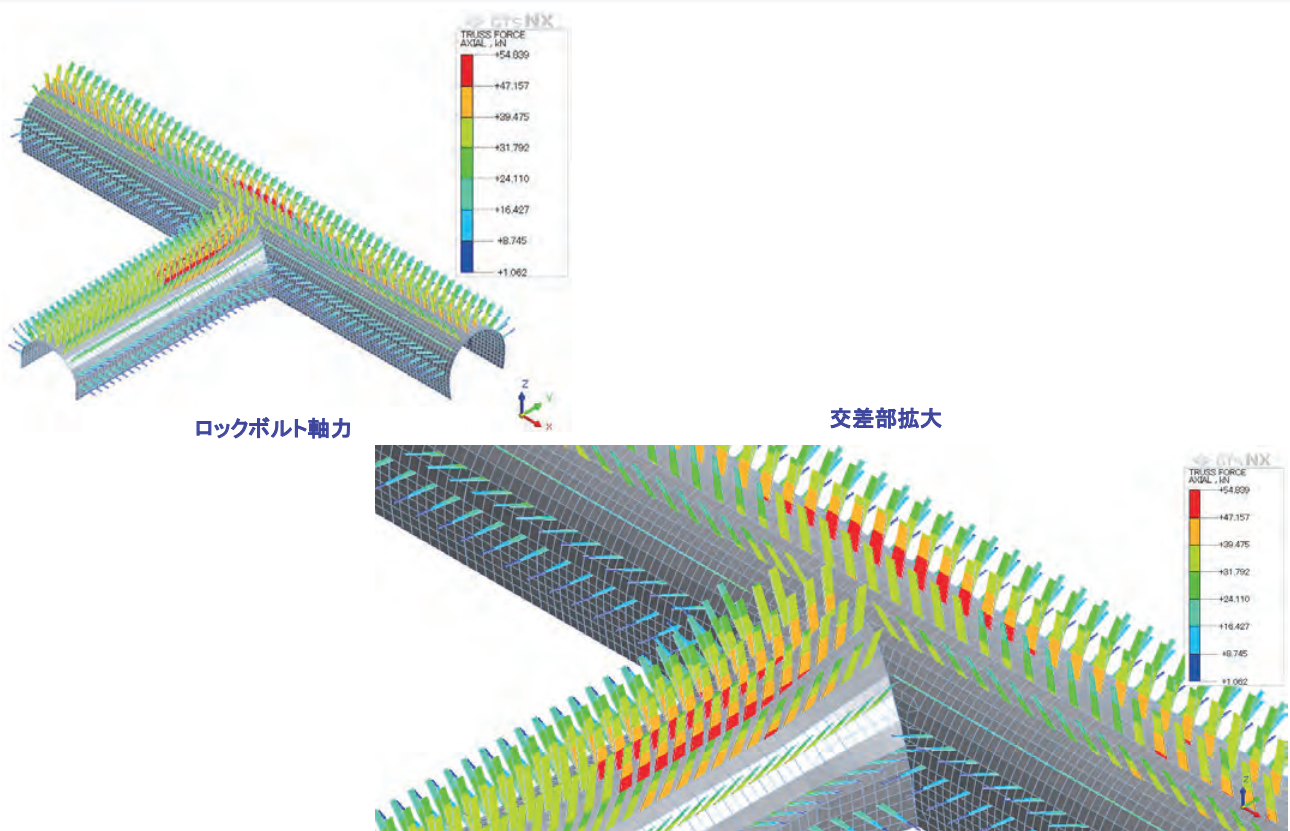
7

解析結果(板要素応力)



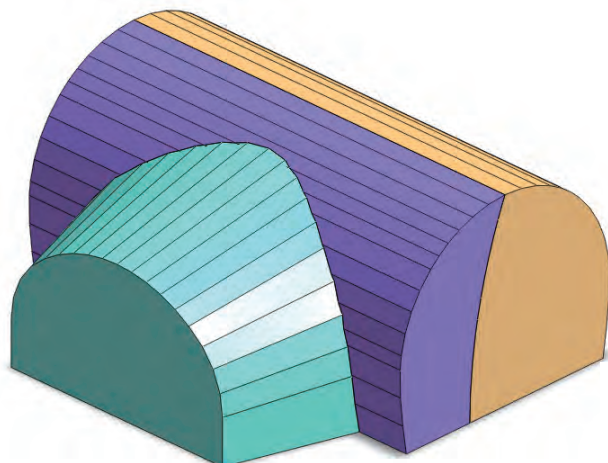
8

解析結果(ロックボルト軸力)



9

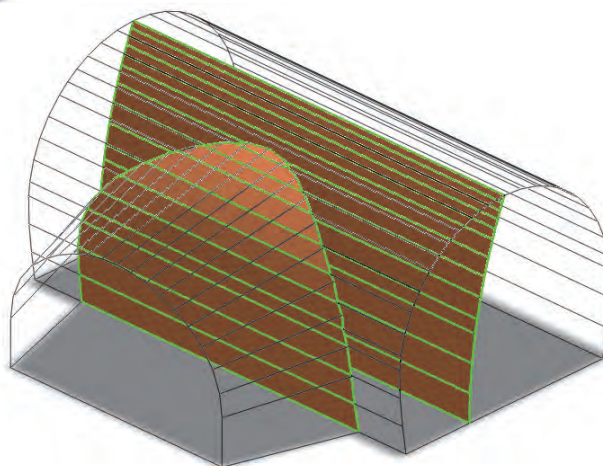
交差部モデル化



交差部のソリッド形状

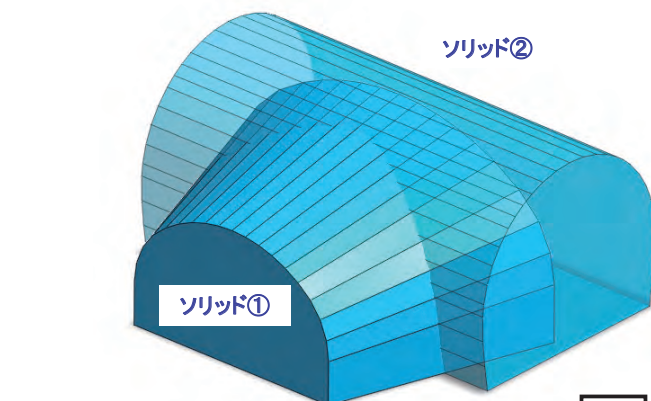
- ・横坑は拡幅しながら本坑にぶつかる形状である
- ・本坑は段階掘削のため2分割とする

ソリッドの境界で面を共有する必要がある

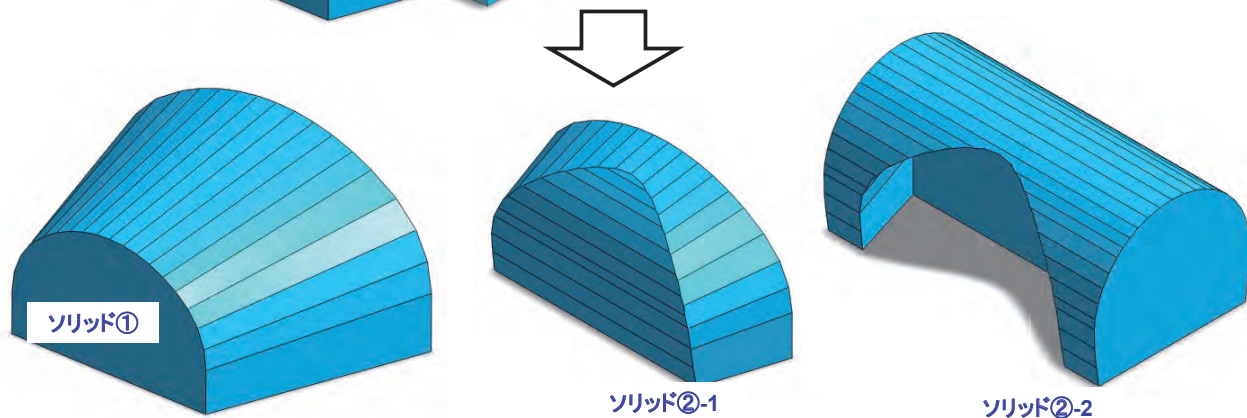
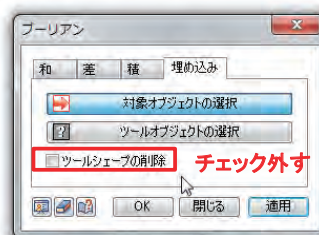


10

交差部モデル化(ソリッドの演算-埋め込み)

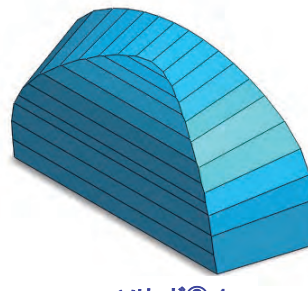
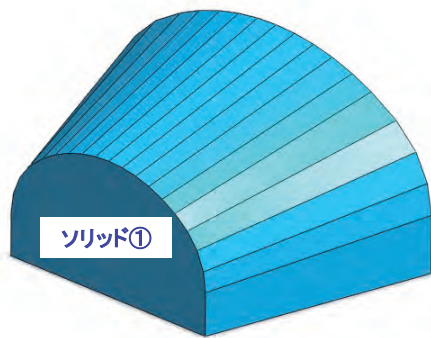


ソリッド②にソリッド①を埋め込む

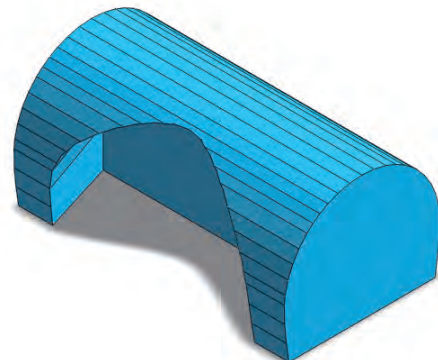
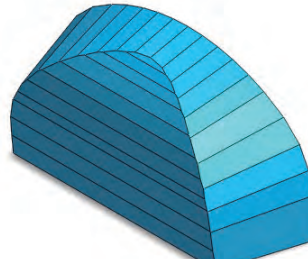
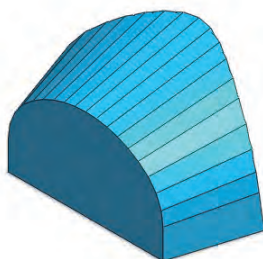
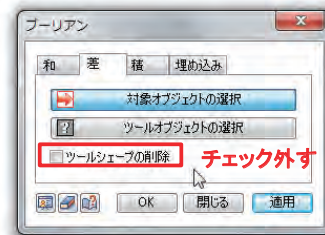


11

交差部モデル化(ソリッドの演算-差)

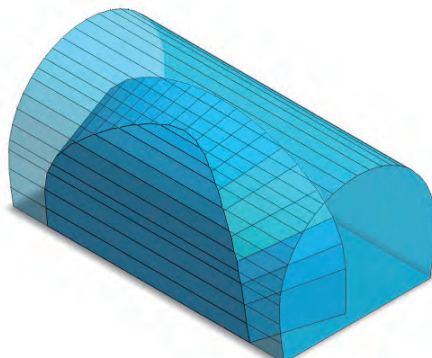


ソリッド①とソリッド②-1は重なっているためソリッド①からソリッド②-1を除く必要がある

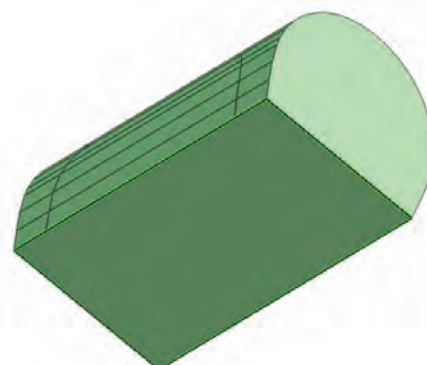
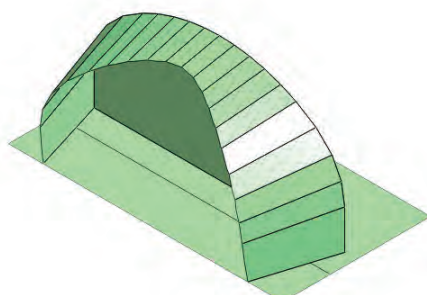
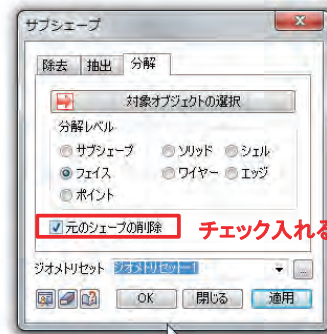


12

交差部モデル化(ソリッドの分解)

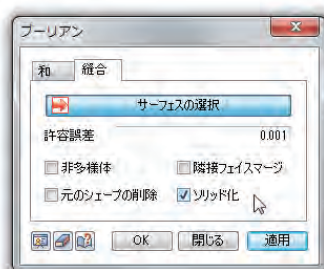


ソリッド②-1と②-2を分解してフェイスにする

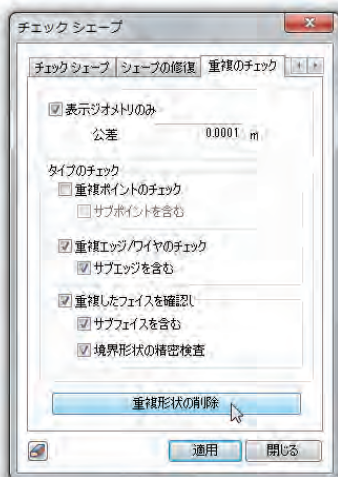
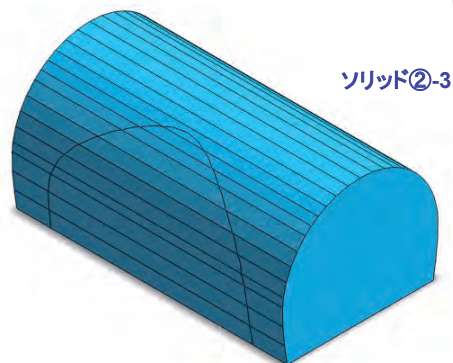


13

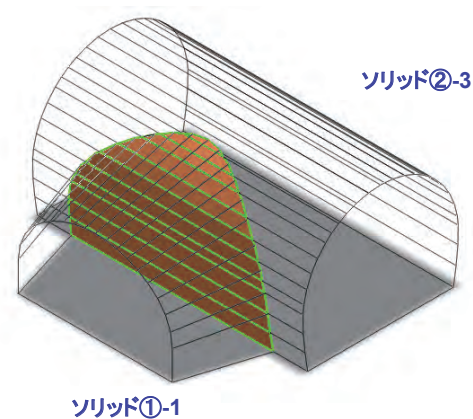
交差部モデル化(フェイス→ソリッド化)



閉じたフェイスを選択してソリッドを作成する



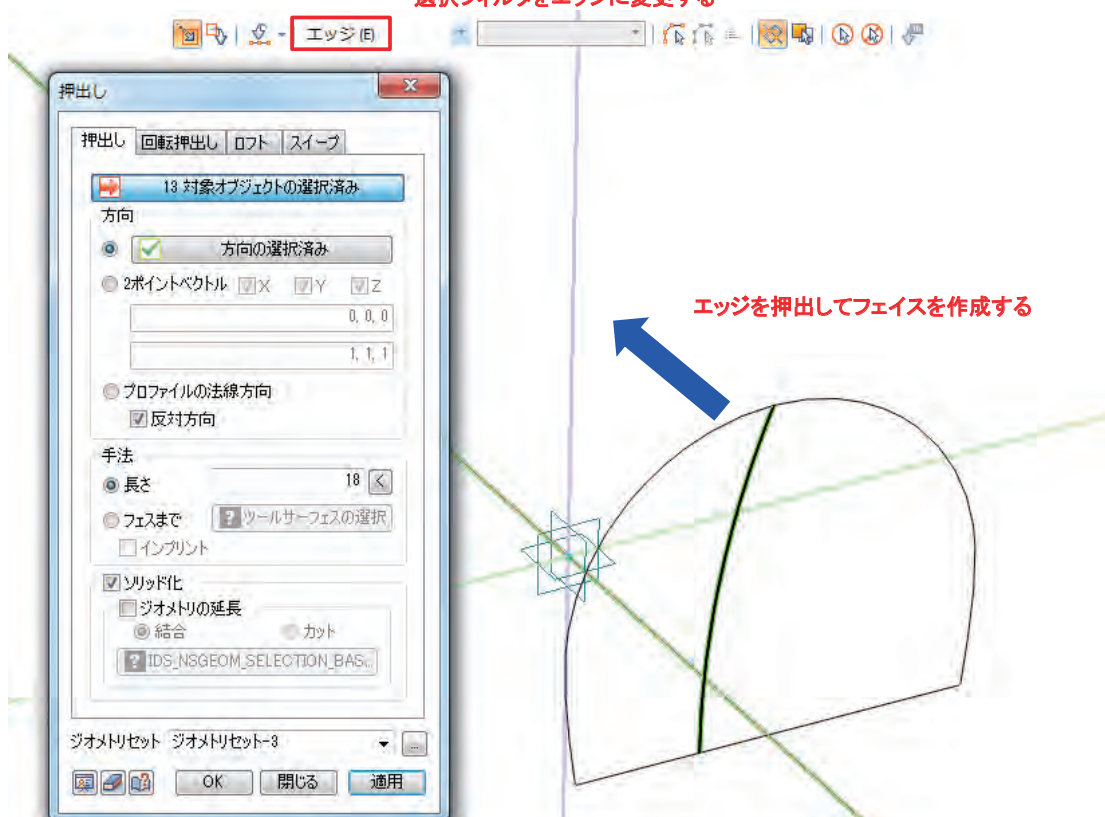
重複形状のチェックでソリッド間の面が共有していることを確認する



14

交差部モデル化(分割フェイス作成)

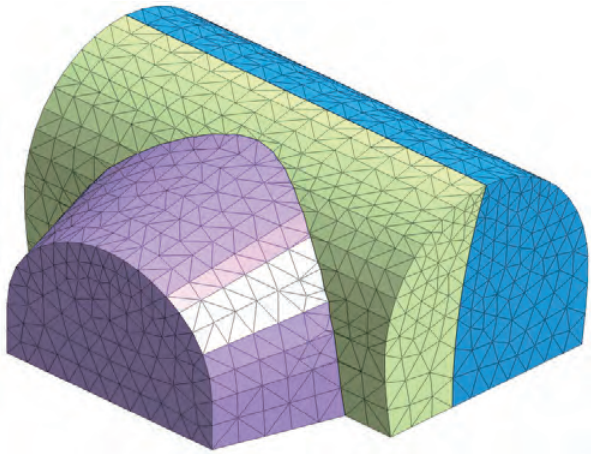
選択フィルタをエッジに変更する



エッジを押し出してフェイスを作成する

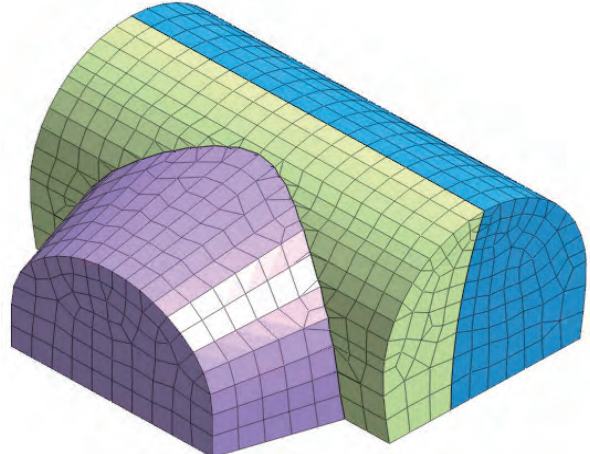
15

オートメッシュとハイブリッドメッシュ



オートメッシュで作成

すべて4面体(三角錐)で作成しているため
メッシュ表面はすべて三角形になる



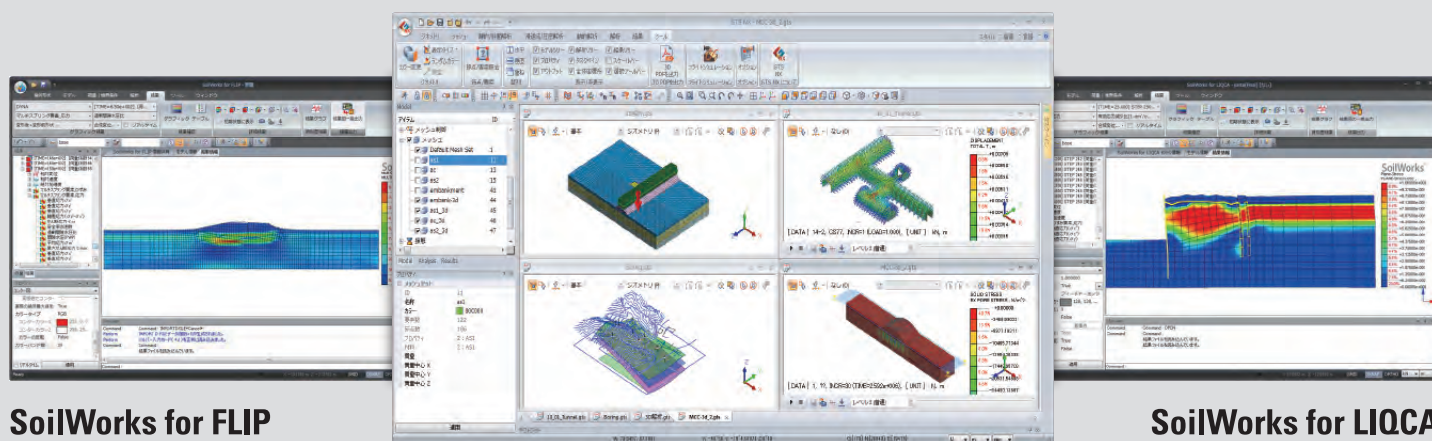
ハイブリッドメッシュで作成

6面体(直方体)を基本として4面体(三角
錐)やピラミッド型(四角錐), 5面体(三角
柱)で作成しているため表面はほとんど四角
形となる



MIDAS Total Solution

建設分野プログラム



SoilWorks for FLIP

FLIP専用のプリ・ポスト

SoilWorks for FLIPはFLIP「地震時の液状化による構造物被害予測プログラム」専用のプリ・ポストです。SoilWorksの操作性をそのまま継承しており、AutoCAD感覚でデータを作成することができます。データ作成後は、FLIPを起動させ計算を実行することもでき、FLIP解析のための統合された作業環境を提供します。

GTS NX

GTS NX - 地盤分野汎用解析システム

GTS NXは最先端PRE-Postと解析機能を搭載した新しい概念の地盤汎用解析プログラムです。GTS NXは最新のOS環境変化に合わせて64ビット、並列処理を適用した統合ソルバを搭載しており、初心者も使いやすいように直観的なリボンメニュー形式を用意しております。また、様々な解析機能、圧倒的に速い解析速度、優れているグラフィック表現および結果整理機能などを提供します。

SoilWorks for LIQCA

LIQCA専用のプリ・ポスト

SoilWorks for LIQCAはLIQCA専用のプリ・ポストです。SoilWorksの操作性をそのまま継承しており、AutoCAD感覚でデータを作成することができます。データ作成後は、LIQCAを起動させ計算を実行することもでき、LIQCA解析のための統合された作業環境を提供します。
※ LIQCAは1987年京都大学の岡 二三生教授をはじめとするLIQCA開発グループにより開発された有効応力に基づく液状化解析プログラムです。

MIDAS Family Programs

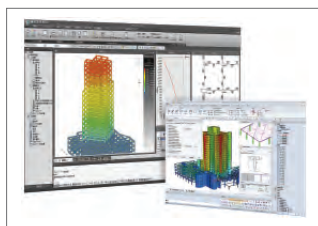
MIDAS 製品紹介

MIDAS Family Program は

最先端CAE(Computer Aided Engineering) ソリューションです。

建築

Building Engineering



midas iGen

建築分野の
汎用構造解析および
許容応力度計算

midas eGen

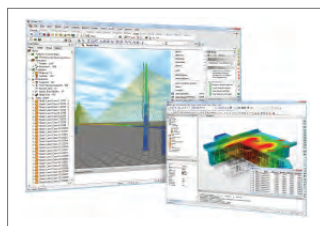
保有耐力自動計算+構造計画/
設計最適化システム
CAD 基盤モデリング

midas Drawing

世界初 2次元情報CADプログラム
構造図自動生成

土木

Bridge Engineering



midas Civil

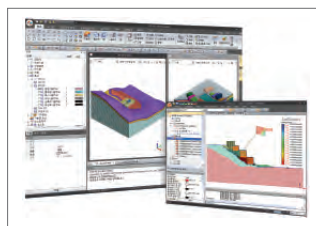
土木分野の
汎用構造解析および
最適設計システム

midas FEA

建設分野の
非線形解析および
詳細解析システム

地盤

Geotechnical Engineering



SoilWorks

2次元地盤汎用解析/設計
プログラム

SoilWorks for FLIP

液状化解析プログラム
FLIP用のプリ・ポスト

SoilWorks for LIQCA

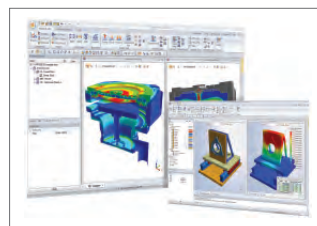
液状化解析プログラム
LIQCA用のプリ・ポスト

GTS NX

2次・3次元地盤汎用解析
プログラム

機械

Mechanical Engineering



midas NFX

機械分野の
汎用構造解析システム

midas FX+

有限要素解析汎用の
プリ・ポスト処理プログラム

MIDAS トンネル 開削分野

Change is Chance



株式会社マイダスイティジャパン

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-3-1 秋葉原OSビル7F

TEL 03-5817-0787 | FAX 03-5817-0784 | e-mail g.support@midasit.com

Copyright© Since 1989 MIDAS Information Technology Co., Ltd. All rights reserved.

<http://jp.midasuser.com/geotech>